

聖徒の道

8
1998

末日聖徒イエス・キリスト教会



聖徒の道



表紙

シャノン・ウォーカー（表紙）とハンター・ラフシングは、奉仕活動を通じて人々を助けることに時間と活力をささげる多くの末日聖徒を具現している。「奉仕にささげる土曜日」10ページ参照。写真/ジャネット・トーマス

こどものページ

ヤニナ・ラステリとマリアネラ・サルガドはアルゼンチンのゴドイクルスに住んでいます。二人とも友達から教会について尋ねられたら、いつでもちゃんと答えられます。「小さな宣教師」10ページ参照。

一般

- 2 大管長会メッセージ——^{おきたこ}幼子の信仰
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 7 エベリン・ペレス 忍耐は実りをもたらす ティエリー・クルーシー
- 14 違いを生み出すのはあなた——^{ほらから}「同胞のために務める」
- 16 生ける預言者の言葉
- 18 あなたは^{かんいん}姦淫してはならない W・ジェフリー・マーシュ
- 24 ありがとう、ノラ！ アルバ・ステラ・カニャベラル・ブランドン
- 25 家庭訪問メッセージ——善を行うように^{みたま}導く御霊
- 30 美しい島、バハマの開拓者たち ジャネット・トーマス
- 44 「きてごらんさい」 十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホルランド

青少年

- 10 奉仕にささげる土曜日 ジャナ・ニールセン
- 26 質議応答——どうしたら自分の家庭をもっと幸せで霊的なところにする
ことができるでしょうか。
- 36 パラダイスを見いだす リサ・M・グローバー
- 40 真の勝利
- 42 自尊心を高める
- 43 間違った第一印象 オマール・アブラハム・アハメド・チャベス

こどものページ

- 2 ^{ちい}小さなお友だちへ——^{とら}ジャック・H・ゴズリンド^{ちやうろう}長老
- 4 ^{わかちあ}分かち合いの^{じかん}時間——しゅのいましめをまもる シドニー・レイノルズ
- 6 クリッシーの^{うた}歌 ハイジ・クラム^{さく}作
- 8 ^{しんこう}信仰^{かじょう}箇条——^あカード合わせ コーリス・クレートン
- 10 イエスのように——^{ちい}小さな^{せんきょうし}宣教師
ディエーン・ウォーカー
- 12 ^{しんこう}信仰の^{ひと}人、ヨシヤ ビビアン・ポールセン
- 14 「^{おつ}落ち着いた^なさい」 ジョブ・アブラム・ゴールドラ
ップがレイ・ゴールドラップに^{かな}話した^{はなし}話



10ページ参照



40ページ参照



36ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の日本語版公式刊行物です。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・バッカー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長：ジャック・H・ゴースリンド
顧問：ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画：編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド
工程管理：ベス・デーリー
出版補佐：コニー・シェークスピア

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・バン・カンペン
デザイナー主任：シエリー・クック
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、ジェーン・L・マンフォード、タッド・R・ピーターソン
デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン
予約購読スタッフ
ディレクター：ケイ・W・ブリッグス
配送部長：クリス・クリステンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

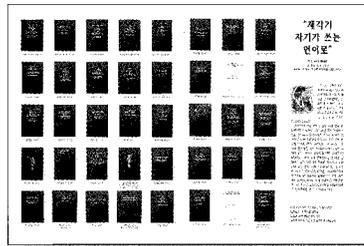
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines August.
1998. Japanese. 98988 300

August 1998 no. 8. SEITO NO MICHU (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both old and new address are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



『モルモン書』がもたらす強さ

1997年6月号『ソンドエボ』(韓国語版。「聖徒の友」の意)の記事「自分の言語で」を読んで涙があふれました。様々な言語で出版された『モルモン書』の写真を眺めていると世界中のいろいろな国を旅して得た証を思い出しました。

わたしはこれまで、ヨーロッパとアジアのたくさんの国々を訪れ、神殿に参入したり教会の集会に集ったりすることができました。そして時折、これらの国々の会員たちからその国の言語で書かれた『モルモン書』を頂きました。

落ち込んだときなどは、よく他国で会った教会員のことを考えます。また『モルモン書』に対して同じ証を持っているおかげで感じられる彼らとの一体感を思い起こします。どの言語で読もうと『モルモン書』はわたしたちすべてに強さをもたらししてくれるのです。

韓国、水原ステーキ、烏山ワード
柳 美英

世界へのメッセージ

専任宣教師であるわたしは、『リアホナ』(スペイン語版)を読み、ほかの人にプレゼントする機会に恵まれています。

あるとき同僚とわたしのところへ、一人の若い男性が近づいて来て、こう尋ねました。「読み終わった『リアホナ』があれば、頂けませんか。」そしてリアホナを読むのが好きなのは、この機関誌に掲載される経験談や勧告から多くを学べるからだと説明してくれました。

この若い男性のために『リアホナ』

を取りに行く前に、その男性に「どのワードに所属していますか」と尋ねてみました。返事はこうでした。「会員ではないのですが、だいぶ前から『リアホナ』を読んでいるんです。これまで、支部の会員たちから『リアホナ』をもらってきました。」わたしたちは「もっと教会について知りたいですか」と尋ねました。こうして、彼はわたしたち宣教師から福音を学び、やがてバプテスマを受けたのです。

この新しい改宗者は『リアホナ』を読み続けています。なぜなら、彼が言うように、預言者の言葉は「ほんとうにわたしたちの生活に役立つ」からです。『リアホナ』のメッセージは教会員だけではなく、あらゆる人に当てはまります。

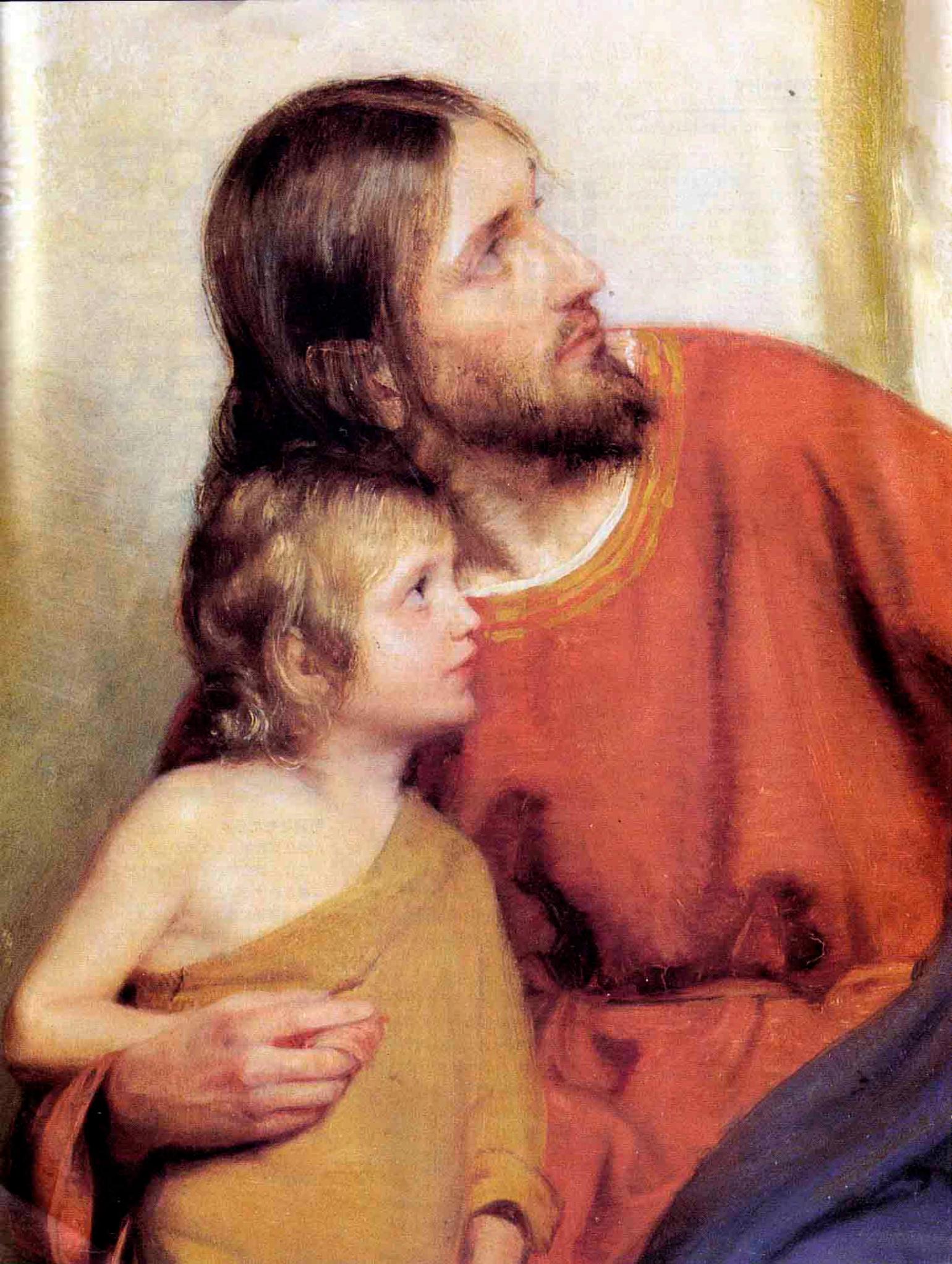
メキシコ、グアダハラハラ伝道部
モクテスマ・メサ長老



希望をもたらす

専任宣教師としてのわたしの務めの一つは、教会であまり活発でない会員に働きかけることです。わたしと同僚はこの責任に熱心に取り組みました。そんなとき、1997年8月号の『リアホナ』(スペイン語版)の「群れに戻る」という記事に出会いました。その記事のおかげで、主がわたしたちに何をするように望んでいらっしゃるかをよく理解できました。それは、福音の祝福をまだ完全に享受していない兄弟姉妹に、希望を与えることなのです。

ベネズエラ、バルセロナ伝道部
ロドリゲス・H長老



おさなご 幼子の信仰

第一副管長
トーマス・S・モンソン

大会の時節は、1年のうちでも何とすばらしいときでしょうか。ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアは、主の言葉を聞くために遠くからやって来る何千何万の人々の集合場所となります。タバナクルには、あふれんばかりの人が集まります。懐かしげな会話が合唱団の歌と祈りと、説教を述べる人の声に変わると、美しい敬虔な雰囲気^{けいけん}が場内を満たします。こうして総大会が始まるのです。

わたしは話者として、皆さんの親しみのこもった顔を見、そこに現れる真理への信仰と献身を感じる度に、へりくだる思いを覚えます。

あるとき、わたしが大会の会衆にお話するために壇上に立っていると、北側の2階席に、10歳くらいのかわいい少女が目にとまりました。そして、その少女に向けて話をすべきだという思いに駆られ、話し始めました。

わたしは、幼くかわいいあなたの名前もどこから来たのかも分かりません。ただ、このことだけは分かります。つまり、その汚れない笑顔と優しいまなざしがわたしに、特にあなたに向けて話をするよう促しているということです。

わたしがあなたくらいの歳の少年であったころ、わたしにも日曜学校の教師がいました。彼女はよく『聖書』から、世の救い主、贖^{あがな}い主であるイエスの話を読んでくれました。ある日、彼女は、小さな子供たちがイエスの前に連れて来られたことについて教えてくれました。手を置いて祈ってもらった



その言葉は短く、日ごろ聞き慣れたこの言葉でした。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。」

めでした。イエスの弟子たちは子供を連れて来た人々をいさめました。「それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、『幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。』」

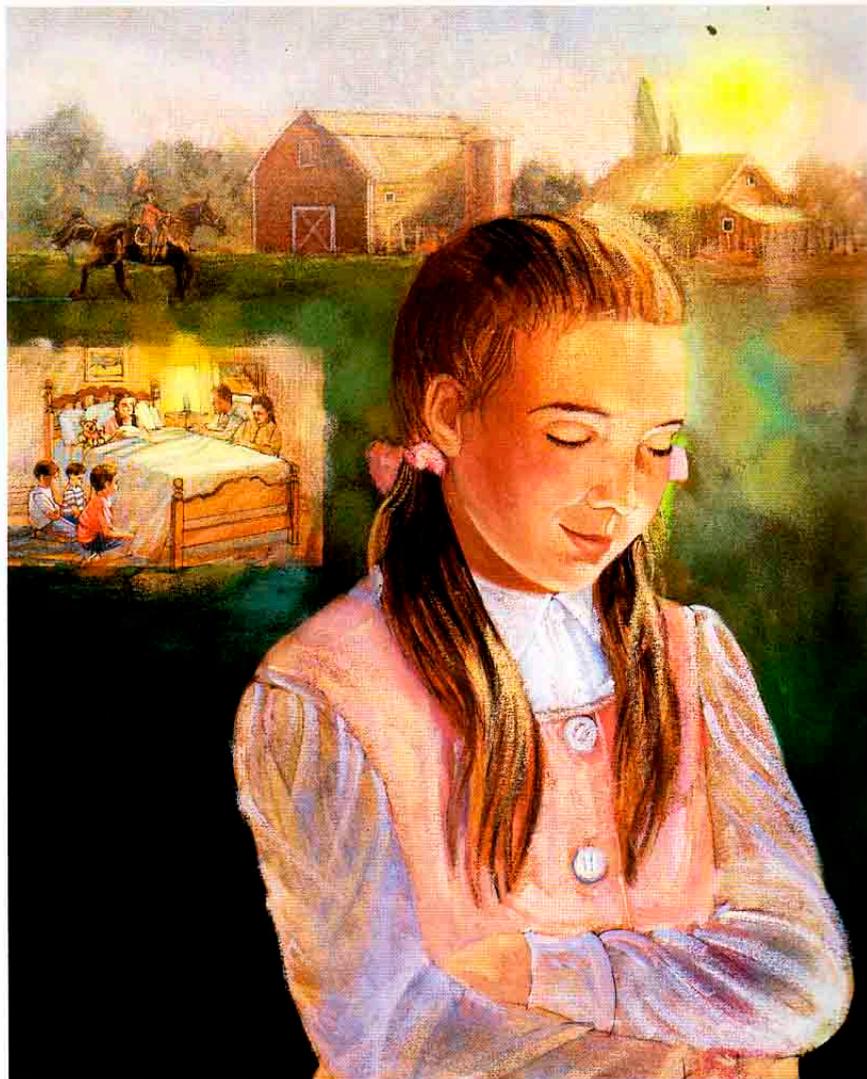
そのときのレッスンは、以来ずっとわたしの胸から離れません。何年も前のことになりますが、わたしはその意味を再確認し、その力にあずかりました。そのときの経験をお話したいと思います。

ソルトレーク・シティーのはるか遠く、ルイジアナ州シュリブポートから130キロほどの所に、ジャック・メスビン家族が住んでいました。両親も子供たちも皆、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です。愛らしい娘さんがいて、家中を明るくしていました。クリスタルという名でした。しかし彼女はわずか10歳でこの世の生涯を閉じたのです。

クリスタルは家の周りの広々とした農場を駆け回るのが好きでした。

乗馬が得意で、4Hワーク（訳注——合衆国農務省が設けた、子供や若人の技能向上と情緒の発達を目的とした組織）の成績も優れ、その地方や州の博覧会で賞をもらっていました。彼女の将来はまさにばら色で、楽しい毎日を過ごしていました。ところがそんなときに、足に異様なはれ物が見つかりました。ニューオーリンズの専門医は診察の結果、癌腫がんしゅという診断を下し、足を切断しなければなりませんでした。

彼女は手術によって回復し、いつも陽気に、不平を言わず毎日を過ごしていました。しかしそれから、医師たちは、癌が小さな肺に移転しているのを発見しました。クリスタルの病状は悪化し、死が近づいていました。しかし彼女の信仰はぐらつきませんでした。彼女は両親にこう言いました。「ステーキ大会の管理を割り当てられ



絵／ラリー・ウィンボク

ルイジアナ州シュリブポートから130キロほどの所に、ジャック・メスビン家族が住んでいました。愛らしい娘さんがいて、家中を明るくしていました。クリスタルという名でした。

た人がだれだとしても、わたしに祝福してくださるわよね」と。

その間にソルトレーク・シティーでは、シュリブポートでの出来事はまるで知らないまま、珍しいことが起きていました。ルイジアナ州シュリブポートでステーキ大会が行われる週に、わたしはテキサス州のエルパソへ行く責任を受けていました。ところが、当時十二使徒定員会会長だったエズラ・タフト・ベンソン長老の事務所へ呼び出しがありました。エルパソのステーキの分割はすでにほかの中央幹部が準備しているので、わたしにほかの所へ行ってはもらえないか、とのことでした。もちろん異論はありません。わたしはどこでもよかったのです。ベンソン長老はこう言いました。「モンソン兄弟、ルイジアナのシュリブポートステーキへ行ってしまうと思

のですが。]

わたしはその責任を引き受けました。やがてその日が来て、わたしはシュリブポートに到着しました。

土曜日の午後は集会在幾つもありました。ステーキ会長会との会合、神権指導者たちとの集会、祝福師との面接、そしてステーキの指導者会があったのです。そこへステーキ会長のチャールズ・F・ケグル兄弟が少々遠慮がちに、癌で病んでいる10歳の少女を祝福する時間があるだろうか、尋ねてきました。少女の名前は、クリスタル・メスビンでした。わたしは、できれば祝福したいと答え、「彼女は大会に来るでしょうか、それともシュリブポートの病院にいますでしょうか」と尋ねました。スケジュールが詰まっているのを重々承知していたケグルステーキ会長は、消え入るような声で、「クリスタルは家から外に出られないのです」と返事しました。シュリブポートからはかなり遠くに住んでいました。

わたしはその晩と翌日の集会予定と、帰りの飛行機便も調べてみましたが、時間はまったくありませんでした。するとそのとき、別の方法が頭に浮かびました。「大会の公の祈りでその子のために祈れないものか。主は必ず分かってくださるはずだ」と。そういうことにして、わたしたちは予定の集會をそのまま続けました。

そのことがメスビン家に伝えられました。彼らは、事情を理解してくれたものの、落胆の色は隠せませんでした。家族はもう一度熱心に祈りました。「最後の願いを聞いてください。大事なクリスタルの願いを聞き届けてください」と。

メスビン家の人たちがひざまずいて祈ったちょうどそのとき、ステーキの時計は7時45分を指していました。土曜日の指導者会は靈的なものでした。わたしはメモを整理しながら、説教壇に立つ用意をしていました。すると、わたしの靈に語りかける声が聞こえてきたのです。その言葉は短く、日ごろ聞き慣れたこの言葉でした。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。」メモを見る目がかすみ、わたしの心は祝福を求めている、いたいけな少女のことでいっぱいになりました。わたしは決断しました。集會予定を変更したのです。忘れてならないのは、集會よりも、人の方がもっと大切だ、とい

うことでした。わたしはジェームズ・セラ監督に、集會を中座して、メスビン家に連絡を取って来てくださいますようお願いしました。

メスビン家の人たちが祈り終えて立ち上がったところで、電話のベルが鳴り、翌日曜日、主の日の朝、わたしたちが断食と祈りの精神をもってクリスタルの病床に駆けつけるという知らせが伝えられたのです。

わたしは早朝の、メスビン家が家庭と呼んでいる彼らの天国への道中を、決して忘れることができません。わたしはこれまで、聖なる宮を含めて清い場所に度々入って来ましたが、しかし、主の存在をあのときのメスビン家におけるほど強烈に感じたことは、いまだかつてありません。大きなベッドに安らかに横たわったクリスタルは、ほんとうに小さく見えました。部屋は明るく楽しげでした。日光が東の窓からいっぱいにさし込むその寝室で、主はわたしたちの心を愛で満たされました。

家族はクリスタルの枕もとを囲みました。もう起き上がることもできず、話すこともできないほどに弱っている幼子の顔をわたしは上からのぞき込みました。病気は進み、すでに彼女は目も見えませんでした。わたしは御靈の強い力を感じて、ひざまずき、彼女のか細い手を取って、ただこう言いました。「クリスタル、来たよ。」彼女は口を開き、ささやくように言いました。「モンソン兄弟、いらっしゃるって分かっていました。」わたしは部屋を見渡しました。立っている人はいませんでした。皆がひざまずいていました。祝福を施すと、クリスタルの顔にかすかな笑みが浮かびました。彼女の「ありがとう」というささやきを最後にして、わたしたちは一人ずつ静かに部屋を出ました。

それから4日後の木曜日、シュリブポートの教会員がメスビン家の人々と信仰を一つにし、クリスタルのために優しく愛の深い天父に特別な祈りをささげる中で、クリスタル・メスビンの清らかな靈は、病にむしばまれた体を離れて神のパラダイスに入りました。

あの安息日に日の光があふれる寝室でひざまずいたわたしたちにとって、とりわけ、毎日あの部屋に足を踏み入れ、クリスタルの臨終をみとった両親にとっては、ユージンフィールドの不滅の言葉が、貴重な思い出を呼び覚ましてくれます。

おもちゃの小犬はちりに埋もれながら、
でもしっかりとけなげに立っている。
おもちゃの兵隊は赤くさび、
両手の小銃は青さびをふいて。
おもちゃの小犬が真新しかったあのこと、
おもちゃの兵隊がピカピカだったこと、
かわいいブルー坊やがおもちゃに唇を寄せて
そこへ座わらせたあのこと。

「ねえ、ぼくが来るまで行かないで。」
「静かに、静かにしてね。」
そう言って坊やはベッドに歩いて行き、
かわいいおもちゃの夢を見た。
かわいいブルー坊やは、夢を見ているうちに世を去り、
天使の歌声で目を覚ました。
ああ、多くの歳月は過ぎ去った。
でも小さなおもちゃの友達は今も
変わらず忠実に！

昔と同じその場所で
小さな手が触れるのを待ち
かわいい顔のほほえみを待っている。
あの小さいすのほこりの中で、
長い長い年月を待ちながら
どうしたのかと不思議そう。
かわいいブルー坊やはどうしたの、
唇を寄せてそこに座らせてくれた、あのことから。²

わたしたちは不思議に思いながら、待ち焦がれる必要はありません。救い主がこう言っておられます。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」³ あなたがたに、そして、ジャック・メスビン、ナンシー・メスビンに、主は言っておられます。「わたしの平安をあなたにたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」⁴ そしてあなたがたの愛らしいクリスタルから、このような慰めの言葉が聞けるでしょう。「あなたがたのために、

場所を用意しに行くのだから。……わたしのおる所にあな
たがたもおらせるためである」⁵と。

2階席の愛らしい友人、あなたに、そして世界各地の
会員の皆さんに、わたしは、ナザレのイエスが幼子を愛し、
幼子の祈りを聞き、祈りにこたえられることを証し
ます。救い主は実にこう言われました。「幼な子らを
わたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはらな
い。神の国はこのような者の国である。」

この言葉は、主がヨルダンの水に近い、ユダヤの岸辺
に集まった群衆に語られた言葉です。わたしはそのこと
を知っています。なぜなら、わたしはそれを読んだから
です。

この言葉は、責任を受けてルイジアナ州シュリブポー
トに行った一人の使徒に主が語られた言葉であったこと
を、わたしははっきりと知っています。なぜなら、わた
しがそれを聞いたからです。

わたしはこれらのことが真実であることを証します。

□

注

1. マルコ10:14
2. "Little Boy Blue" *Best-Loved Poems of the LDS People* 「かわいいブルー坊や」『末日聖徒愛唱詩集』ジャック・M・リオン他共編、50
3. ヨハネ11:25-26
4. ヨハネ14:27
5. ヨハネ14:2-3

ホームティーチャーへの提案

1. 「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。」(マルコ10:14) この言葉は、主から主の使徒への、幼子についての指示であった。
2. 天の御父とわたしたちの救い主は、幼子を愛し、幼子の祈りを聞き、祈りにこたえてくださる。
3. わたしたちは、幼子を養い支えるとともに、彼らの信仰と主への信頼から学ぶべきである。



エベリン・ペレス

忍耐は実りをもたらす

ティエリー・クルーシー

19 69年、エベリン・ペレスがフランスのパヨ
ンヌの書店で働いていたころのことです。
彼女は、二人の身なりの整った、礼儀正し

い青年が時々店に来るのに気づきました。当時のことを
思い出しながらエベリンは語ってくれました。「ある日、
彼らが教えている英会話クラスの案内を店内にはっても

イエス・キリストに従う者はバプテスマを受けられるまで、どれくらい忠実さを保ったまま、待たなくてはならないの
でしょうか。フランス、アンティープに住むエベリン・ペレス姉妹の場合、その答えは22年間でした。

らえないか、と聞いてきました。そして自分たちは宣教師であると話してくれました。後に彼らがレッスンのためにわたしの家を訪れたとき、彼らが末日聖徒イエス・キリスト教会の代表者であることを知りました。

それまでモルモンについて聞いていたことは、ほとんどが良くないことばかりでした。しかし南米に住んだことのある友人が『モルモンだけが、ラテンアメリカの文化に敬意を払っている教会よ。自分たちの生活様式を押しつけたりはしないわ』と教えてくれました。それが印象に残りました。」

まかれた種

エベリンは教会について書かれてある書物をすべて読むようになりました。救いの計画について知るとともに、教会の福祉計画にはとても良い印象を受けました。福祉の対象者が自立できるよう援助しながらも、個人の尊厳を尊重するよう奨励しているからです。

しかし最初に『モルモン書』を読んだとき、彼女は失望してしまいました。常日ごろ、コロンブスのアメリカ大陸発見以前のアメリカ史には関心を寄せていましたが、『モルモン書』に書かれていたことは、「それまでに習ってきたことと食い違っていたのです。その一方で、教義には大きな価値があると思いました。それで研究を続けようと思ったのです。」エベリンはそう語ります。

改宗に向けての転機

宣教師がエベリンに教会の機関誌『レトワール』（フランス語版。「星」の意）を何冊か渡しました。ページをめくるうちに、純粋な人々が清い生活を送っている姿について知ることができました。エベリンはこう述懐しています。「そのような人々がどこかにいると分かっただけで、とても良い影響を受けました。世界的に家族が攻撃的となっている事実に対し、当時大変心を痛めていたのです。」大会特集号を通してエベリンは教会の指導者の教えに触れ、彼らの教えは唯一キリストから来ているのではないかと感じました。こう言っています。「そのことがわたしの改宗への転機となりました。まだジョセフ・スミスや『モルモン書』を受け入れてはいなかったものの、戒めをに従う決意をしました。」

『キリスト・イエス』『信仰箇条の研究』『教義と聖約』を読むうちに、心配事や心に引っかかっていた疑問は解決されました。そして、新たな見解を持ちながら『新約

聖書』を読んだところ、自分が研究している教会の人々や教えについて、直接当てはまる個所を見つけました。「このように、あなたがたはその実によって彼らを見かけるのである。」（マタイ7:15-20参照）

祈りを重ねていくにつれ、天父への愛と証は深まっていきました。そこで、ふくらみ始めた信仰を込めて、もう一度『モルモン書』を読む決心をしました。今回は『モルモン書』を歴史書としてではなく、イエス・キリストを見いだす手段として読むことにしました。読み進むにつれ、エベリンは自らバプテスマを受け、キリストの御名を引き受けたいと望むようになりました。

エベリンのご主人はどの教会のことも信用していなかったため、彼女がバプテスマを受けることを承諾してくれませんでした。そのとき示した彼女の態度は、受け入れた福音と一致していました。「夫を変えようとすべきではないと決心し、自分こそが変わって、より善いクリスチャンになろうと決心しました。」

それ以降のことについて、エベリンはこのように述べました。「残念なことに、わたしたちは700キロも離れたアンティープに引っ越し、しばらく教会との連絡が断たれてしまいました。しかし自分と同じ信仰を持った人たちと交わる必要を感じ、ようやく伝道本部を見つけました。集会に時々参加できるようになり、そこでわたしはさらに、すべての子供たちへの神の愛について、そして寛容であることと、赦すことの必要性について学んだのです。」

エベリンはその支部に集えるようになり、喜んでいました。そしてこのように語りました。「とても温かく迎え入れられました。そして扶助協会の集会で、だれかがほかの姉妹のことを批判するのを聞いたことがなかったので、そのことに感銘を受けました。」

実りをもたらした信仰

1991年、教会の会員となるためのエベリンの成長が実に実りをもたらしました。20歳の孫娘、バネッサが訪ねて来ているときに、宣教師から電話がありました。バネッサは教会の社交活動に招待され、それから間もなく教会に出席するようになりました。バネッサがバプテスマを受けて、結婚しようと決心したとき、エベリンも伝道部長からバプテスマの許可を受けることができました。エベリンは1991年6月にバプテスマを受け、バネッサは7月に受けました。

ペレス姉妹のご主人は数年前に亡くなりました。亡く



最近、専任宣教師としての伝道を完了したエベリン・ペレス姉妹（右）と、支部で最高齢の会員ジュリーン・レッシュ姉妹。

なる少し前に、ご主人は教会に入ることに對して関心がある、と話してくれました。

ペレス姉妹の忍耐は22年たってようやく報われましたが、教会での奉仕に終わりはありません。ペレス姉妹はこのように説明しました。「改宗が完了することなど決

してありません。進歩すべき事柄は常に存在します。しかし今、わたしは正しい道の上にあります。主がわたしに望まれることを受け入れる用意ができています。」

バプテスマを受け、その後ご主人を亡くしてからこの数年間、ペレス姉妹はついに実った喜びを、ほかの人々と分かち合うことで奉仕しようと決意し、そのとおりに生活してきました。そして最近、イギリス・ブリストル伝道部の専任宣教師として働き、帰還したのです。□

奉仕に ささげる土曜日

ジャナ・ニールセン

土曜日の早朝。わたしにはやることがたくさんあります。友達とぶらついたり、宿題の残りを仕上げたり。ちょうどそのとき、電話が鳴り、その日に計画されていたワードが主催する青少年の奉仕活動のことを思い出します。普通だったら、「うーん」とうなり声を上げて、もう1時間ベッドにもぐり込んでいよう、などと考えませんか。

そんな気になれないワードがあります。バージニア州リッチモンドステークのリッチモンドワードにいたら、早起きは簡単です。今日の奉仕は主に教会の会員ではない人々のために行きます。今日は、宣教師と一緒にあって、たくさんの人々に会いに行く日なのです。

熱意を持つ

土曜日の朝、リッチモンドワードの若人は、市内にある5つの場所に分散します。最初の場所は、リッチモンドの真ん中にある1軒の小さな家です。14歳になるザック・ハートンと彼の友人であるウィル・ジョーンズは、割り当てられたこの家で、落ち葉を掃き、雑草を抜き、楽しいひとときを過ごしています。

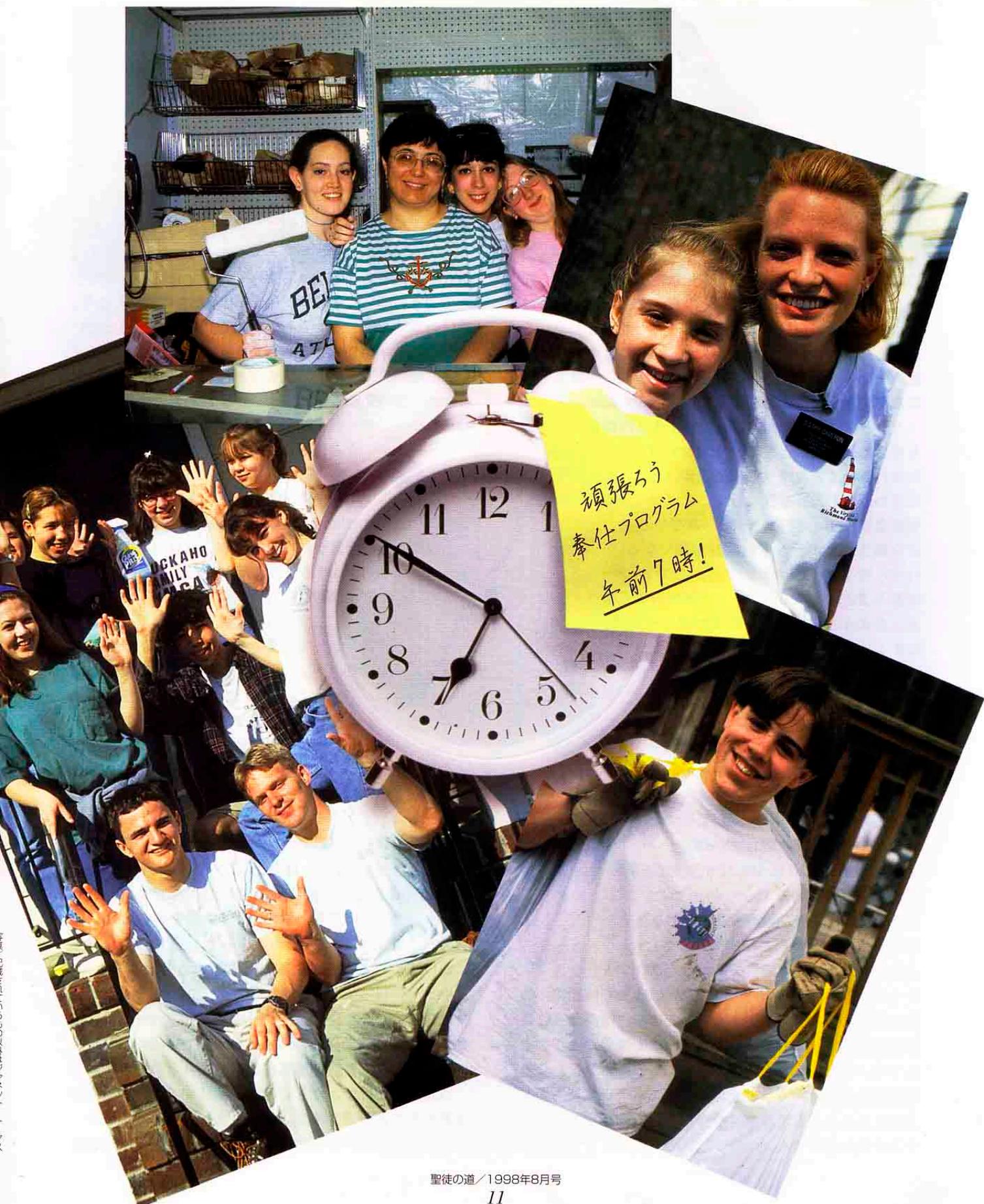
ザックは、自分たちが助けているこの家族のことを個人的にはよく知りません。ただ、この家族が教会の求道者であることは知っています。だから、自分のしていることが模範になることを知っているのです。「ぼくの弟

や妹が困っているとき助けるのと同じに、助けの必要なだれかの役に立っていると思うと、よい気持ちになります。」とザックは語っています。

ザックの友人ウィルも求道者ですが、ザックから今日一緒に来るように誘われてよかったと思っています。ウィルは、もうすでに奉仕から得られるすばらしい気持ちを感じ取っているのです。「ほかの人たちのために何かやらなければならないと感じます」とウィルは語っています。「ザックと一緒にボーイスカウトに参加するようになりましたが、ここまで深くのめり込むとは思っていませんでした。でも、このような奉仕を行うためにいろいろと気を配っている人がいるというのはすばらしいことだと思います。庭で働いているとき、皆がお互いに助け合っています。頼む必要さえありません。自分のそ

左から時計回りに。たくさんの人が心から喜んで働くときに、奉仕の業は早くまた楽しく進みます。ほんとうに困っている人の要請にこたえてペンキ塗りをするブレンダ・ネルソン（左）とその友人、ヘレン・ケープハート、キャシー・フレイジャー、スピトラーナ・イスキヤーブ。伝道の多くの時間を奉仕に費すキャメロン姉妹。その姿に尊敬の念を抱くマロリー・ハートン。初めての奉仕活動にメンバーとして一生懸命に取り組むクリス・オデル。





重い荷物もだれかほかの人のために運ぶなら、それほど重たくないということを見つけたヘザー・スエンソン（左）。ショベルを使って助けるトッド・スエンソン（真ん中）。仕事にすっかり熱中しているシャノン・ウォーカー（右）。

ばに神がおられるように感じます。」

奉仕を熱心に行うウィルの姿に、同じ場所で清掃を手伝ったケリー・フレミングも心を動かされました。「最初ここにやって来たとき、この家は随分ひどい状態でした」とケリーは語ります。「一体どうやったらこれだけたくさんの仕事を処理できるんだろうと思いました。そんなときウィルが歌いだしました。やむことのないその歌声を聞きながら、わたしは雑草を抜き続け、ほんとうに楽しいひとときを過ごしました。」

ケリーはその前日の夜母親から言われたことが正しかったことを知りました。「わたしは行きたくありませんでしたが、母に言われました。奉仕に行くことについてよく祈り、楽しい時間が過ごせるよう願うこと、そうすれば証が強くなるって。そこで、言われたようにひざまづいて祈りました。そうしたら、今だかつてなかったようなすばらしい時間が過ごせたのです。」

模範となる

最初の場所から何キロか離れたリッチモンドに、家族の一部だけが教会員の家庭があります。チャリティ・ホールダネスは、この家族のために寝室と浴室の掃除をしているところです。チャリティにとって、これは少しばかり非日常的なことと言えるようです。「わたしが自分の部屋の掃除をしたりすると、母はきっとわたしが病気にでもなったのではないかと思うでしょう。」

今日、彼女はいつもと違う何かを感じています。「この気持ちはちょっと説明できません。ほんとうにささやかな仕事しかしていないということは分かっているんです。ただ、小さな仕事であっても、それをこれからも続けられるということをもっとよい気持ちがあります。ひょっとして、家に帰ったら台所の床をふいたりするかもしれません。」

13歳になるケイティ・イングレスも一緒に活動しました。教会の会員ではありませんが、友達のエイプリル・レイシーに誘われて、やって来たのです。エイプリルは奉仕プログラムに参加するようケイティに勧めた理由を次のように語っています。「ほかの人たちに奉仕したり、助けたりすることをわたしがどんなに楽しいと思っているかケイティに知ってもらいたかったのです。」

同じ場所で奉仕した二人の宣教師は、模範を示すことについてエイプリルが持っているアイデアを気に入ってくれました。カリフォルニアのピサリアから伝道に出たジェフリー・モーテンセン長老はこう語っています。「わたしたちは宣教師であって、この地域ではほんのわずかな間しか奉仕できません。しかし、教会員が教会員でない人と良い関係を築いていけるなら、それはほんとうにすごい伝道方法だと思います。」

友人をつくる

じゃまになっている木々を切り倒すことと並行して、良い関係を築くことも、3番目のグループの集まる地域では、盛んです。17歳になるトッド・スウェンセンは、そんなグループの中の一人です。木の根を掘り起こしたり、落ち葉をかき集めたりでちょっと疲れ気味ですが、そんな態度はおくびにも出しません。「こんなことするのは初めてなんです、もう一度やってみたいですね。奉仕をすることによって、助けられる人たちはきっと、自分たちには気にかけてくれる友達がいると感じられると思うんです」とトッドは語っています。

14歳になるベン・マリンスも同じ意見です。「奉仕活動を通じて、教会員は喜んで人を助けているのだということをはほかの人たちに感じてもらえたらと思います。この活動のおかげでわたし自身も、奉仕するときの態度を改善することができます。」

ヘザー・スエンソンによると、土曜日にできる活動と





してこれほどすばらしいことはない、とのこと。 「(月のうち) 1回の土曜日くらいなら何とかできます。わたしの人生にはほかの人々を助ける時間がまだたくさん残っているので、そういう時間も有効に使わなければならないと思います。」

1日を有効に使う

町の外れにあるあまり活発ではない会員の家で、クリス・オデルは自分の時間をどう使えばよいかよく知っています。クリスはこう語っています。「わたしが今日やれることでこれほどすばらしいことはありません。奉仕するときに、天を身近に感じます。」

14歳になるリンゼイ・ランシングは、うなずきながらこう語っています。「奉仕をするときに、わたしたちの愛と尊敬の気持ちがほかの人々に伝わります。」リンゼイは、姉妹宣教師が集めた落ち葉をごみ袋に入れる手伝いをします。リンゼイが奉仕グループに参加し、隣人やあまり活発ではない会員のために奉仕するのは、これが初めてではありません。「機会があればいつでもやります。」

リンゼイ、クリス、それからグループの残りの人々は、あっと言う間に仕事を終えます。でも、まだやめたくありません。そこで皆青少年の指導者のバンに飛び乗ると、助けの必要そうなグループを見つけに行きます。

光を分かち合う

リッチモンドワードの若人の中の最後のグループは、スピトラーナ・イスキヤーヤブの経営するビレッジ靴店の壁のペンキ塗りを昼食までに完了しようとしています。午前中は、店の裏にある部屋を整理し、ペンキ塗りをするのに使いました。

スピトラーナと彼女の夫は、それぞれ医者、弁護士という仕事を捨て、数年前にロシアからバージニアに引

越して来ました。二人は今ここで自分たちの夢を実現すべく頑張っています。16歳になるヘレン・ケープハートは、彼らを助けるときに幸せを感じます。今日は二人の教会員ではない友人も招待して助けてもらいました。ヘレンは、自分が奉仕することで、この二人もイスキヤーヤブと同じように、福音の光を感じ取ることができればと願っています。

つまるところ、そう遠くない昔に、ヘレン自身を福音へと導いたのも、奉仕の模範でした。ヘレンはこう語っています。「主がわたしをこの教会に導いてくださったこと、また何人もの友人たちがこれまですばらしい模範を示してくれたことに感謝しています。今のわたしにとって最高の模範はイエス・キリストです。主に仕えることに大きな喜びを感じます。いつまでもこのような気持ちを抱き続けていきたいと願っています。」

すばらしい気持ち

恐らく、この気持ちはヘレンの心の中にいつまでも残ることでしょう。奉仕という福音を分かち合うための大切な鍵を見いだしたのですから。

リッチモンドワードの青少年は奉仕の日を終わるに当たって証会を開きました。このときヘレンは、この活動の真の意味について語ってくれました。「わたしは、主に仕えているときほどに強い御霊を感じることはほかにはないと思います。カッコいい人たちが表紙を飾る雑誌のことを考えてください。この世界では、そういったものが美と評されるのです。一方、わたしはと言うと、今日1日、体中ペンキと泥にまみれて働きました。そんな中でわたしが考えたのは、これこそ主の定義される真の美しさではないかということでした。」

恐らく彼女の言うとおりでしょ。救い主の模範に従うことに喜びを見いだした神の子ほど美しい人たちがこの世にいるでしょうか。□

は ら か ら 「同胞のために 務める」



トーマス・ムーアは83歳のときにドミニカ共和国のサントドミンゴで教会に入りました。ムーア兄弟はパン屋を営んでいます。宣教師たちを家に招待して「何でも好きなものをごちそうするのが好きなんです。宣教師たちは普段サンドイッチしか食べていないのを知っていますから」と彼は言います。ムーア兄弟が喜んで奉仕するのは、宣教師たちが「わたしのような見も知らぬ人々のために」時間を割いてくれているのを知っているからです。「ほんのわずかでも彼らを助けられるのはほんとうに大きな特権です。」ムーア兄弟は、自ら愛をもって人に奉仕する喜びを見いだしたのです（モーサヤ2：17；ガラテヤ5：13参照）。たとえ貧しくとも同胞のために務める道は数多くあります。ナタリオ・ピラザピア兄弟はアルゼンチンのコルドバで一人暮らしをしています。物質的には恵まれません。彼の使い古しの自転車が助けに必要な会員の家の外や自分で植えた畑のわきに止まっている様子から、ピラザピア兄弟の奉仕の姿がはっきりと分かります。自分の所有する土地はありませんが、彼はいつもどこか場所を見つけては種を植え、主の祝福によって豊かな収穫を得

ています。これらの小さな畑により複数の家族が養いを得ています。「こんな小さな体でも、様々な場所で奉仕することができます」と彼は言います。世界中から聖徒たちの時間と労力を犠牲にした奉仕の報告が多数寄せられています。例えば、メキシコ・

シューダードビクトリアステークの282人の会員たちは、ある2月の寒い朝に集まって、2.5キロにわたる幹線道路沿いの清掃と美化に取り組みました。会員たちは芝生を入念に刈って肥料を与え、歩道を掃除して、木の幹や歩道の縁石を白色に塗装して歩道に側溝を作り、道路を清掃して、トラック数台分のごみを拾いました。「わたしたちは主の使いから地域社会に奉仕するように召されたのです。」会員たちの働きについて説明するサンタ・ベロニカ・リエス・デ・ムニョスの言葉には簡潔でありながら、深遠な意味が込められています。

奉仕には長い期間、多くの忍耐、そして信仰を求められる場合もあります。ベルギー・アントワープステークのセント・ニクラス支部に所属するクレイ姉妹は、脳内出血でこん睡状態に陥りました。扶助協会会長のポーラ・ボイス姉妹はすぐに、交代でクレイ姉妹に付き添う



写真/サンタ・ペロニカ・リエス・デ・ムニョスの厚意により掲載：
「ニーファイの民に教えを説くベニヤミン王」ゲラリー・L・カップ画

人々を募りました。数週間が経過すると、付き添いの中に、クレール姉妹は回復の見込みがないのではと考えて落胆する人たちが出てきました。そのためボイス姉妹の付き添う時間が次第に増え、クレール姉妹に話しかけ、本を朗読し、賛美歌を歌って聞かせるようになりました。

やがてクレール姉妹はとうとう意識を回復しました。しかし、回復時には体が部分的にまひして、はっきり話すことができなくなっていました。回復への道は、遅々として困難なものでした。ボイス姉妹は介護人がいないときに彼女の世話をし、話し相手になり、愛と希望を与え続けました。ボイス姉妹は扶助協会にて慈愛について語るだけでなく、生活で実践したのです。

奉仕は様々な形で行われます。助けが必要な人に手を差し伸べ、見知らぬ人にほほえみかけ、福音を分かち合い、教会の召しを果たし、病人を見舞い、時間や能力、所有物を与えるなど様々です。それは天父から授かったものの一部をその子供たちと分かち合うことなのです。□

寄稿者——エリザベス・バンデンベルグ、ナンシー・R・リデシフエンテス、サンタ・ペロニカ・リエス・デ・ムニョス、ルイス・フレディ

『聖徒の道』編集部では人々への奉仕に貢献した個人やグループについての情報を募集しています。手紙や記事を下記までお送りください。You Can Make A Difference, International Magazines, 50 East North Temple Street, Floor 25, Salt Lake City, UT, 84150-3223 U.S.A. 可能であれば、紹介したい個人やグループ、奉仕活動の写真を少なくとも1枚同封してください。



幹線道路の
清掃に取り組む
メキシコ・
シュダード
ビクトリアステーク
の会員たち。

生ける預言者の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告



若い時代に互いに強め合う

「皆さんの力に感謝します。また、皆さんの優しさに感謝します。皆さんの勇気に感謝します。皆さんがともに励まし合い、努力しながら、インスティテュートやセミナーに出席しておられることに感謝します。また、福音の教えの中だけでなく、人々との交わりの中においても、それらの場に備えられている様々な祝福にあずかっておられることに感謝しております。皆さんに申し上げたいことがあります。教会員の中に自分の友人となる人を見つけてください。固いきずなをつくり、互いに強め合うようにしてください。そうすれば、誘惑の時が来ても、必要なときに、祝福をもたらし、力を与えてくれる、頼もしい友を持つことができます。この教会はそのためにあります。それによってわたしたちは、互いに助け合い、つらいときにも自分の足でしっかりと立ち、誠実かつ忠実に生きていくことができます。」¹

福音を愛する

「さらに前進し、福音を実践し、福音を愛するよう、皆さんに強くお勧めします。全能者の摂理によってわたしたちに与えられたこの偉大で輝かしい福音を、皆さんの生活の中に取り入れてください。そして、この地上において成長し前進している神の偉大な教会と王国の一部となるようにしてください。福音を実践し、福音を愛してください。聖文を読んでください。『モルモン書』^{あかし}を読まないかぎり、『モルモン書』に対する証は得られません。また、『教義と聖約』を読まないかぎり、『教義と聖約』に対する証は得られません。信仰は永遠の真理の泉の水を飲むことによって得られるのです。」²

家庭の夕べ

「わたしたちは、父親と母親と子供がいて、共通の目標を目指して、愛のうちにともに頑張っていく、伝統的

な家庭を守り続けようと努力しています。わたしたちは強敵を向こうに回していますが、非常に良い結果を得ています。例えば、週のうちの1晩を家族そろって活動を行う時間として割り、家庭の夕べを行うように強く唱えています。聖文を基にレッスンを教えたり、家族内の調整事項について話し合ったりします。また、休暇の過ごし方を計画したり、一緒に歌を歌ったり、祈ったりします。そして、それが良い結果を生んでいるのです。」³

伝道に出る

「若い男性の皆さん、立派な生活をしてください。どのようなときにも、正しいことをしてください。伝道に出る妨げになるようなことは、一切しないようにしてください。伝道は自分自身の生活に祝福をもたらします。伝道はまた、皆さんを送り出す家庭にも祝福となります。そして皆さんは、宣教師としてのメッセージに耳を傾けるすべての人々に、祝福をもたらします。ですから、忠実な生活をしてください。常に義を選んでください。そうすれば、主は皆さんを祝福し、皆さんを強め、御自身の御心^{みこころ}を成し遂げるために、皆さんを用いてくださるでしょう。」⁴

大切な人の死に際して、どのように振る舞うか

「遅かれ早かれ、人は皆、死に対処していかなければなりません。しかし、永遠の命の真実性について固い確信を持つなら、悲しみのときに安らぎをもたらしてくれます。その安らぎは、地上にある、ほかのいかなる源からも得ることはできないものです。」⁵

身代わりの儀式

「死者のための身代わりの働きは、わたしが知るほかのいかなる働きよりも、救い主御自身の身代わりの犠牲



っておられる以上の、靈感と信仰と健康、そして強さと活力、氣力、知恵が祝福されますように。」⁷

神の子としての、わたしたちの責任

「兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは神の息子、娘としていかに大きな責任を負い、いかに偉大で驚嘆すべき機会を与えられていることでしょうか。人は皆、神の子です。わたしたちはそのことを知っています。どのようなときにも、また、いかなる環境、状況、事情に置かれても、自分が神の子であることを決して忘れないようにしましょう。そして、どのようなときにも、どのような状況においても、自らの標準を下げてはならないといことを肝に銘じておきましょう。」⁸

に近いものであると思います。それは報酬やいかなる種類の見返りも求めずに、愛をもって行われるものです。何とすばらしい原則ではないでしょうか。」⁶

監督

「皆さん一人一人に監督が与えられています。これはすばらしい方式です。この教会の偉大な監督に対する賛辞は、言葉で言い尽くせるものではありません。彼らがしているのは無償の奉仕です。人々から受ける愛と、自分自身が仕える主から与えられる称賛の言葉だけが、彼らに与えられる報いです。皆さんに心から感謝しています。主が望んでおられることをなすために、皆さんが持

注

1. 地区大会、オレゴン州ユージン、1996年9月15日
2. ソルトレーク・シュガーハウスステーキ大会、1997年1月5日
3. 報道関係者招待昼食会、ワシントンD. C.、1996年12月2日
4. ファイヤサイド、ブラジル、レシフェ、1996年11月15日
5. 地域大会、テキサス州プラノ、1996年3月17日
6. ファイヤサイド、イギリス、バーミンガム、1995年8月29日
7. 地区大会、神権指導者会、オレゴン州ユージン、1996年9月14日
8. 地区大会、ユタ州スミスフィールド-ローガン、1996年4月21日

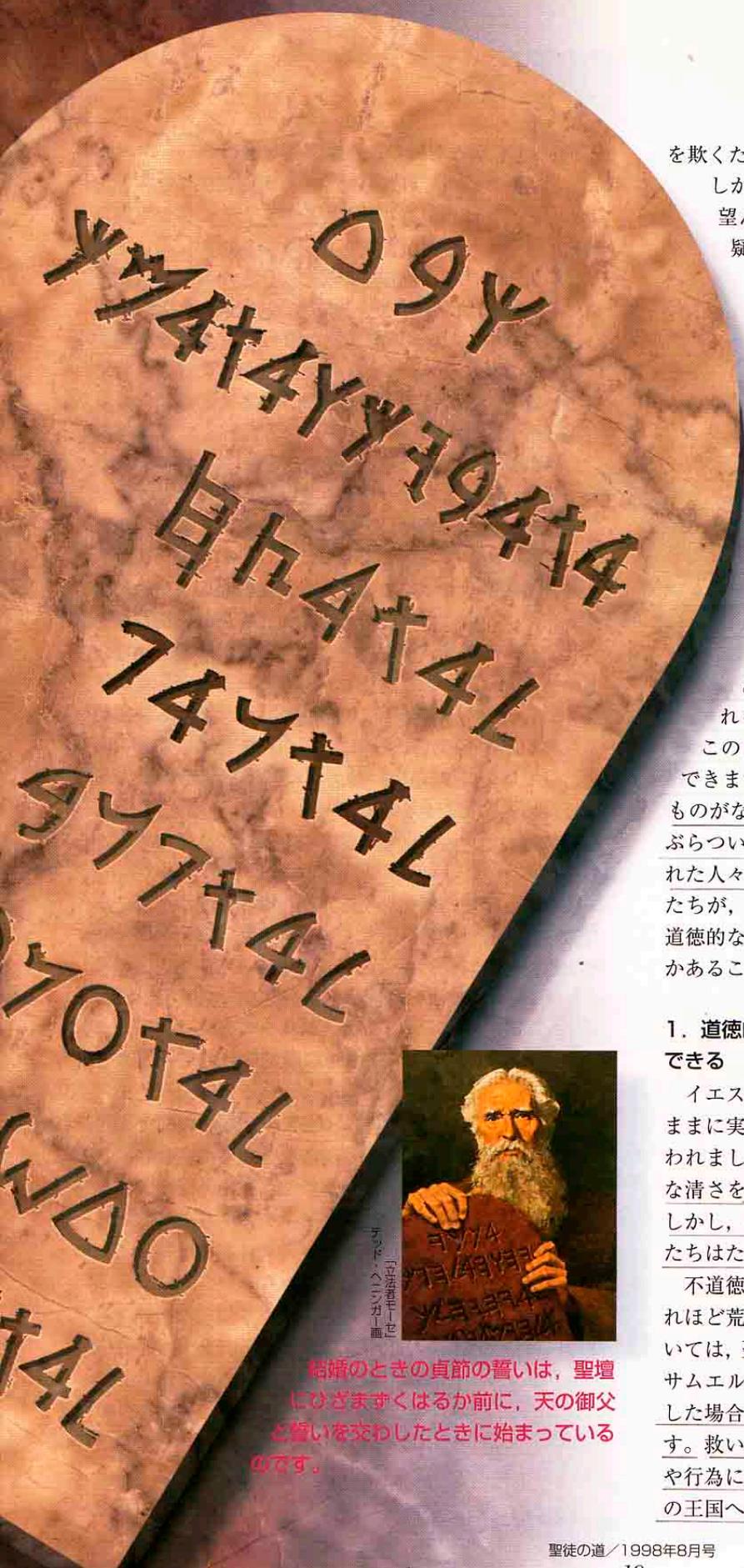
あなたは か ん い ん 姦淫しては ならない

W・ジェフリー・マーシュ

世の中の教えがどう
変わろうとも、結婚に関する
主の貞潔の標準にはまったく変化はありません。

『モルモン書』の中で、コリホルはゼラヘムラの民に向かって、絶対的な道徳の標準などというものは存在せず、ただ、「愚かな言い伝え」があって、それは「実際にはないことを信じるように惑わす」だけであると教えています（アルマ30：14、16）。このような悪魔の口先の論理に従っていくと、人々はまったく罪悪感を抱かずに、世俗的な満足だけを追い求めることになるかもしれません。

現代のコリホルたちも、同じような論理を用いて、わたしたちがどのような選びをしようとも、重大な結果を恐れることなく生活することができる信じ込ませようとしています。これは、サタンが神の子供たち



を欺くために、絶えず使ってきたその一つです。

しかしながら、末日聖徒の心の中には、天の御父が望んでおられる道徳的な清さについて、まったく疑問の余地がありません。エズラ・タフト・ベンソン大管長は、次のように言いました。「この神権時代において、主はシナイ山でお授けになった戒めを改めて確認して、こう言われました。『あなたは……姦淫をしてはならない。……これに類することをしてはならない。』(教義と聖約59:6, 下線付加)時の初めから、主は、性的な清さに関して、誤解の余地のない、明確な標準を定めてられました。……この標準が純潔の律法と呼ばれているものです。この標準は、……老若男女を問わず、……貧富の差を問わず、あらゆる人に当てはまる標準です。」¹

残念なことに、現代の社会は、不道徳なことに寛容であるばかりでなく、一般的には、それを賛美する側に回っています。わたしたちは、この目に、罪の泥沼の存在をはっきりと見ることができます。この泥沼には、道徳の絶対的な基準というものがなく、絶えず肥大を続け、自分の意志でその淵をぶらついている人々やその泥の中に一歩でも足を踏み入れた人々を飲み込み続けています。コリホルやその仲間たちが、人々を泥沼へ泥沼へといざなっている一方で、道徳的な清さを保たなければならない大切な理由が幾つかあることも事実です。

1. 道徳的に清ければ、絶えず主の御霊を受けることができる

イエスは弟子たちに、御自分が教えたり命じたりしたままに実践するよう、固く決意しなければならないと言われました(ジョセフ・スミス訳ルカ14:28)。道徳的な清さを保とうと決意すると、平安がもたらされます。しかし、従順になろうと決意できないでいると、わたしたちはたやすく悪魔のえじきになってしまうのです。

不道徳の誘惑に屈した後に、個人的にも霊的にも、どれほど荒れずさんだ状態がもたらされるかという点については、聖文の至る所に書き残されています(例として、サムエル下13章; アルマ39章を参照)。道徳的な罪を犯した場合の永遠の影響については、悲惨なものがあります。救い主の戒めに耳を傾けることなく、不道徳な思いや行為に積極的に身をゆだねようとする人々は、救い主の王国への出入りを禁じられることとなります(ガラテ



「立法者」
ヘンリー・トマス・ヘンリー

結婚のときの貞節の誓いは、聖壇にひざまずくはるか前に、天の御父と誓いを交わしたときに始まっているのです。

ヤ5：16-21；1ニーファイ15：33-34参照）。そのため、両親は子供たちに、道徳的に正しいものを選択する方法について、訓戒と模範とによって教えなければならないと命じられているのです。末日聖徒が生活し、教えるうえで規範とする標準については、大管長会が次のように簡潔に述べています。

「性的に親密な関係は非常に神聖なものです。そのために、主は、すでに結婚している人々に互いに完全な忠節を求めると同様、未婚の人々にも自制心と純潔を求めておられます。……デートの相手〔あるいは、伴侶〕を、自分の情欲や利己心を満足させるための対象として扱うようなことは絶対に許されません。……」

主はある種の行いをはっきりと禁じておられます。その中には、結婚前におけるあらゆる形の性的関係、ペッティング、性倒錯（同性愛、強姦、近親相姦など）、マスターベーション、また自制心を忘れたわいせつな思い、言動、行動などが含まれます。」²

わたしたちの人格は、わたしたちの頭の思いと心の望みによって形作られるものです。高潔な人格は、正しい選択をすることから、そして、主（現代のコリホルではなく）の教えられることを実践することから、生み出されます。主は、従順な者には御霊を送ると約束しておられます。「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、……」

聖霊は常にあなたの伴侶とな〔る〕であろう。」（教義と聖約121：45-46）



「主は絶えず心にかけておられる」の一部 グレック・ロ・オルセン画

イエスは弟子たちに、御自分が教えたり命じたりしたままに実践するよう、固く決意をしなければならぬと言われました。道徳的な清さを保とうと決意をすると、平安がもたらされます。

2. 結婚前に清さを保つことは信頼を生む

結婚生活において不貞を働くと、夫婦関係にひびが入ることが往々にしてあり、不実を働いた人の方が霊的に破滅してしまうことがよくあります。結婚前に不貞を働くと、当然のことながら、やがて伴侶となる人の信頼を損ねることになり、また、情緒的な面でも肉体的な面（危険な病気に感染する可能性など）でも余計な心配が増大することになります。もちろん、信頼に足る人物であるかどうかという基本的な疑問が残ることは言うまでもありません。

結婚のときの貞節の誓いは、結婚式の当日に誓いを交わすときに始まるわけではありません。聖壇にひざまづくはるか前に、天の御父と誓いを交わしたときに始まっているのです。

ある女性の話です。この女性は、夫となる予定の男性と一緒に、互いに自分を偽って、戒めを破り性的な罪を犯しても、どうせいすることによって互いの愛も深まると信じ込もうとしました。しかし彼女はこう語っています。「友人たちが言うとおりに、信頼を築き上げる経験になるはずだったのに、実際には二人の関係にひびが入っただけでした。」結婚後、疑念がわき起こってきました。結婚前に進んでだれかどうせいするような人同士が、互いに対して全幅の信頼を置くことなどできるはずがありません。

疑念はしばしば不信を生み、不信は口論を生み、そして口論は別居や離婚へと進んでいきます。この場合がそうでした。反対に、道徳的な清さを保っていると、信頼と自信と平安が生み出されるのです。

3. 道徳的な清さは社会を破滅から救う

「自分たちが自分たちの間で何をしようとしたところで、ほかの人にはまったく関係がありません。自分たちがプライベートな部分で行うことが、ほかの人に影響を与えることはありません。」

こういう言葉で不道徳な行為を正当化することが広く行われていますが、これは悪魔の最も見え透いたうその一つです。これではまるで、「わたしたちはこれから、わたしたちが使用したいと考えている危険な物質で大気を汚染します。もしそれ

が気に入らなければ、呼吸をしないでください」と言っているのと同じことです。一人の個人の不道徳な行いで、常にだれかが失望し、その心を痛めます。特に、家族や友人や神がそのような思いになるのです。

さらに言えば、一個人のプライベートな行いであっても、社会全体の道徳性に影響を及ぼします。一人一人の個人は、社会という布地を織り成す一本一本の糸なのです。もしその糸の大半が弱くて今にも切れそうだったら、どうして文明という布地が、いつまでも強固で健全なまま、長持ちすると期待できるでしょうか。

スペンサー・W・キンボール大管長は、次のように警告しています。「地は結婚と家族なくして、善しとされず、また存続し得ない。老若を問わず、いかなる人であっても、結婚をせず³に性的関係を持つことは、主の目に憎むべきことである。悲しむべきことに、多くの人々はこれらの偉大な真理に目を閉じている。」³

どんな小さな決定であろうとも、それが正しいことをしようとするのであれば、たとえすぐにその成果が表れなくとも、家族や親族、クラスメート、社会、そして将来の子孫に至るまで、実に大きな影響を与えるものです（申命11：27；マタイ5：16；教義と聖約115：5）。天の御父は、わたしたちに選択の自由を与えてくださいましたが、それは、わたしたちが正しい選択をすることによって、罪や悲しみや心痛から完全な意味で自由となり、人生を完全に楽しめるようになるためだったのです（モロナイ7：15；2ニーファイ2：27参照）。

婚約中のある若い男女は、決して忘れられない教えを学びました。それは、御霊の声に耳を傾けることによって正しい選択ができるようになることでした。結婚前、二人は時折二人きりで話をする必要を感じました。しかし、彼女はルームメートと一緒に生活ですし、彼の方は親族と同居しています。ある晩のこと、二人は幹線道路から500メートルほど離れた所に、二人きりになれる魅力的な場所を見つけました。湖岸道路沿いの交通量の少ない場所の近くです。二人の心の中には、話をしたいという気持ち以外はありませんでした。しかし、車のエンジンを止めてすぐに、二人は御霊の強い証^{あかし}を感じました。そこにいるべきではないという気持ちでした。彼は車の

わたしたちの人格は、わたしたちの頭の思いと心の望みとによって形作られるものです。高潔な人格は、正しい選択をすることから、そして、主の教えられることを実践することから、生み出されます。



写真：クレク・タイムズ



エンジンをかけ、再びもっと人通りのある場所へと運転して行ったのです。

彼の言葉です。「なぜその場所を立ち去らなければならなかったのか、その理由についてはまったく分かりませんでした。しかし、わたしたちは、御霊の勧めに従ったことに、今でも満足しています。ほかにも意味があったのかもしれませんが、わたしたちは、その経験を通じて、結婚生活やそれぞれの生活の中で導きを求めるときには、御霊の声をはっきりと聞くことができる、と分かったのです。」

4. 道徳的な弱さは、主の助けがなければ克服することはできない

監督は困っていました。同性愛の誘惑に駆られた一人の青年が、監督の助言に従って、祈りをささげ、断食をし、聖文の研究をし、教会の活動に参加し、自己訓練も積んできたのに、まだ問題を解決できずに苦しんでいたのです。その青年から話を聞いているうちに、監督はその青年がグループ療法を受けていることを知りました。そこで何ら指導を受けることもなかった彼は、自分の体験をこう語っています。「そのグループ療法は、時間の大部分を、問題について詳細な部分まで長時間にわたってディスカッションをするという形式で進められていました。」監督はそこに問題があることに気づきました。彼に言わせれば、それは「消えかかっている火に油を注

ぐようなもの」だったのです。かつて、ワードのほかの会員は同じような心理療法で成功したのですが、どうしてこのような違いが生まれたのでしょうか。

この問題について1週間考え続けた監督は、十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老の次のような言葉に目が留まりました。「福音の教義を研究することは、人の行動を研究することよりも、ずっと速やかに行動を改善する力があります。ふさわしくない行動についてばかり考えていると、実際にそのような行動をするようになります。」⁴さらにベンソン大管長の次のような言葉も読みました。「主は心の内側から外側に向けて働きかけられますが、この世は外側から内側に向けて働きかけます。……キリストは人間自体を変え、それによって人間が自らの手で環境を変えられるようになさいます。この世は人の行動を変えようとしますが、キリストは人の性質を変えることがおできになるのです。」⁵

御霊の導きを受けたと感じた監督は、過去30年以上にもわたる総大会の話の中から、同性愛を克服することについて触れた部分をすべて書き出しました。そして、その青年に、福音の学習の一環として、それも読むように強く勧めたのです。1週間後、青年は監督のもとへ来て、こう言いました。「監督さん、あの力強い言葉のおかげで、わたしは心に、進歩したいという意志と改善できるという望みがわいてきました。今週、わたしは、自分にはできるという証あかしが生まれたんです。」

監督はこの経験を通じて、人々を罪の生活から救い出すために、救い主の力に代わり得るものは何もないということ学びました。また、生活を変えるための勧告や助言の言葉は、罪の重さを強調するものではなく、福音の原則の実践を促すようなものでなければならないということも学んだのです。

救い主はわたしたちに、世の者となることなく、聖なる者とならなければならないと命じておられます。主はこの地上での伝道と贖いの犠牲あがなとを通じて、わたしたちが直面しなければならぬあらゆる試練や誘惑、弱さや罪について、完全に理解しておられます（アルマ7：11-13参照）。わたしたちは試練の中にあっても決して一人ではありません。誘惑と闘っている人々は、完璧な高潔さを維持できれば、最後まで堪え忍ぶことができるという確信を抱くことができます。救い主が強さと恵みを力としてくださり、わたしたちを高めてくださるからです。救い主はわたしたちの弁護者であり永遠の友であり、「人の弱さを知っており、誘惑を受ける者たちを助ける方法を知っている者」なのです（教義と聖約62：1）。

5. 道徳的な清さを保つことは日の栄えの標準である

時々、わたしたちは、最低限の期待を最高の目標と見誤って、自分自身の進歩に限界を設けてしまうことがあります。「あなたは姦淫してはならない」という戒めは、わたしたちのお互いの行動について、主が定められた最低限の期待です。より高度な、日の栄えの律法ではこうなります。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。

情欲を抱いて女を見る者は、信仰を否定するのであり、御霊を受けることはない。もしも悔い改めなければ、彼は追い出されなければならない。」（教義と聖約42：22-23。教義と聖約63：16も参照）

ヘブライ語の『聖書』の中には含まれていませんが、ユダヤ語の聖書外典の中に、実にこの記事にふさわしい物語が書かれています。これは「スザンナの歴史」という書で、この中には若き預言者ダニエルも登場してきます。⁶スザンナは貞潔で神を畏れる女性であって、たいそう美しい人でした。イスラエルの判士を務める二人の年配の男が、彼女に対してよこしまな思いを抱き、自分のものにしたいと考えました。そこで、一人でいるスザンナを突然訪ね、非常に苦しい選択を迫りました。二人に屈服するか、それとも、いもしない愛人と不義密会の話まで持ち上げておいて、その話に反論するか、どちらかを選べというものだったのです。彼女は、もし不義密会をしたとなれば死罪に該当するし、また二人に屈服しないとすれば、二人が権力を行使することになることを、よく知っていました。しかし、彼女はこう言ったのです。「わたしは、主の目から見て罪とされることを行うよりも、無実のままあなたがたの権力に屈することを選びます。」そして、大声で助けを求めました。

助けが来たとき、二人は例の醜悪な作り話を話して聞かせ、結局、スザンナは死刑を宣告されました。しかし、神はこの義にならなかった女性の祈りをお聞きになり、ダニエルに靈感を与えて、二人の陰謀を暴くようにお命じになりました。こうして、スザンナに下されていた死刑の宣告は、代わって、この二人に下されました。

この腐敗した二人の指導者の場合と同様、主の裁きは、最終的には、人に罪を負わせて自分たちの道徳的な罪を隠そうとする人々のうえに下されるのです。

6. 道徳的な清さを保つのは容易でないかもしれないが、いつの時代でも十分に価値がある

主はこう言われました。「あなたがたは絶えずわたし

の前で徳高く^{きよ}聖くなければならぬ。」(教義と聖約46:33) わたしたちが独身者であろうと既婚者であろうと、徳高い行いをするためには、情緒的な影響や物理的な環境、生活上の活動などに十分な注意を払う必要があります。たいていの末日聖徒の若者なら、デートに際して、どんなことに注意したらよいか、教えられているはずで、ほかに人のいない家やアパートに二人きりであることを避けるとか、不健全な映画や活動を避けるといったことです。同様に、たいていの既婚者の場合も、自分の伴侶ではない異性と二人きりになったり、打ち明け話(特に結婚問題に関して)をしたりすることを避けるのが賢明だと、承知しています。もし耳を傾ける気さえあれば、御霊ははっきりとこのことを確認してくれるはずで、このようにある程度の距離を保つ方が安全なのです。

ある監督がワードの青少年に向かって、こう勧告しました。「こうした指針に対して、自分だけは例外だなどと考えるはいけません。これまで、道徳的な罪を犯した青少年を何人も面接してきましたが、例外なく、こうした指針を幾つか無視した結果でした。規則や戒めに従っていれば、心の痛みや罪の重さを味わわなくて済むのです。」

聖文では次のように教えています。「御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。」(ガラテヤ5:16) この勧告に従えば、わたしたちは主の御心を実現できます。ベンソン大管長は次のように証しました。「主はその子供たちの貞節を喜んでおられます(『モルモン書』ヤコブ2:28参照)。わたしの兄弟姉妹の皆さん、皆さんはその喜びが耳に入りますか。主はわたしたちが貞節を守ったときだけ喜んでおられるのではありません。わたしたちが貞節を保っていることを喜んでおられるのです。」⁷

一方、サタンは一人一人が惨めな状態になるのを望んでいます。そして、そのためには不道徳な罪を犯させるのが最も近道だと承知しています。しかし、わたしたち一人一人には、誘惑に襲われたとき、どのような行動を取るべきかを決める力が与えられています。何よりも神の戒めを守ることを優先させたいと願い、間違ったこと

天の御父は、わたしたちを選択の自由を与えてくださいましたが、それは、わたしたちが正しい選択をすることによって、罪や悲しみや心痛から完全な意味で自由となり、人生を完全に楽しめるようになるためだったのです。



写真/クレク・ダイヤモンド



をしたときには悔い改め、そして、信仰をもって、義にかなった生活を再開する末日聖徒は、最終的には、神の恵みによって日の栄えの王国に入ることが許されるのです。

「そしてさらにあなたがたは、神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい。見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。これらのことが真実であることを記憶にとどめ、覚えておきなさい。主なる神がこれを言われたからである。」(モーサヤ2:41)□

注

1. "Law of Chastity" Brigham Young University 1987-88 Devotional and Fireside Speeches 「純潔の律法」『ブリガム・ヤング大学1987-88年度ディボーションナル・ファイヤサイド説教集』50
2. 「性的な清さ」『若人のために』15。このほかに若人にあらゆる面での人間関係の在り方について教えるには、『良い親になるために』を参照するとよい。
3. 「神は欺かれざればなり」『大会報告1973-75年』241
4. 「幼き子ら」『聖徒の道』1987年1月号, 18
5. 「神によって生まれる」『聖徒の道』1986年1月号, 6
6. ここで述べられている物語は"Jerusalem Bible"『エルサレム版聖書』ダニエル書15章から表現を変えて引用した。
7. 「純潔の律法」50



絵/ダイジー・ミーシュ

ありがとう，ノラ！

アルバ・ステラ・カニャベラル・ブランドン

支部の若い女性会長に召されたとき、わたしは「若い女性たちと親しくなり、助けになれるだろうか」と心配でした。もっと親しみやすい人となり、内気な性格を克服しなければならないことは分かっていました。

召された当初、わたしは途方に暮れてしまい、どう取り組んだらよいのか見当もつきませんでした。実は、コロンビア・バエドゥパール地方部シモンポリール支部の多くの若い女性が活発ではなかったのです。数人の活発な女性は気難しくはありませんでしたが、よそよそしくて少し無関心に見えました。何事もうまく行かないのではないかと不安でした。

召されて間もないある日のこと、若い女性のノラがわたしのところにやって来て、わたしを抱き締め、わたしがノラやほかの若い女性のために働いてくれるのでうれ

しい、と言ってくれました。ノラがわたしを抱き締めてくれたとき、わたしは天の御父の愛を感じました。そのとき、わたしの疑いは確信へ、内気な気持ちは安心感へ、恐れは若い女性たちに対する誠実な愛へと変わりました。

わたしは少しずつ若い女性を理解するようになり、彼女たちのありのままの姿を受け入れ、一人一人を誇りに思うようになりました。若い女性たちがわたしを受け入れ、信頼してくれていることが分かると、あまり活発でない若い女性に手を差し伸べ、教会に対してもっと前向きな気持ちを抱けるように助ける勇気もわいてきました。

つい最近、ノラは『若い女性確認証』を授与されました。ノラは福音に対して強い証^{あかし}を持ち、全幅の信頼を置いて教会の指導者を支持しています。ノラは、若い女性のメダルが象徴する原則にほんとうによく従って生活しています。ありがとう、ノラ。□

善を行うように導く御霊^{みたま}

預言者ジョセフ・スミスがこの世を去って間もなく、ブリガム・ヤング大管長は夢の中で預言者ジョセフからこのような指示を受けました。「皆さんに謙遜で忠実であるように、主の御霊を保つように言ってください。それが皆さんを正しい道へと導くのです。細い静かな声を退けてしまうことのないように注意してください。細い静かな声は何をすべきか、またどこへ行くべきかを教えてくれます。王国の実を授けてくれるのです。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』43)。

聖文の中にもこれと同じ指示が記されています。「善を行うように導く、すなわち、公正に行動し、へりくだって歩み、義にかなって裁くように導く御霊を信頼しなさい。……わたしの御霊はあなたの思いを照らし、あなたの霊に喜びを満たすであろう。」(教義と聖約11:12-13)

神は御霊を遣わされる

バプテスマを受けた人は皆、聖霊の賜物を受けるようにと命じられます。しかしながら、ブリガム・ヤング大管長が述べているように、この賜物を実際に受けるには、「神の……知恵〔と〕わたしたちの忠実さ」という条件を満たさなければなりません(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』74)。

それでは、聖霊の影響を受けられるにはどのように生活すればよいのでしょうか。ジェームズ・E・ファウスト長老は十二使徒定員会会員であった時代に、次のような指針を提案しています。「(1) 正直に真心から神の戒めを守ろうと努める、(2) 神からのメッセージ

を受ける者として霊的に整えておく、(3) 謙遜に熱心に祈る、(4) 揺るぎない信仰をもって求める。」(『聖なる御霊との交わり』『聖徒の道』1980年9月号、17) 神は最も良いとお考えになるときに聖霊を遣わされます。ですから、わたしたちはファウスト長老の勧告に従って生活し、主の導きを信頼するというチャレンジを果たさなければなりません。

「公正に行動し、へりくだって歩み、義にかなって裁く」

あるとき、神殿に団体参入した若人に対して神殿長はこのような話をしました。「皆さんは自分のバプテスマを受けてから、聖霊を受けなさいと言われてきましたね。それは、皆さんがふさわしければ、聖霊は皆さんに導きと祝福を与えてくださるという意味なのです。皆さんに嫌な思いをさせたり、危害を加えたりする人がいれば、皆さんは聖霊の影響によってそれを乗り越えることができるのです。」

神殿長はすぐに、一人の若い女性がすすり泣いているのに気づきました。彼女の話によると、母親が教会活動への参加を反対しており、今日も神殿に出かけようとするのを怒りをあらわにされた、ということでした。「家を出てからずっと、母の反対を乗り越える導きと力が神殿の中で与えられるように断食してきました。でも何も与えられなかったのが、がっかりして、家に帰るところでした。でも、最後の最後に神殿長は解決の手がかりを下さいました。……今わたしは、聖霊の力が及ぶ所まで母を連れて行こうと思っています。」

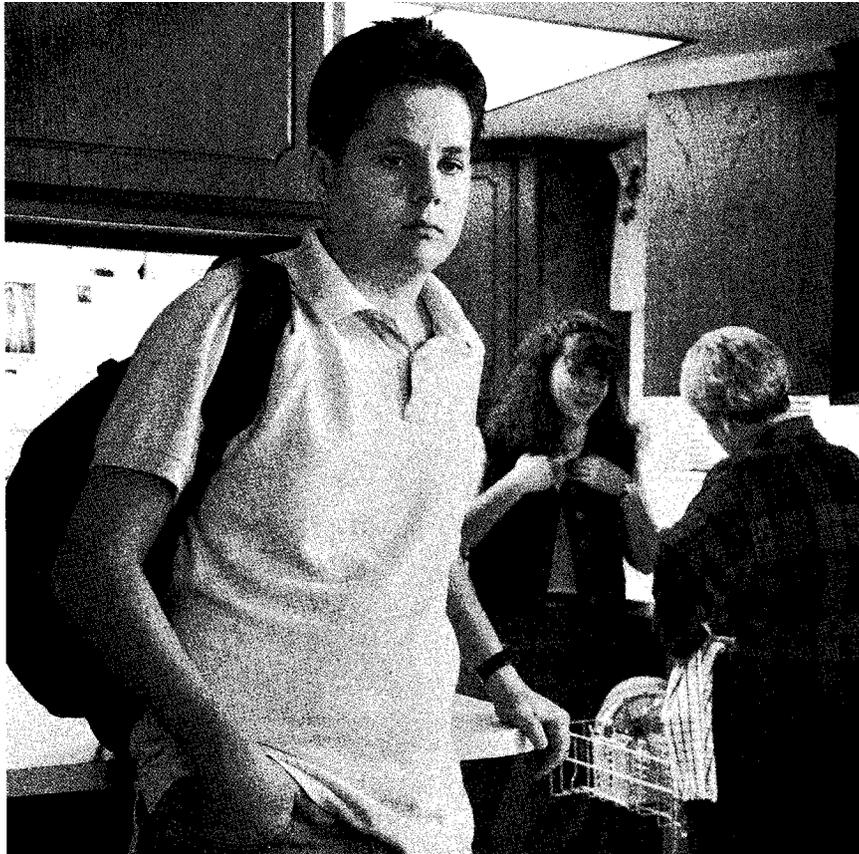
数週間後、神殿長は1通の手紙を受け取りました。その若い女性が帰宅したとき、母親はまだ怒っていたことが書かれていました。そして、「いつもなら言い返していたのですが、わたしはそのとき、母に歩み寄って母を抱き締めました。……そして、神殿ですばらしい経験をしたことを母に話しました。すると驚いたことに、母は泣きだして、わたしに赦しを求めたのです。」(The Teachings of Harold B. Lee 『ハロルド・B・リーの教え』クライド・J・ウィリアムズ編、96-97)。

聖霊はこの若い女性に「公正に行動し、へりくだって歩み、義にかなって裁く」よう導きをお与えになりました。「善を行うように導く……御霊を信頼」するならば、わたしたちも同じように祝福を受けて生活することができます。

●もっと熱心に主の御霊を求めるにはどうすればよいでしょうか。

●主の御霊はあなたの心をどのように照らしてくれるでしょうか。□





写真：ヘンリク・アンダーセン 写真の本文は直接関係ありません。

質議応答

どうしたら自分の家庭をもっと幸せで霊的なところにする事ができるでしょうか。

わたしは自分の家族のことを心配しています。兄たちを教会に行かせるようにするのはとても難しいことです。姉も活発ではありません。兄たちも姉も両親をまったく尊敬していません。どうしたら自分の家庭をもっと幸せで霊的なところにする事ができるでしょうか。

回答は質問者に助けと理解を与えるためのものであり、教会の教義を表明するものではありません。

回答

あなたにできる最も大切なことの一つは、自分が正しいと知っていることを、継続して行うことです。努力して戒めを守り、自分が所属するワードあるいは支部の信仰堅固な会員との親しい関係を持続させることです。セミナーに休まず出席してください。たとえ自分一人で行かなければならないとしても、教会の青少年の様々な活動に積極的に

参加してください。日曜日には必ず教会へ行き、聖餐を受けてください。お兄さんやお姉さんが何かを一緒にしようと言ってくるかもしれません。しかし、あなたの人生にとって教会が大切なものであることを彼らに気づかせる必要があります。易しいときばかりとは限らないでしょうが、自分が正しいと知っていることを行い、それによって正しい模範を示してください。

ただし、正しい選択をしていくとき

に、独善的になったり、自分の方が立派な生活をしているのだというような態度を執ることがないようにしてください。家族一人一人の長所を見つけ、彼らに純粋な愛と感謝の気持ちを示してください。たとえ両親に対してだけであっても、機会があれば、あなたの証を分かち合ってください。家庭の中であって子供たちの証を強めたいと頑張っている両親は、あなたが証を持っていることを知って、慰めを得ることでしょう。

あなたが強めなければならない大切な特質は忍耐です。あなたが良い模範を示したとしても、あなたの心配している人たちがそれにこたえてくれるとは限りません。長い時間、その生き方を変えようとしなないかもしれません。それには、一生あるいはそれよりも長くかかるかもしれません。

もし、だれかがあなたに、「これから10年間、あらゆることをして、福音に従った生活をするなら、お兄さんやお姉さんも、教会で受けられるすべての祝福にあずかるために、教会に戻って来るでしょう」と告げたら、あなたは彼らのためにそうしますか。きっと、そうすることでしょう。考えてみてください。あなたが今していることは、まさにそれなのです。彼らを愛し、大切に思い、救い主について知り得ることをすべて学び、模範を示しています。それは家族のためだけでなく、自分自身の救いのためでもあります。自分の努力が家族に影響を及ぼすようになるまで、どれほど長い時間がかかるかということは問題ではありません。自分がなすべき分を果たすなら、主がそれにこたえてくださるということへの信仰を持ってください。

このことについて肝に銘じておくべき、最も大切なことは、あなたは自分一人の力で、すべてを解決するように求められているのではないということ

です。あなたの両親、ほかの家族、教会の会員や指導者、そしてほかにもあなたを助けてくれる立派な人々がいるのです。

そして、最も重要な源、すなわち、天の御父と御子イエス・キリストからも助けを頂くことができます。

読者からの回答

断食と祈りの心をもって神殿の儀式を受けることも、家族がもっと忠実になるうえで、助けになると思います。わたしたちは神殿の中で天の御父にっそう近づくことができます。

あるとき、わたしは母と一緒に、大きな犠牲を払って神殿に行きました。そして、神殿の中で家族について多くのことを祈りました。特に5年間教会に活発でなかった弟のために祈りました。家へ戻って分かったのは、わたしたちが神殿で祈っていたまさにその時刻に、弟が専任宣教師に、自分自身と友達が生活を改善できるよう、力になってほしいと頼んでいたということでした。やがて、弟はその友達にバプテスマを施せるようになり、今では二人とも宣教師として伝道に出る準備をしています。



アルゼンチン・ビヤマリア
地方部、ロスオルモス支部
セレステ・モンギ (19歳)

我が家は末日聖徒の家族で、子供はわたしを含めて13人、そして同じような問題を経験していました。わたしたちは14年前に教会に入りましたが、その後、きょうだいの何人かはあまり活発でなくなりました。きょうだいの多くが両親をあまり尊敬していませんでした。

わたしの家族は、いちばん年下の妹が事故で死んだときに大きく変わりました。わたしたちはそのとき、永遠の家族として再び結ばれるためには、生活を変えなければならないということに気づきました。あまり活発でなかった5人のきょうだい再び教会に出席するようになり、きょうだい同士、また両親に対する態度が随分よくなり、けんかもしなくなりました。わたしたちは、義理の兄が教える、神殿準備クラスに出席し、妹の事故から数えて5か月後に、家族として永遠の結び固めを受けました。

あなたが望んでいる変化が起きるのに、家族の死というような強烈な出来事は必要ないと思います。どのような家族でも、家庭を幸福なところにするために一人一人が自分のなすべきことを行うなら、愛のうちに成長することができます。主は家族の一致について子供にも両親と同等の責任を与えておられます。もし、わたしたちが心からの愛と理解、思いやりをもって、言葉を交わし、祈り、歌い、ともに努力するのなら、家族同士の関係はさらに親しくなることでしょう。わたしたちは自ら進んで、自分の時間を犠牲にし、家族を強め、また、心を通じ合わせ、耳を傾け、愛をもって感情を表現し、裁きを慎み、信頼関係を維持し、忍耐していかなければなりません。



ブラジル・ソカーバ・トルヒーヨステーク、パルケ・オウロ・フィノワード
エーデル・ジョゼ・ラジマン

わたしは伝道に出てから、教会について学んでいる人々の役に立つ具体的な答えを見つけるために、聖文を読むようになりました。これは家族に対しても有効な方法となるでしょう。さら

に、毎日聖文を読むことによって、わたしたち自身も、より幸福に、また霊的になることができます。そして、そのような雰囲気はわたしたちの周囲の人々にも伝わっていきます。



メキシコ・メキシコシティ
一北伝道部
アマドール・ブローリョ・トレス・ファレス

父と兄と姉はあまり活発でなく、時には、活発なほかの家族に協力しようとしなくてもあります。それでも、わたしは二つの約束の中に慰めを得ています。わたしは祝福師の祝福の中で、祈りと愛を通して家族を強めることができるかと告げられています。また中央幹部たちは、『モルモン書』を定期的に読むなら、家庭の中の愛と一致が強められると言っています(『モルモン書』——わたしたちの宗教のかなめ石『聖徒の道』1987年1月号、7参照)。

祈りと愛、そして『モルモン書』を読むことが、わたしの家族に良い変化をもたらしていることを証します。



ブラジル・オリンダ・パウリスタステーク、リオ・ドセ第1ワード
バレリア・クリスティーナ・ダ・ソーザ・フェラス

わたしたちは、家族の祈り、聖文の勉強、家庭の夕べ、家族会議を通して、家族を一つにまとめることができます。両親ときょうだいに、愛と優しさ、また赦しの精神を示し、忍耐することによって、あなたの家族の一致を強めてください。

家族関係がすぐに申し分ない状態になることを期待しないでください。進歩はささやかな事柄に焦点を当てた

り、一つの小さなステップから次のステップへと進んだりすることによって成し遂げられていくのです。皆さんが努力するとき、神は皆さんと家族を祝福してくださるでしょう。



ニュージーランド、オークランド・タマキステーク、ニファイ(トンガ語)ワード
ベイロマニ・マバパランギ・ラブーアホ

わたしは教会員になってから5年になります。最初は家族の中でわたしだけが教会に入りました。妻は別の教会にとっても活発に集っています。今では二人の子供がバプテスマを受け、妻と3番目の子供が宣教師からレッスンを受けています。わたしは、これらの祝福は自分が断食をし、祈り、神殿に参入した結果、与えられたものであると強く信じています。あなたも同じように努め、忍耐するように強くお勧めします。あなたの望みは、思いがけないときにかなえられるかもしれません。



ニュージャージー州スコッチプレーンズステーク、ニューアーク(スペイン語)ワード
ジョゼ・マルコス・ガルシア

祈り、聖文の勉強、家族としての活動を通して、あなたの家族が一つにまとまり、また主と一致した生活ができるように助けてあげてください。『聖徒の道』から有益な記事をつかち合うのも役立つと思います。しかし、それでもなおかつ彼らが関心を示さなくても、性急にならないでください。愛の気持ちで毎日祈ってください。わたしは自分自身の体験から、わたしたちの方からうまく働きかけることができないときでも、天の御父と救い主が

見守っていてくださるのを知っています。決してあきらめないでください。



盛岡地方部、北上支部
及川カツ子

家庭にあってわたしを支えてきてくれたものを挙げるとしたら、それは、祈りと断食の原則への信仰です。それらの原則はほんとうに心を穏やかにしてくれます。祈りの中に、必ずあなたの家族への望みを入れ、わたしたちを救う力をお持ちの主に対する強い信仰を実践するようにしてください。主があなたの祈りを聞き、あなたの断食を御存じなのを忘れないようにしてください。あなたの犠牲はきっと天の祝福をもたらすことでしょう(「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番参照)。



ベネズエラ・バレンシア・ロス・サウセス・ステーキ、グアカラワード
ロネリーネ・マルティ

家族の中のほかの人たちが、教会について自分と同じように感じてくれないというのは、とても悲しいことです。そして、自分の大切な人が永遠の家族のきずながもたらす祝福にあずかれないというのは、もっと悲しいことです。わたしも今同じ状況にあるので、よく理解できます。

わたしはこれまでの体験を通して、自分たちの兄弟姉妹に対して忍耐しなければならぬことを学んできました。そして、彼らがわたしたちに対して感情を損ねたときには、場合によっては、片方の頬も向ける必要があることも学びました(ルカ6:29参照)。親がいる

ということは、天の御父から与えられた祝福であり、またわたしたちは親を愛し、親に誇りに思ってもらえる子供になる必要があるのを、彼らが理解できるように助けてあげてください。

状況が改善するまでに、かなりの時間がかかることも考えられるので、忍耐と慈愛の心を養う必要があるでしょう(ローマ5:3-5; 1コリント13:4-7参照)。



西インド諸島伝道部
グアドループ支部
フローレンス・ドルーモー
(16歳)

地元の神権指導者にアドバイスを求めてください。神権指導者は、あなたを助け、あなたとともに祈り、導きを与えるために召されています。常に天の御父に祈ってください。天の御父はあなたとあなたの家族一人一人を愛していらっしゃいます。



フィリピン・アバリ地方部、ラル・ロー支部
ローエ・A・アーカンヘル

幸福への秘訣の一つが、ヨハネの第一の手紙第4章19節に次のように書かれています。「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」

あなたのきょうだいたちに愛を示し、批判することなく彼らの考えに耳を傾けてください。神から与えられた選択の自由の観点を忘れずに働きかけてください。あなたの証を彼らに伝え、一緒に聖文を読むように話しかけてみてください。信仰をもって、助けが与えられるように天の御父に祈ってくだ

さい。

望みはあります。あなたの家族が一致し、愛によって結ばれるようになるのを助ける方法があります。ただし、あなた自身が絶対にあきらめないことが必要です。あなたは偉大な驚くべきこと、またすばらしいことを行う潜在的な能力を持っています。正しいことをしてください。そうすれば、主がすばらしい方法で祝福してくださることでしょう。



フィリピン・サンカルロス
地方部、カラトラド支部
ラーマ・マヒーラム

パウロがテモテへの第一の手紙第4章12節から13節の中で強く勧めているように、わたしたちはすべてにおいて福音に従った生活をし、模範を示さなければなりません。美しい言葉を幾つも並べるよりも、愛と奉仕と忍耐のたった一つの行いの方が、家族の一致にとって価値ある場合があります。



コロンビア・サンタマルタ
地方部、アルメンドロス支部
ベアトリス・エレナ・
バレーロ・トボン (20歳)

定期的に親と話す時間を持つなら、家庭をもっと幸福で霊的な場所にすることができます。彼らに福音についての証を分かち合い、霊的な体験を話すように頼んでみてはどうでしょうか。そうすることによって、彼らに対する愛と敬意を表し、きょうだいたちに模範を示すことができます。教会と回復された福音に関する質問に答えられるように準備をしておいてください。

必要な助けを求めて祈ってください

い。そしてこの主の約束を心に留めてください。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。……もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル12:27)



フィリピン・サンタクルス
ステーキ、ピラ支部
クレメンテ・B・ダビョー
エン

わたしも家族のことで、難しい問題を抱えています。わたしは自分が救い主と天の御父を必要としていることを理解しています。

家族は永遠に一つのきずなで結ばれる可能性があり、そのためには、この地上で一つになる必要があるのを理解できるように、あなたのきょうだいを助けてあげてください。行い、言葉、考えのすべてにおいて、あなたの両親ときょうだいの心からの友達になってください。主に望まれている生き方をするように努力してください。そうすれば、主の助けが与えられることでしょう。



メキシコ・メキシコシティ
ー・トラルパンステーキ、
トラルパン・ワード
クローディア・ターニャ・
ドーメンゲス・エラダ

中にはイエス・キリストのもとへ通じない道を進もうとする人がいます。時には、わたしたちの大切な人の中にもそのような人がいます。しかし、その人たちもいつか自分の過ちに気づいたときには、正義の道を再び見いだして感謝することでしょう。これは、砂漠の中に水なしでいる人が、命の源の

井戸を見つけ、心から感謝するようなものです。

神の御霊が家族のうえに注がれ、家族が「生ける水」であるイエス・キリストのもとに通じる正しい道に導かれるように、常に祈ってください。キリストは霊的な渇きを永遠に癒してくれます(ヨハネ4:10-14参照)。彼らもいつか、キリストの力なくしては生きていけないと気づくようになります。



スイス・ベルンステーキ、
フライブルクワード
ジーマン・J・ドーム
(17歳)

「質疑応答」のページがさらに有意義なものとなるよう、下記の質問にお答えください。締め切りは1998年10月1日、あて先は次のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS,
International Magazines, 50 East
North Temple Street, Floor 25, Salt
Lake City, UT 84150-3223, U.S.A.

氏名、住所、所属ステーキ/地方部、ワード/支部名を明記のうえ、日本語で意見をお寄せください。手書き、ワープロ、いずれでもけっこうです。手書きの場合は、かい書で読みやすい文字でお書きください。できれば写真を同封してください。ただし写真の返却はできませんので、あらかじめご了承ください。類似した答えの場合は、お寄せいただいた中から代表的なもの1通を選んで掲載致します。

質問——聖文にはうわさ話をしないようにとの警告が書かれています。だれかが自分に向かってうわさ話を始めたり、あるいは自分についてのうわさをほかの人々に広めたりした場合、どうしたらよいでしょうか。□



美しい島、 バハマの 開拓者たち

ジャネット・トーマス

写真/明記されたもの以外は著者



左—ナッソー支部のエドワード・スミス支部長。教会堂の外でローディナ夫人とともに。上—教会堂の階段の所に集まったナッソー支部の会員。

バハマは700もの美しい島々から成る国です。その中で人が住んでいるのは30だけです。アメリカ合衆国の南東の海岸からわずか95キロの大西洋に位置しています。国の色を選ぶとすれば、ピンクです。なぜピンクなのでしょう？ それは、ニュープロビデンス島にある首都ナッソーの政府の建物が、みんなピンク色のしっくいであってあるからです。ナッソーの通りに立ち並ぶ白い縁取りをしたピンク色の建物に、フクシャやブーゲンビリアの真紅の花が彩りを添え、群青の海と空を背に揺らめいています。

ピンクは巻き貝の貝殻の内側の色でもあります。かつては国の主要な食糧源であった巻き貝も、今では細かく刻

んでチャウダーにしたり、揚げてフリッター（訳注—小麦粉に卵黄を加え、牛乳または水で溶き、これに卵白を泡立てて加えた衣で魚・野菜・果物などを揚げた料理）にするのがおもです。

バハマの人口の大半を占めるのは、イギリス人、アメリカ人、アフリカ系の人々、それに最近移民して来た大勢のハイチ人です。公用語は英語ですが、ハイチ人はハイチ・フランス語を話します。

末日聖徒の宣教師が初めてバハマに到着したのは、1979年です。しかし、残念ながら査証の発行を拒否され、専任宣教師が入国できたのは1985年になってからのことでした。そして1997年11月20日、ニール・A・マックスウェル長老がバハマを福音伝道の地として



右—バハマで最初の支部長
ならびに扶助協会会長となった
アントワン・フェリアと
レオナ・フェリア。

下—クラレンス・E・ニューリー・
ジュニアは、ユタでの学生時代に
バハマ人で初めての改宗者となった。



奉献しました。現在、バハマには二つの支部があります。英語のナッソー支部とフランス語とハイチ・フランス語のソルジャーロード支部です。

ニュープロビデンス島にあるソルジャーロード支部の美しい教会堂を訪れると、生きた開拓者たちに会います。バハマは今、年を重ねるごとに教会の歴史を刻んでいます。その支部には毎週日曜日、バハマで最初にバプテスマを受けた人、バハマで最初の支部長、バハマで最初の専任宣教師、バハマで最初に神殿で結婚した夫婦、バハマで最初に結び固めを受けた家族など、忠実な教会員が集い、イエス・キリストへの信仰を深め、彼らの美しい国に神の王国を築こうとしています。

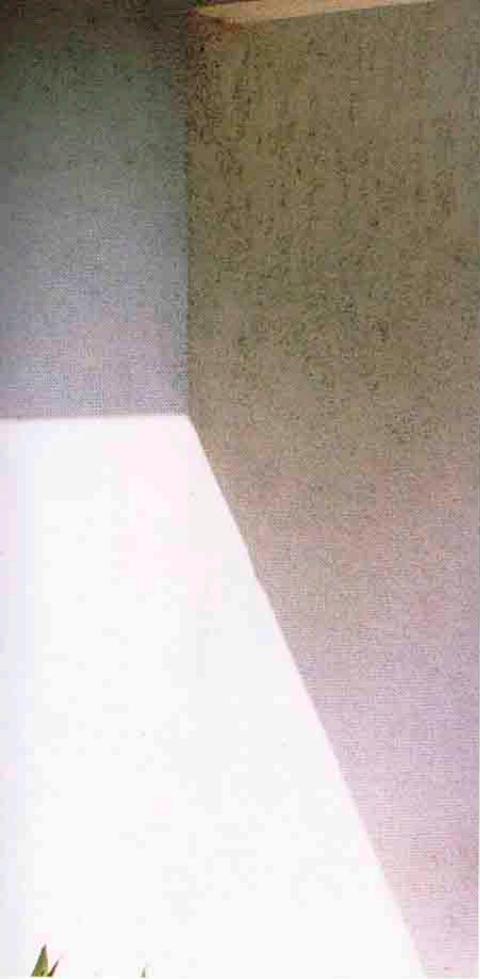
ユタに心引かれて

バハマ人で最初にバプテスマを受けて教会員になったのは、クラレンス・E・ニューリー・ジュニアです。学生としてユタに住んでいた19歳のときの

ことでした。今彼は、国が経営する高等学校の工業科の長を務めています。彼は毎朝夜が明ける前から、二つの支部の10代の子供たちのほとんどを車で教会の早朝セミナーに送り届けるために、教会と子供たちの家との間を3往復以上します。そしてセミナーが終わるまで待ち、それから子供たちを家に送り、仕事に出かけます。彼が車で送り迎えをしないと、ほとんどの子供はセミナーに出席できないのです。

ニューリー兄弟の専門は木工です。20年前、彼は政府の奨学金を受け、アメリカ合衆国のどの工業単科大学に出席してもよいことになりました。当時をこう振り返ります。「カタログには全部目を通しました。それから祈ってユタ・テクニカル・カレッジを選んだのです。政府の担当者からなぜユタを選んだか聞かれました。彼らが言うには、モルモンは黒人が嫌いだとのことでした。でも、わたしはもうユタの大学に行くことを決めていました。」





写真：アンソニー・ランド

こうしてユタ・テクニカル・カレッジ（今はユタバレー州立大学）に進んだ彼は、そこで教会員と友達になります。また、ルームメートはあまり活発でない会員でした。末日聖徒の教会の集会に出席したかったニューリー兄弟は、そのルームメートに教会に連れて行ってくれるように頼みました。そして、当然のことながら宣教師に紹介されました。

ニューリー兄弟はこ言います。「わたしは宣教師に言いました。『あなたがたの宗教について話を聞く前に、幾つか質問をさせていただいていいですか。わたしはどこから来たのですか。預言者がいないのはなぜですか。キリストは、死んでからどこへ行かれたのですか。』」宣教師はにっこりしました。そしてその質問にすべて答えると、ニューリー兄弟は言いました。「あなたがたの教会が真実であることが分かりました。」

バハマに帰ったニューリー兄弟は、

彼がいない間にすでに開かれていた小さな支部を見つけます。その小さな支部は、自分たちの教会堂を持つまでは教会員の家や賃貸の建物で集会を行いました。その間、彼は忠実に教会に集い、やがて神殿でエンダウメントを受けます。そのような中で、彼の友人であるアントワネット・ラッセルと一緒に教会に集いたいと言いはじめました。彼女は教会員の温かさに感銘を受け、ニューリー兄弟には内緒で宣教師から教えを聞くようになります。彼女はこう言っています。「わたしは、人は特別な存在だと思っていました。ですから宣教師から人の起源について教わったとき、この教会が真実であると分かったんです。平安な気持ちになりました。」

1997年3月、アントワネットとクレランスはフロリダ州にあるオーランド神殿で結婚しました。ほかにも神殿で結び固めを受けたバハマ人の夫婦は何組かいますが、神殿結婚はニューリー夫婦が初めてでした。

奉仕の業の最初

ニューリー兄弟がユタで福音を学んでいたころ、バハマではアントワン・フェリア、レオナ・フェリア夫妻が福音を紹介されていました。紹介したの

は、ナッソー在住のハイチの総領事、アレクサンダー・ポールです。フェリア夫婦は1978年にバプテスマを受け、それぞれバハマ初代の支部長、扶助協会会長となり、長年の間その召しを果たしました。

アレクサンダー・ポール兄弟は改宗者です。彼は総領事の任にあったナッソーで教会に関心を抱き、いろいろと問い合わせをしました。それからユタに飛び、教会の総大会に出席しました。感銘を受けた彼は、バハマに住んでいたマコーム家とバラード家を紹介されます。この二つの家族は、自分たちの家庭で集会を開いていました。こうしてアレクサンダー・ポールと彼の家族はバプテスマを受けました。その後フェリア夫婦に福音を紹介することになったのです。

バハマから最初に召された専任宣教師はキース・ディーンです。彼はブリガム・ヤング大学ハワイ校に在学中に教会に入りました。「わたしは教会に入る意志はまったくありませんでした。」彼はそう振り返ります。「最初の2か月は宣教師を避けていましたよ。」しかし、やがて宣教師から福音を学び、福音の真理への霊的な確信を得た彼は、1981年12月5日にバプテスマを受けました。そして3年後、カリフォルニア・



上—二人の末日聖徒の若人、
マルコ・ドーフィンと
シンディー・ノエル・ジャック。
彼らはバハマの教会における
将来の指導者である。
右—ウィラメイ・ケンプ、
クローディナ・スミス、
アントワネット・ニューリーから
成るナッソー支部若い女性会長会。



フレズノ伝道部に召されます。今、
ディーン兄弟と妻のウィニーの間には3
人の子供がいて、彼はナッソー支部の
長老定員会会長として奉仕しています。

もう一人の熱心な教会員を紹介しま
しょう。タルマ・ジョン・バスチャン
です。ハイチで生まれたバスチャン兄
弟は、友人であるアントワン・フェリ
アを通じて福音を知りました。教会の
パンフレットを2種類読んだ彼はアント
ワんに、教会のことをもっと知りたい
と言いました。そこでアントワンは、
リグランド・リチャーズ長老の『奇し
きみわざ』をはじめ、教会の書籍を何
冊か彼に渡しました。彼はそれらを熱
心に読み、宣教師が彼のもとを訪れた
ときには、もう準備ができていました。

雲から日差しが

ナッソー支部のつわもの一人は、
アントワン・フェリア、レオナ・フェ
リア夫妻に紹介されて18年前から教会
に集っているウィラミー・ケンプです。

ケンプ姉妹はこう回想します。「わた
しが教会に出席している姿が目につか
んだってレオナが言うんです。なかな
か似合っていたそうですよ。」

ケンプ姉妹にとって、その最初の集
会は忘れることのできないものとなり
ました。その日に教師が話したのは神
会についてで、彼女が長い間疑問に思
っていたことでした。彼女は、父なる
神と御子イエス・キリストと聖霊が目
的の一つではあっても別個の御方であ
るという末日聖徒の信仰を耳にしまし
た。こう言っています。「雲から日差
しが見えたようでした。その日から今
日まで、わたしは学び続けています。」

ケンプ姉妹にとって支部の歴史を彩
る輝かしい出来事の中に、1986年から
1988年にかけて、集会所建設のために
教会員みんなで協力し合ったことがあ
ります。彼女はこう説明します。「わ
たしたちは考えつくことは何でもしま
した。バザーやキー売り、洗車など、
土曜日になると何らかの資金獲得活動





をしていました。また、教会建設用地の草取りもしました。これでみんなが霊的に成長し、互いへの愛をはぐくん でいったと思います。』

現在若い女性の会長として奉仕する ケンプ姉妹はこう言います。「最近教会に 来ている若人はすごく強いです。教会が この国の隅々まで広がってくれたらいいな と思っています。」

警察官の求道者

現在のナッソー支部の支部長である エドワード・スミスは、教会に関心を持つ ようになったきっかけを今でも鮮明に覚 えています。当時、フェリア兄弟が無料の ハイチ・フランス語のクラスを開いていま した。警察で刑事の職にあったスミス支 部長は、人口の多くを占めるハイチ人と コミュニケーションができるように、ハイチ・ フランス語を学びたいと思っていました。

そのハイチ・フランス語のクラスに 集うようになってから、スミス支部長

は教会の集会に出席してみたいと思う ようになりました。ところが、集会時 間を間違っ てしまい、教会堂に着いた ときにはだれもいませんでした。建物 の周りを歩きながら待つこと1時間、 ようやく扉が開いて、中のいす並べが 始まりました。

スミス支部長はこう振り返ります。「皆 さんはとても温かくて親切でした。初日 からくつろいだ気持ちになれましたね。」 その日、彼は福音の基礎クラスに出席 しました。クラスでは『聖書』に加えて、 もう一つの聖典である『モルモン書』を 使っていました。彼がどうしたら『モル モン書』を手に入れられるかを尋ねると、 宣教師が喜んで彼にプレゼントしてくれ ました。

こうして続けて教会の教を探求する ようになった彼は、職場の中で自分が無 意識のうちに教会の擁護者になっ ていることに気づきました。「でも、 深いところまで証があるかどうか、不 安でした。そこで、本格的に探求しな ければと思ったのです。」

スミス支部長は何度も祈り、教会に 出席し、福音を研究しました。そして、 ある日のこと、「聖文を読んでいました。 今になっても、それがどの箇所だった のか覚えていないんですが、温かい気 持ちはわいてきたんです。そして、こ

れこそ自分が探し求めていた教会だと 確信しました。人生にどんなことが待 ち受けていようと、決してここから離 れないと思ったのです。」

バプテスマを受けたスミス支部長 は、クローディナという友人を教会に 招待しました。彼女は宣教師から教え を受けて、バプテスマを受けることを 決意しました。こうして二人は結婚し、 4年後、バハマ人で初めて神殿で結び 固められました。

物語はこれだけではありません。ナ ッソー支部と、ハイチ・フランス語な らびにフランス語のソルジャーロード 支部の会員には、どのようにして福音 を学び、証を得たかについてのすばら しい話があります。友達からのプレッ シャーに負けずに福音を守っている話 (本誌「パラダイスを見いだす」36ペー ジ参照) や、福音を学んだ子供たちが それを隣人の家族に知らせて良い影 響を与えているという話もあります。 バハマでは活発な教会員が目立たず にいることは不可能なのです。

バハマの教会員は、御業が国中に広 がることを望んでいます。彼らは開拓 者として、主であり救い主であるイエ ス・キリストに人生をささげているの です。福音の光を放つ彼らの顔に、美 しいバハマが輝いています。□

パラダイスを見いだす



リサ・M・グローバー

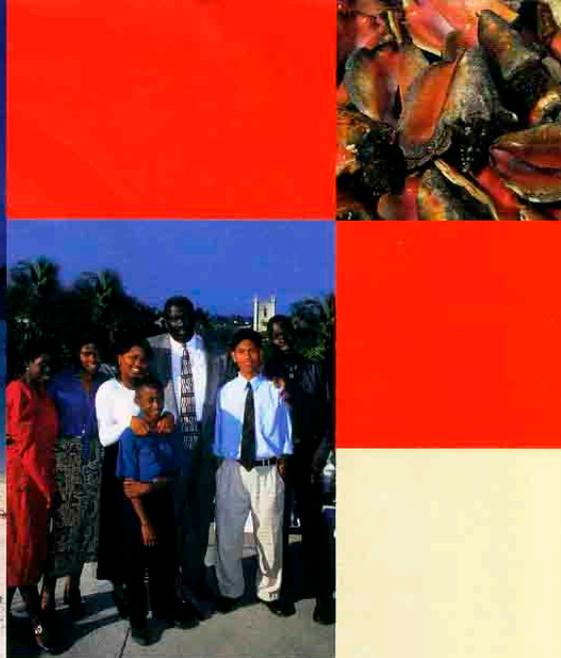
写真/ジャネット・トーマス

教会のほとんどの若人はセミ
ナリー、学校、教会の召し、
家族の活動、宿題、レクリ
エーション、アルバイト、ボランティ
ア活動などで忙しい毎日を過ごしてい
ます。こうした忙しい日々を送ってい
るあなたは、もしこれらすべてから解
放されるとしたら、どんなにすばらし
いだろうかと考えたことはないでしょ
うか。

太陽を浴びて暖められた真っ白な浜
辺、穏やかな海、そして浜辺のやしの
木が風を受けて緩やかに揺れている熱
帯の小島を思い浮かべてみてください。
太陽光線が顔に降り注いでくるような
感じがしませんか。熱帯の太陽を浴び
ながらうとうとまどろむとき、「こ
のような所に住めたらどんなにすば
らしいだろうか」と考えることでし
ょう。

そのような所に住んでいる人々
が実際にいるのです。バハマ諸島
のナッソーは、自分の家のように
くつろげるパラダイスと一部の人々
から呼ばれています。ここには寒い季
節が訪れることはありません。海の幸
は新鮮でふんだんにあります。クリス
タルブルーの海ではイルカたちが戯れ
ています。ほとんどの植物は枯れても、
突然にピンクや紫、オレンジの花を咲
かせて、甘い香りを周囲に漂わせます。
遠くから、だれかが奏でている音楽が
いつも聞こえてきます。





バハマの若人はこの美しい気候と環境を満喫していますが、彼らに日常生活のプレッシャーがないかというと、そのようなことはありません。彼らは音楽や食べ物、あるいはまばゆい太陽の光が真の平安をもたらすとは考えていません。福音の原則に従って生活することによって平安はもたらされるのです。彼らは福音を愛しているだけでなく、喜んで人々と分かち合おうとしています。

バハマに福音が宣べ伝えられてからまだ20年しかたっていないため、バハマの若人はほんとうの意味での開拓者です。家族の中で最初に教会員になった若人や家族の中で自分だけが教会員であるという若人が数多くいます。

心の望み

アンジェラ・ブルダーは数年前にハイチから家族とともにバハマへ移住して来ました。この移住によって多くの変化が起きました。中でも英語の学習は大変でした。彼女は生まれてこの方、ハイチ・クレオール語しか話したことがなかったからです。ある日の午後、アンジェラは友達の家で開かれる末日聖徒イエス・キリスト教会の無料英会話に誘われました。アンジェラはためらわずに出席することを約束しました。

「英会話のクラスで宣教師に会いました」と彼女は語ってくれます。「宣

教師は『モルモン書』をくれ、後日、この書物について話してくれました。わたしは『モルモン書』を読んだとき、強い気持ちを感じたことを宣教師に話しました。それはこれまでの人生で感じたことのない気持ちでした。わたしが感じたのは御霊であることを宣教師は説明してくれました。」

アンジェラは自分の気持ちを宣教師に話してから間もなく、レッスンを受けることになり、バプテスマを受けました。それから数週間後、アンジェラの妹、アネットもバプテスマを受けました。こうして二人は助け合いながら福音を学び、家族や友達に福音を分かち合っています。

「一部の友達とはまどっています」とアネットは話します。「彼らは『モルモン書』を見て、ニーファイ第一書を開くと『すると、これはあなたたちの創世記ね』と言います。そこでわたしは、創世記は創世記でニーファイの書はニーファイの書であること、わたしが両方を信じていることを説明しています。」

アンジェラとアネットが遭遇しているチャレンジは『モルモン書』についての誤解だけではありません。残念ながら、バハマにおける教会員の数がまだ少ないため、教会の信条と宗教的な慣習についても誤解が数多く残っています。事実、これらの誤解によって生じた社会的な圧力があるため、アネッ

アネット・ビルダーとアンジェラ・ブルダー（左）は、アンジェラが英会話クラスで宣教師に紹介されたことをきっかけに教会に入った。『モルモン書』を読んだ後にアネットは「わたしが教会に入ったのは心の望みであることを心の奥底で知りました」と述べている。



エドワード・スミス支部長(上)をはじめとする指導者たちは、早期セミナーークラスに出席する若人を熱心に支援している(下)。



トは姉が教会に入ったときも、そのようなことをして大丈夫だろうかと考えていました。けれどもアンジェラは妹に『モルモン書』を読んでから、自分で答えを見つけるように勧めました。

アネットはこのように説明しています。「モーサヤ書の中で、いつでも、どのような所においても神の証人になることについて書かれています。わたしはその聖句が好きです。また、望みについても書かれています。わたしが教会に入ったのは心の望みであることを心の奥底で知りました。こうして、わたしも教会に入らなければならないことが分かったのです。」

家族の楽しみ

アンジェラやアネットと同じように、マルコ・ドーフィンも耳を傾けてくれるすべて人々に福音を分かち合っています。彼は熱心に福音を広めています。マルコは同年代の若者と変わらない青少年です。バスケットボールが好きで、だれにも気さくに笑顔を見せます。けれども、マルコにはほかの青少年とは少し違うところがあります。マルコは指導者です。彼は友達や家族に良いと思うことや精神を高揚させる事柄について話します。彼はあらゆる人の関心を集め、そして一人一人の気持ちを和ませる方法を知っています。マルコが初めて宣教師に会ったのは数年前のことです。マルコは宣教師たちが何か特別なもの、自分も手に入れたいと思う何かを持っていることがすぐに分かりました。

「ぼくは宣教師から再臨について学んだことを覚えています。ぼくは再臨の話が好きでした」とマルコは話しています。

間もなくマルコはバプテスマを受ける準備ができました。弟のデレクも一緒にバプテスマを受けました。そして

妹のサンドラも続いてバプテスマを受けました。末の妹のティナもバプテスマを受けたかったのですが、当時はバプテスマの年齢に達していませんでした。そして後に、バプテスマを受けました。けれどもマルコの姉のロザネルは、教会に入ることがはたして良いことなのかどうか確信が持てませんでした。

「わたしはむしろ、教会が真実でないという確信を抱いていました」とロザネルは説明しています。

けれども、マルコの強い勧めもあって、宣教師たちと会うことだけは続けていました。バプテスマを受ける決意はしませんでした。教えを完全に否定したわけでもありませんでした。

「ぼくは決してあきらめませんでした」とマルコは言っています。「姉が必ずバプテスマを受けると確信していました。」

そしてそのとおりにになりました。ある日の午後、ロザネルは『モルモン書』を開いて、アルマの息子のアルマについて書かれている箇所を読んでいました。間もなくロザネルは自分の人生と、どこに向かって人生を歩んでいるのかということについて考え始めました。彼女はその日、長い時間をかけて祈りました。そして自分でも説明できない特別な気持ちを感じ始めました。

「マルコはそれが御霊だと言ったのです」とロザネルは言います。「マルコの言うことが正しいことが分かりました。わたしは改宗して、バプテスマを受けました。この決意を後悔したことはありません。」

ドーフィン家の子供たちの母親は教会員ではありません。彼女は月曜日の晩に働かなければならないことがしばしばあります。このため、マルコとロザネルが家庭の夕べを開いています。ゲームをして楽しんだり、歌を歌った

り、そして祈りとレッスンというように完全なプログラムを行います。時には専任宣教師を家庭の夕べに招待しています。

教会の活動に参加するにはそれぞれの日課を調整しなければなりません。ドーフィン家の子供たちはそのための努力を喜んでしています。「教会に入ったおかげで、わたしたちはほんとうに安らぎを得ています。家庭の中に御霊を招くことができたときに、わたしたちはさらに一致できます。そしてよい気持ちを感じます」とマルコは言います。

「ホワイト」クリスマス

ラバスト家族が4年前に教会に入ったとき、彼らは全身全霊を教会にささげようと決意しました。フィリピンからパハマへ移住したラバスト家族の父親アドルフォは支部長会に召されました。彼らは家庭の夕べを毎週開いています。高校生のアーチャーとロゼリーは毎日セミナーへ通っています。ラバスト家族は毎日聖文を読んでいます。きょうだいでいちばん年上のリナはブリガム・ヤング大学の学生です。

家族が福音に関連して経験した事柄で最も大きな喜びは、昨年クリスマスプレゼントでした。クリスマス休みを利用して、家族の結び固めを受けるためにフロリダ州オーランドの神殿へ行きました。

「わたしは神殿に入ったときにほんとうに感動しました」とアーチャーは話しています。「妹たちは泣いていました。わたしも幸せでした。また、平安を感じました。」

オーランドで家族は、大学に戻らなければならないリナと別れを告げました。もちろん別れはつらかったのですが、遠くユタ州へ行ってしまうリナを見送る彼らは心に平安を感じていま

た。離れ離れになっても彼らは永遠の家族となったことを知っていたからでした。

「神殿では出会う人皆が、真っ黒な髪をしたわたしたちが白い服を着ている姿をすてきだと言ってくれました」とロゼリーは言っています。「わたしたちも自分たちをすてきだと思いました。神殿の中は冷房が利いていて涼しかったのですが、心の中は熱く燃えていました。その気持ちを言葉に表すことはとてもできません。」

強い証

バハマの青少年は数こそ少ないのですが、力強さと主に献身することについてはひけを取ることはありません。彼らは皆、福音によってどのように生活が変わったかについて自分の体験を持っています。例えば、ナンシー・ボウがいます。おとなしい口調で語る彼女はセミナーの会長を務めるマイアメイドです。また、このような青少年の中にケルフォード・ジアンがいます。彼は毎晩、お母さんに声をかけて、一緒に聖文の勉強をしています。また、D・D・ウィルソンもいます。彼女は学校の遠足でフロリダへ行ったときに聖典と日記帳を持って行きました。聖文の勉強と日記をつけるのを一日も欠かしたくなかったからです。

バハマにおいて福音に従って生活することは決して易しいことではありません。会員数が少なく、会員たちが住んでいる地域もばらばらだからです。けれども指導者や友達の助けによって彼らはチャレンジを克服しています。島に一つか二つの小さな支部ではなく、いつか大きく活発なワードが島中にたくさんできる日が来ることを願っています。バハマの教会歴史が記されるときに、後の人々が実りを刈り取るための基礎を築いた開拓者として、彼ら全



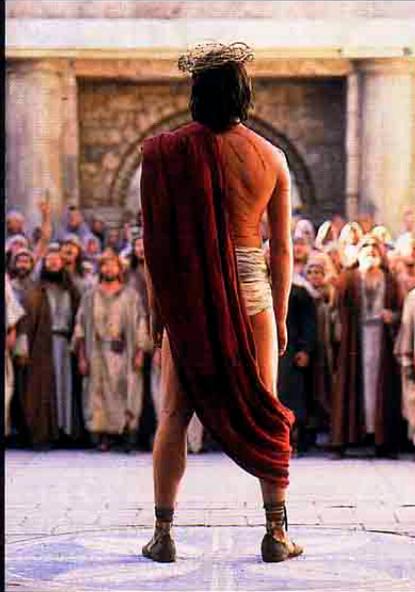
員の名前が記されることでしょう。互いに愛し合い、福音を愛している彼らはどこに住んでいても幸せです。

そして、自分たちの美しい国を愛しているこれらの青少年は知っています。平安と幸福がもたらされるのは、どこに住んでいるかではなく、どのように生活するかによるのだと。また彼らは福音に添った生活をしていれば、どこに住んでいてもそこがパラダイスになることを知っています。□

教会のあらゆる地域に住む若い女性と同様に、バハマの若い女性たちもウィラミー・ケンプ(上)のような指導者を愛している。D・D・ウィルソンと母親のエラ・ワーケン(下)は大の仲良しである。



真の勝利



教会制作映画、
To This End Was I Born「末日に生を受けたわたし」のシーン
右—「クリスタス」ベルテル・トルバルセン作

匿名

わたしは今までにたくさんの祝福を受けてきました。でも一つだけいつもつかみ損ねてきた祝福がありました。それは、自分の価値を実感する、という祝福でした。常に自分を他人と比較することが何の役にも立たないことはよく分かっています。でもわたしは他人の最も優れたところと自分のいちばん弱いところを比べてしまうのです。わたしは世間という大きな集団を相手に競い合って、いつも敗北を味わってきました。

ある日、わたしは学校でひどい葛藤に苦しんでいました。その原因はクラスメートでした。クラスメートのすばらしい成功に引き替え、わたし自身はひどく情けない失敗をしてしまった、と感じていたのです。すっかり気落ちして、イライラを抑え切れなくなったわたしは、クラスメートたちから離れて、人けのない廊下に腰を下ろしました。わたしは必死で涙をこらえていました。

やがてわたしは『モルモン書』を取り出して読み始めました。そしてニーファイ第一書第19章9節の次のような聖句に目が留まりました。「しかし、世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判

断する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさ^{みたま}と寛容に富んでおられるからである。」

御霊がわたしに下り、体全体を包み、理解の目が開けました。このときほど、聖句がわたしにとって大きな意義を持ったことはありません。涙が止めどなく頬を伝って流れました。

世の人々は憎しみと悪意をもってイエス・キリストを見ました。しかしキリストは真の勝利を取られました。キリストは御自分が何者で、また何をなすべきかを御存じでした。また、世の人々からどんなに拒まれようと、自分を見失うことなく、天の御父とのつながりを絶つこともなく、御自分で正しいと確信していることを貫かれたのです。わたしは、世の人々からどう思われようとも、またわたし自身がそれをどう感じようとも、良い結果が得られるまで頑張ろうと決意し、人けのない廊下を後にしました。□



自尊心を高める



皆さんは神の子であり、その価値が神の前に大いなるものであることを知っています。しかし、たとえ知っていても、時には自尊心を持ってないことがあります。以下の提案から2, 3試してみてください。失うものは、惨めさ以外に何もありません。

目標設定

目標に向かって努力するとき、人生はもっと刺激的なものになります。目標を設定する場合、以下の原則を念頭に置いてください。

- 現実的な目標を掲げてください。達成が不可能なほど高い目標であってはなりません。小さな目標を幾つか設定してください。達成する度に自信が増します。

- 目標をすべて書き出してください。目標は書かなければ単なる望みにすぎないことを忘れてはなりません。

- 目標を友人と分かち合い、相手も目標設定ができるように励ます。このようにすると、互いに動機づけをし、たたえ合うことができます。

- 目標達成に努めましょう。達成に必要なことを行い、たとえ困難でも落胆しないでください。

- 他人と競ってはなりません。競う相手は自分自身です。目標を他人の能力に合わせて設定してはいけません。

ほかの人の達成度にかかわらず、自分に見合うレベルに到達するよう定めてください。

- 天父にあなたの目標を分かち合ってください。祈りの中で天父に話してください。目標に到達するように、また達成できなかった場合はその原因を理解できるように助けを求めてください。天父はあなたが達成する肯定的な事柄について、前向きな気持ちが抱けるように助けてくださいます。

日課を変える

けんたい感、単調さ、決まりきった仕事。これらは人生を退屈で、悲観的にしてしまいます。ですから、これまでの習慣や経験に加え、新しいことに挑戦しましょう。

- 以下のように、従来と異なることに挑戦しましょう。自分の町で、まだ行ったことのない場所へ行ってみる。聞いたことのないラジオ局を聞く。普段とは異なる種類の本を読む。新しい友人と何かを行う。生産的な事柄に取り組む。植物を植える。料理を習う。何かを作る。だれかに手紙を書く。何か新しい事柄を学ぶ。関心のある題材を選んで、情報を収集する。その題材に関する本や雑誌を読み、携わっている人と話す。

- 奉仕するよう努める。信じられな

いほど多くの奉仕が、あなたの地域で必要とされていることでしょう。助けを必要とする事柄を調べ、進んで協力してください。または、監督、支部長に相談し、ワードや支部で何が必要か尋ねるのもよいでしょう。

視野を広げる

自分のささいな欠点が気にかかりますか。もし髪型が整っていなければ、一日は台なしになりますか。自分について気に入らないささいなことは、恐らく身の回りの事柄によって気にならなくなります。以下のように試みて、忘れるようにしてください。

- 他人に焦点を移してください。自分の弱点に思い悩むよりも、周囲の人の長所を探してください。その長所を本人に伝えましょう。

- 人の話に耳を傾けてください。単に答えを用意するためではなく、理解するために聞いてください。

- 周囲の人も恐らく、あなたと同様に不安なのだということを、覚えていてください。彼らは皆、自分の弱点を痛ほど分かっています。ですから、自分の弱点の方が、きっとほかの人の弱点よりも劣っているなどとは、一瞬たりとも考えてはなりません。□

間違った第一印象

オマール・アブラハム・アハメド・チャベス

写真/スティーブ・バンダーソン
写真イラスト/キャリー・ヘンリー、人物は本人ではありません

ペルーのリマ・マランガステークのサン・ミゲルワードでの^{せいさん}聖餐会に出席するまで、わたしが教会に関して唯一知っていることと言えば、父から与えられた知識だけでした。父はずっと以前からの教会員ですが、教会から遠ざかっていました。

残念なことに、集会に対するわたしの第一印象はあまり良いものではありませんでした。大勢のアメリカ人に会えるかと期待していましたが、アメリカ人は一人もいませんでした。集会を管理していた男性も、特に人目を引くような立派な^{ようぼう}容貌ではなく、少し肥満気味の髪の薄い男性でした。

けれど集会の終わるころ、わたしは自分の間違いに気づきました。集会の最終話者となったその男性は、子供を教え導く親としての責任について、権威をもって話をしました。その話が終わったとき、わたしは心が熱く燃えるような、何とも形容し難い気持ちを感じました。その後すぐ、その男性が監督であることを知りました。

やがてわたしはバプテスマを受け、監督とわたしは良い友達になりました。ある日、監督からこう頼まれました。「あなたのお父さんと話をしたいんだけど、ご都合を伺って来てくれませんか。」わたしは、この依頼に応じるのを避けようとしたのですが、実行に移すまで、監督から繰り返し頼まれました。ところが驚いたことに、父は喜んで監督の訪問を受けると言ってくれたのです。

すぐに監督はわたしの家を訪れ、父と話をしました。わたしは2階に残って、すべてがうまくいくようにと全霊を傾けて祈りました。二人は話し終わると、階下からわたしを呼びました。降りてみると、監督と父が親しげに別れのあいさつを交わしているところでした。

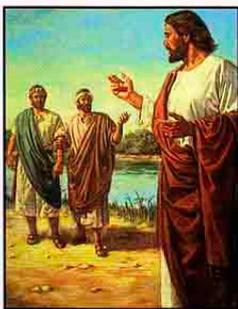
次の日曜日、父は二十数年ぶりで教会へやって来ました。それから2か月たって、父は第一副監督に召されました。

監督に対するわたしの第一印象はまったく間違っていました。監督の働きによって、わたしは家族とともにあふれるほどの祝福を受けたのです。教会の指導者は神によって召されており、靈感を受けて教会員に助言を与えてくれることを、わたしは確信しています。□

「きてごらんな

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド



イエス・キリストの二人の弟子たちはイエスが語られる言葉を初めて耳にしたときに、大きな感動を覚えて、群衆のもとを去るイエスについて行きました。キリストはだれかがついて来ることを感じて、彼らを振り返り、「何か願いがあるのか」とお尋ねになりました。二人は「どこに

おとまりなのですか」と言いました。するとキリストは「きてごらんなさい」と言われました(ヨハネ1:38-39)。

救い主が教えと導きを始められたこの最初の場面に、わたしたちの人生が凝縮されているような感じがします。第1は救い主がお尋ねになった「何か願いがあるのか」という言葉です。これはわたしたち一人一人に向かって言われた問いかけでもあります。第2は、わたしたちが求めているものを得る方法について救い主がお答えになった言葉です。それはわたしたちがどのような人物であるかまたどのような問題を抱えているかにかかわらず、一つの答えに集約されます。「わたしのもとにきなさい。」(マタイ11:28) わたしが行うこと、わたしがどのように時間を過ごすかを、来て御覧なさい。わたしについて学びなさい、わたしに従いなさい、その間にわたしはあなたの祈りにこたえて、あなたの心に休みを与えよう、と救い主は言われました。

わたしはこれ以外に、皆さんの重荷を負う方法を知りませんし、ヤコブが言った「聖徒たちのために用意されているあの幸福」(2ニーファイ9:43)を見つける方法を知りません。わたしたちがキリストの贖いの犠牲に基づいて聖約を交わし、主の名を受けるのはこのためです。比喩的であれ文字どおりであれ、わたしたちは可能な限りの方法によって、主のすべてを受ける

ために努力しています。

わたしが皆さんに願うことは、救い主の生活と教えについてもっと直接的な体験をすることです。わたしたちはキリストのもとへ行くのに、教会の管理組織や手続き、管理上の区分に気を配るあまり、間接的になりすぎるきらいがあります。これらも大切なことですが、王国において最も大切な事柄は何かということに注意を払わなければなりません。それらの中で第一に挙げられる、この上なく大切なことは、王国を支配しておられる救い主を含む神との間に霊的な関係を個人レベルで築くことです。

預言者ジョセフ・スミスは、御父と御子を信じる信仰を持つためには御二方の神聖な属性を「よく知ること」が必要であると教えました。預言者はさらに具体的に、キリストが「憐れみあり、恵みあり、怒ること遅く、慈しみと、まこととの豊かなる」御方であられることを信じないかぎり、わたしたちは天の祝福を要求するために必要とされる信仰を持つことはできないと述べています。救い主が持つておられる「至高の性格」にすぎず、「罪悪と背きと罪を赦す」主の御心と力にすぎることができなければ、わたしたちは「いつまでも救いを確かなものにできない」と預言者は記しています。けれども、御父と御子は常に変わることなく「まこととの豊かなる」御方であるため、預言者の言葉によると、そのような知識は「疑う気持ち〔を〕一掃し、信仰を著しく強める」のです(Lectures of Faith『信仰に関する講話』41-42)。

重荷を降ろしなさい

わたしは、皆さんが個人としてどのような問題を抱えているかすべて知っているわけではありませんが、

さい」

もし神の戒めに背いたり、背きの誘惑を受けたりして悩んだことのない人がどこかにいるとしたら、わたしにとってそれは驚き以外の何ものでもありません。わたしは皆さんにキリストのもとへ来て、重荷を

「嵐を静める」テッド・ヘニング画



降ろしなさいと申し上げます。主に重荷を軽くしていただくのです。心の平安を主に求めてください。この世で罪以上に重いものはありません。罪は人が背負う最も重い十字架です。

罪の重荷を負って苦しんでいる人に対して、わたしたちは預言者ジョセフ・スミスとともに、神は「救しの御方」ですと申し上げます（『信仰に関する講話』42）。あなたは変わることができます。あなたは助けを受けることができます。どのような問題を抱えていようと、立ち直ることができます。神が求めておられることは、あなたが闇から抜け出して、柔和とへりくだる心を持って光、すなわち主の光のもとへ行くことだけです。これが福音の真髄です。これこそがわたしたちのメッセージの核心です。キリストは「われわれの病を負い、われわれの悲しみをになっ」てくださり、もしわたしたちが望むならば「その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」と、イザヤは宣言しています（イザヤ53：4-5；モーサヤ14：4-5）。

悔い改め、自分を変える勇気を持ちたいと考えている人々に対して、わたしは、教会という所は完全な人々がこの世から隔絶された環境で生活している修道院ではないことを再確認しておきたいと思います。むしろ、元気になることを望んでいる人々のための病院のような所です。癒しを受けるためにあなたがなすべき事柄をすべて行ってください。ある人にとってそれは以前にも増して大きな信仰をもって生活することでしょうし、あるいは信じようとする気持ちを高めるだけのことかもしれません。ある人々にとってそれは悔い改めることを意味します。そのような人は今すぐ、今日悔い改めてください。皆さんの中には教会について勉強している方もいらっしゃるでしょう。あなたにとってそれはバプテスマを受けて、キリストとの交わりに入ることです。事実上、わたしたちすべてにとってそれは、聖霊の促しと約束にもっと心に向けて生活し、「キリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進」むことです。

「……これが道である」とニーファイは言いました。「そして、このほかには人を神の王国に救う道も名も天下に与えられていない。」（2ニーファイ31：20-21）

大胆な言い方をすると、神をほんとうに知っている人にとって、わたしたちが「神のもとへ来」さえすれば、神は両腕を広げて受け入れてくださることを疑うのは不可能です。確かにこの世のわたしたちは多くの問題に取り囲まれています。けれどもキリストのもとに来る人は、完全な平安のある場所、その人自身の内にある安全な場所に住むのです。

控えめに見ても現代と同じくらい問題の多い世界に

住んでいたニーファイ人に対して、イエスはこのように教えておられます。「山々が去り、丘が動いても、わたしの慈しみはあなたから去ることなく、わたしの平和の聖約は〔あなたから〕動くことがない。」（3ニーファイ22：10）わたしはこの聖句が好きです。丘や山は消えてなくなることがあります。世の中では考えられないようなことが起こりますが、主の慈しみと平安がわたしたちから取り去られることはありません。けれども、主は「あなたを、わたしの手のひらに彫り刻んだ」ことを確認しておられます（1ニーファイ21：16）。キリストが十字架上でわたしたちの理解をはるかに超えた代償を払われたことを考えると、今になってわたしたちに背をお向けになるようなことはあり得ません。

心の平安

主が述べてこられた慰めの言葉は恐らく全宇宙を満たすほどの量になるのではないかと思います。しかしながら、わたしたちの周囲には、不幸な末日聖徒、悩める末日聖徒、ふさぎ込んでいる末日聖徒が大勢います。彼らの不安な心にはこれらの無数の慰めの言葉が届いていません。

例えば、ゲツセマネとカルバリにおける苦痛と苦悩に向かうときにさえ、救い主が弟子たちのために祈られたことを考えてみてください。世のいかなる人も理解できないほどの苦しみを受けられたその日の夜に、主はこのように言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。……あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」（ヨハネ14：27）

これは、ほとんどだれもが守れないでいる救い主の戒めの一つだと思います。末日聖徒にとっても、ほかの面では忠実であるにもかかわらず、守りにくい戒めです。同時に、この呼びかけに応じていないことがどれほど救い主の憐れみ深い心を悲しませることになっているだろうかとわたしは考えるのです。わたしは子供を持つ一人の親としてこう申し上げることができます。わたしの子供の一人が重大な問題や悩みを抱えていたり、主の御心に背いていたりしたとしたら、わたしは親としてできる限りの関心を示すことでしよう。そのようなときに子供が助けを求めようとするだけの信頼をわたしに寄せていなかったり、あるいは子供の関心事をわたしが重要視していないと感じていたり、わたしの保護下では安心できないと感じていたりするならば、わたしは完璧に打ちのめされることでしよう。同じ意味から、救い主は御自分の民が主の保護下に置かれることに安心感を覚えていなかったり、主の戒めに信頼を置いていなかったりするのを御覧になったら、愛にあふれる主の心はわたしたちが推し量ることができないほど傷つけられると思います。

神は神であられ、キリストはキリストであられるという理由から、わたしたちが柔和で心のへりくだった状態で御二方のもとへ行き、恵みの御座みくらに近づくならば、御二方は必ずわたしたちに関心を示し、助けてくださることでしょう。御二方はわたしたちを祝福せずにはいられないのです。神と御子はそのような属性を持っておられます。キリストが歩まれた道を歩む人がわなにかかったり、溝に落ちたりすることは絶対にありません。「わたしに従ってきなさい」(ルカ18:22)と言うイエスの言葉には、御自身がどこに砂地獄が隠れており、どこに逃げがあるかを御存じであり、わたしたち一人一人が登る山の頂上近くにある滑りやすい斜面を切り切る最も良い方法を御存じであるという意味が込められています。主はそのすべてを御存じであり、道を知っておられます。まことに、主は道なのです。

互いを癒す

わたしたちはキリストのもとへ来て、平和の聖約という奇跡を目にしたときに、ほかの人々にも同じような体験をさせる義務を負うこととなります。わたしたちの周囲にはこの世のために傷つけられた人々があります。主はそれらの傷ついた人々を癒す主の業に参加するようわたしたちを招いておられます。わたしが述べている癒しとは必ずしも肉体的な病気のことでありません。とはいえ、わたしたちは必要とされたときには直ちにそれにこたえる準備を整えておかなければなりません。わたしがお話ししたいのは、癒される必要がありながら、まったく個人的なことが原因で心を切り裂かれ、心をねじ曲げられた状態にある人々のことです。だれも気づかないような心の奥深くにある重荷や心が擦り切れた状態についてお話ししたいと思うのです。

救い主の模範、主が使徒たちを召されたこと、また平安と慰めを必要とする人々が常にわたしたちの周囲にいるという事実を考えると、わたしは皆さんに、癒す人、助ける人になっていただきたいと思います。また、人々の重荷を持ち上げ、軽くし、物事を良い方向へ向けるキリストの業に参加するようお願いしたいと思います。

通常は無意識のうちにそうしているのですが、周囲の人々が抱えている問題に気づかないことがわたしたちにはあります。わたしたちは皆、問題を抱えています。最終的には、自分の幸福についてはそれぞれ自分が責任を持たなければ

なりません。問題とまったく無縁な人はいませんし、傷ついた人や疲れた人の世話だけに専念できるほど時間やお金に恵まれている人もいません。しかしながら、救い主の生涯を一つの模範として眺めてみると、わたしたちは現在していることよりももう少し多くのことを行う方法を見いだせるのではないのでしょうか。

わたし自身の青少年時代を振り返って、憐れみの気持ちを向けることができたにもかかわらず、そのときに手を差し伸べることができなかった人々についてお話ししたいと思います。だれもがそうですが、この時期は傷つきやすい年ごろです。わたしたちは帰属感を求め、友達を大切にしたいと考えます。一例を挙げると、わたしたちは1979年にユタ州セントジョージで、デキシー高等学校の卒業20周年を記念するクラス会を開きました。全員の参加を目指して卒業生の現住所を確認する作業が行われました。さて、このような準備に追われながらも楽しいひとときを過ごしている最中に、1通の手紙が寄せられました。その手紙はわたしたち全員に大きな心の痛み

癒す人、助ける人になりましょう。人々の重荷を持ち上げ、軽くし、物事を良い方向へ向けるキリストの業に参加しましょう。



を与えることになりました。その手紙の主は、非常に聡明な若い女性でしたが、子供のころ、あまり人気者ではありませんでした。このような内容の手紙でした。「卒業20周年のクラス会、おめでとうございます。皆さんこれまで頑張ってくださいね。楽しい会になることを願っています。でも、わたしは欠席させていただきます。実はこの20年間、学校時代のつらい思い出を何とかして忘れようと努力してきたのです。ようやく最近になって孤独感を和らげ、ずたずたにされた自尊心を回復してきたところなのです。みんなの前に姿を見せて、昔のことをすべて思い出したくはないのです。皆さんで楽しんでください。出席しないわたしを許してください。これはわたしの問題であって、決して皆さんのせいではありません。たぶん、30周年のクラス会には行けると思います。」

しかし、彼女は一つの大きな思い違いをしていました。それは彼女の問題でなく、わたしたちの問題だったので。わたしたちはそのことに気づいていました。わたしは青少年時代の彼女や彼女と同じような目に遭った友人たちのことを考えて涙を流しました。わたしたちは、救い主が若人のグループに対して望んでおられたような主の代理人や主の弟子としての務めを果たさなかったのです。わたしは、仲間に入っていなかった人々に目を向けるためにどのようなことをすべきだったのだろうか、どうすれば彼らに親しみを込めた言葉をかけ、彼らが訴えていることに耳を傾け、ともに過ごす時間を取ることができただろうか、と考えました。そうしていれば、高校生活における交わりという輪の縁を懸命につかんでいた人々、また外側に放り出されてしまった人々にきっと手を差し伸べることができたでしょう。

わたしは、心の安らぎを得ていない人々、わたしたちの安らぎの輪から出て行った人々、手を差し伸べるのが必ずしも容易でない人々に手を差し伸べるように皆さんに訴えたいと思います。

キリストはわたしたちを見守っておられる

キリストは、わたしたちを助けてくださる力や、わたしたちが人々の力になろうとするとときに助けてくださる力を使い果たしてしまわれたのではないかと心配する必要はありません。キリストの憐れみは足りなくなったりすることはないのです。イエスが5つのパンと5匹の魚で5,000人の群衆を養われた奇跡はこの霊的で永遠の教えを裏づけているのです。この出来事の後に弟子たちが経験した事柄の中にも教訓が含まれています。イエスは群衆に食べ物をお与えになると、彼らを家に帰らせ、そして弟子たちに舟に乗ってガリラヤの海の対岸まで行くように言われました。そして

御自身は「祈るため……山へ登られ」ました（マタイ14：23）。すでに時は夕刻を迎え、夜は嵐になることを伺わせていました。きっと舟をこぎ出すときから猛烈な風が吹いていたことでしょう。それでも弟子たちは明け方の3時から6時ごろまで懸命にオールをこいで舟を対岸に着けようとしていました。けれども舟は出発点から数キロまでしか進んでいませんでした。そして、舟は猛烈な嵐に捕らえられてしまいました。

けれどもキリストはいつものように彼らを見守っておられました。弟子たちが苦しんでいるのを御覧になった救い主は彼らの乗っている舟に向かって、最も直接的な方法で近づいて行かれました。波の上を歩いて彼らを助けに行かれたのです。舟がまさに沈没しようとしたその瞬間に、弟子たちは闇の中に目を凝らすと、逆巻く波の上を歩いて来る不思議なものを目にしました。荒波の上に幻を見たと思った彼らは恐怖のあまり、悲鳴を上げました。そして、嵐と闇をついて彼らを元気づける主の声が聞こえてきました。「わたしである。恐れることはない。」（マタイ14：27）

この出来事にはわたしたちがキリストのもとへ行く、あるいはキリストをお招きするための第一段階が明らかにされています。それはわたしたちが恐怖に近いものに襲われる場合があるということです。必ずそうなるというわけではありませんが、時々そのようなことが起こります。これは福音自体が裏腹の意味を持っていることを表す一つの例です。つまり、わたしたちに差し出されている助けと満足をもたらす源は、同時に、肉体を持つがゆえに目の前しか見ることができず、そのためにそこから逃げ出そうとする原因にもなっているということです。

助ける（Succor）という言葉には興味を覚えます。聖文ではキリストがわたしたちに関心を示し、注目しておられることを表す場合にしばしば用いられています。元来は「どこかへ走って行く」という意味です。救い主がわたしたちのために行ってくださいる緊急的な措置を表す言葉としてまさにうってつけの言葉であると言えます。救い主はわたしたちにみもとへ来て、主に従うよう求めておられますが、救い主は必要な場合に必ず、走って助けに来てくださいます。

イエス・キリストは生ける神の御子です。主はわたしたちに主のもとへ来て、主に従い、主の慰めを受けるような望んでおられます。そのような祝福を受けたわたしたちが次に、ほかの人々に慰めを与えるよう主は望んでおられます。歩みを遅くする必要はまったくないのですが、救い主に向かうわたしたちの歩みがどれほど遅くとも、わたしたちに向かう主の歩みが遅くなることはありません。神の恵みと御子の憐れみを受けるために必要な信仰をわたしたちが持てるように祈っています。□



「サウルの前で琴を弾くダビデ」ハロルド・コッピング画

「悪霊がサウルに臨む時、ダビデは琴をとり、手でそれをひくと、サウルは気が静まり、良くなって、悪霊は彼を離れた。」

(サムエル上16:23)



「**そ**して見よ、わたしがこれらのことを語るのは、あなたがたに知恵を得させるためである。すなわち、あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのであるということを悟らせるためである。」（モーサヤ2：17）世界中の多くの末日聖徒が人に仕えるときにもたらされる喜びを見いだしている。「奉仕にささげる土曜日」10ページ、「同胞のために務める」14ページ参照。



ヒンクレー大管長、ノーバスコーシャ、 アフリカ、メキシコの教会員を励ます



ゴードン・B・ヒンクレー大管長の到着を待つガーナ、アクラの会員たち。
写真/スティーブ・フィデル。【チャーチニュース】(Church News)の厚意により掲載。

チャーチ・ニュース

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は1998年の第一四半期に、全世界の教会員を励ますため、それぞれ数週間以内で各地を回る大規模な旅行を2度実施した。2月12日から22日まで行われたアフリカの5か国をはじめとする、カナダの各地、カナリア諸島、カーボベルデへの旅には十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が同行した。飛行時間約54時間、距離にして4万キロに達する今回のアフリカ訪問は、ヒンクレー大管長にとってかつてない長い旅となった。なお、このアフリカ大陸訪問によって、ヒンクレー大管長は南極大陸を除くすべての大陸を大管長在職中に訪問したことになる。

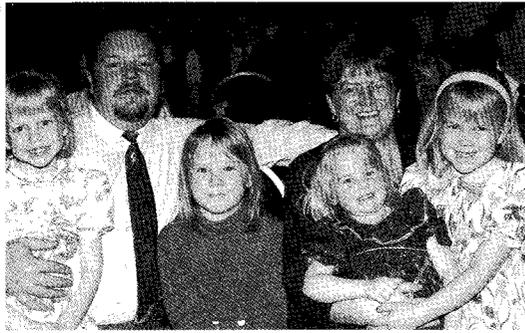
アフリカ訪問から帰国して2週間後の3月9日から15日まで、ヒンクレー大管長はメキシコ北部の各都市を訪問する旅に出ている。メキシコ訪問には十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老と七十人でありメキシコ北部地域会長会会長を務めるエラン・A・コール長老が同行した。

カナダ・ノーバスコーシャ

ヒンクレー大管長はアフリカへ向かう途中、2月12日木曜日、カナダ東部ノーバスコーシャのハリファックスに立ち寄った。カナダの大西洋岸地域に住む約1,700人の教会員が会場となった世界貿易会議センターに集まり、ヒンクレー大管長とホランド長老の話に耳を傾けた。七十人であり北アメリカ北東地域会長会第二副会長を務めるドナルド・L・ステーリー長老もこの集会で話をしている。

ニューファンドランドのセントジョンズから出席した一人の教会員はこのように述べている。「この地方に住んでいるわたしたちはときどき孤独感を覚えることがあります。わたしたちは車を走らせ、船を乗り継いでこの会場までやって来ました。旅の間にさまざまな痛みと苦しみを経験しましたが、それもこの集会に出席することによって十分な報いを受けることができました。預言者にお会いすることはそれほど大きな

ナイジェリアのポートハーコートで聴衆に手を振るヒンクレー大管長。大管長の訪問に備えて数百人の会員たちが会場の準備作業に汗を流した。



カナダのノーバスコーシャ、ハリファクスではこの写真の家族をはじめとする約1,700人の会員たちがヒンクレー大管長とホランド長老の説教を聴くために集まった。

祝福でした。」

「わたしは人生で、これほど強く霊的な力を感じたことはありませんでした。預言者がおられる場所に一緒にいるだけでそのような力を感じることができました」とノーバスコーシャのノースドニーから来たダフニィ・オリバーは話している。「大管長はわたしたちに向かって愛を投げかけてくださいました。わたしはそれを力強く感じました。」

カナリア諸島

ヒンクレー大管長はアフリカに到着する前日の2月13日金曜日、アフリカ北西海岸の沖合、大西洋上に浮かぶスペイン領のカナリア諸島、ラスパルマス市に降り立った。ラスパルマスでは七十人でありヨーロッパ西地域会長を務めるディーター・F・ワークトドルフ長老がヒンクレー大管長とホランド長老を出迎えた。民族衣装に身を包んだ子供たちが大管長を歓迎するためにホテルを訪れ、花束と、ウクレレに似た地元の伝統楽器であるティンプルを贈っている。

ヒンクレー大管長はラジオや新聞などの報道関係者からインタビューを受けた後、会場となるパレス・オブ・コングレシズに集まった約800名の教会員に語りかけた。ヒンクレー大管長は記者会見において次のように語っている。「わたしたちの目的は、人々の生活を高めることであり、人生において最も大切ないくつかの質問に対する答えを見出すことができるように助ける

ことです。」

フエルテベンツラ地方部のフランシスコ・バレラ地方部長はこのように述べている。「伝道部長からヒンクレー大管長がカナリヤ諸島においてになると聞いたとき、わたしは笑って、そんなことは信じませんと言いました。けれども、その話は本当でした。予定された日が近づくにつれて大管長をお迎えする準備が着々と進められました。わたしたちの長年の夢が叶えられた思いでした。大管長の訪問は会員たちにとって大きな励ましとなるに違いありません。」



カナリア諸島で子供たちの歓迎を受けるヒンクレー大管長。

ナイジェリア

ヒンクレー大管長がアフリカ大陸に到着したのは2月14日土曜日である。七十人でありアフリカ地域会長を務めるジェームズ・O・メーソン長老がナイジェリアのポートハーコートに到着する大管長を出迎えた。なお、メーソン長老はアフリカ大陸の全行程を大管長に随行した。子供たちが歌う「神の子です」の調べに迎えられたヒンクレー大管長は、壁がなくコンクリートの柱とブリキ屋根だけの会場に集まった約1,100名の神権指導者に向かって説教を行った。

神権指導者会に出席したカラバー地方部のイモー・エシエット地方部長は「預言者が兄弟たちを訪れ、召しに献身することを決意するよう勧告を与える光景は実に感動的でした」と語った。「わたしはこのメッセージを会員たちのもとに持ち帰って、家庭においては両親としてまた社会においては指導者



として義務をよく果たすよう励ますつもりです。」

翌2月15日日曜日、ヒンクレー大管長は教会の施設を視察するために車でナイジェリアのアバへ向かった。目的地に近づくとき大管長は驚きの表情を見せた。数百人のアバ・ステーキの会員たちが安息日にふさわしく、服装を整えて沿道に立ち、白と緑のナイジェリア国旗の小旗を振って歓迎する姿を目にしたのである。その日の午後、大管長はポートハーコートで開かれた地区大会に出席して約1万2,000名の会員たちに話をした。この大会に出席するためにナイジェリアの遠い地域からも多くの会員たちが駆けつけた。最も遠い所からは会場まで来るのに12時間を要したとのことである。大会を間近に控えた数百名の会員たちはヒンクレー大管長を迎えるために市民センターの準備を行った。壁の清掃、クモの巣の除去、入り口の清掃とペンキ塗り、床の清掃、照明器具と扇風機の設置、舞台と休憩室の設置、舞台の幕と説教壇の設置、観葉植物の準備と設置、1万脚の椅子の手配と設置、ステーキセンターからオルガンを運び出して設置する作業などに多くの時間を費やした。



ナイジェリアのポートハーコートでは約1万2,000人の会員たちが集まってヒンクレー大管長の話に耳を傾けた。

「ナイジェリアの教会が発展するには、皆さんの成長が必要です」とピンクレー大管長は述べた。「もし皆さんが何もしなければ、おそらく教会には何も起



らないでしょう。しかし、皆さんは人々を助けるという責任を受けています。一人一人がこの責任を果たすために、熱心に努力するならば、教会は力を増し加えていくことでしょ

う。ベニンシティから大会に出席した一人の姉妹はこのように述べた。「この大会はまるでイスラエルの子らがモーセのもとに集合しているような大会でした。」



ナイジェリアの教会員。

ガーナ

ピンクレー大管長がガーナのアクラに到着して最初に行ったのは、神殿の建設予定地の訪問だった。2月16日月曜日の朝、大管長は候補地を訪れた後、ジェリー・ジョン・ローリングス、ガーナ大統領を官邸に訪れて約30分間会談した。1989年以降ガーナ政府が教会のすべての活動を禁止した時期について触れたローリングス大統領は、「過去の争いのもととなった要因を取り除いて、今後、霊的な面において発展することを期待しています」と語った。これに対してピンクレー大管長は「では、ここで過去の出来事について終止符を打ちましょう」と語った。

同日の午後、ピンクレー大管長は大西洋に面したアクラの海岸に建つイン

デペンデンススクエアに向かい、集まった約6,500人の会員たちに説教を行った。集会を終えてホテルに戻った大管長は夜、国営テレビおよびラジオの記者からインタビューを受けている。

ケニヤ

アフリカ大陸を東へ向かって横断したピンクレー大管長は、2月17日火曜日の午後、ケニヤのナイロビに到着した。そして滞在先のホテルで、大会議室に集まった約900人の教会員に話をした。出席者の中には遠くエチオピア、ソマリア、タンザニア、ウガンダから訪れた教会員もいた。ナイロビまで旅行する費用を捻出できない会員たちは、資金を出し合って、代表者を派遣する方法を考えた。彼らは代表者が持ち帰る経験を分かち合うことによってでも、大管長に触れようとしたのである。

「あらゆる地で、すばらしい愛のきずなが神の聖徒たちの間に築かれています」とピンクレー大管長は説教の中で語った。「それは驚くべきことであり、すばらしいことです。皆さんの顔を拝見するときに、わたしがソルトレークのタバナクルで人々の顔を拝見するときと同じ愛のきずなを見ることができます。わたしたちは皆、末日聖徒イエス・キリスト教会という偉大な家族の一員です。教会は今や世界の160か国に1,000万人の会員を有しています」。

大管長はさらに、こう述べた。「皆さんが信仰と忍耐をもって歩むならば、この地に神殿が建てられ、この民の必要を満たす日が来ることをわたしは信じて疑いません。それは必ずしも2、3年の内に実現するというものではありません。……けれども、その時は確実にやってきます。」

ジンバブエ

2月18日水曜日の夕刻からジンバブエのハラレに集まった約1,500人の教会員に対してピンクレー大管長はこう語った。「わたしたちは皆、偉大な家族、驚くべき家族、生けるキリストの家族の一員として、心を合わせて主を礼拝しています。」

大会にはジンバブエの防衛大臣および社会福祉長官をはじめとする政府ならびに宗教界の代表者も出席していた。大会を終えるにあたり、会衆が立ち上がって、「神よまた逢うまで」（賛美歌85番）を英語と地元のふたつの言語で歌う中、ムタレ地方部に所属する彫刻家アグリッパ・アンドングエ作「永遠の家族」と題する石の彫像が大管長に贈られた。

南アフリカ共和国

2月19日木曜日の朝、ピンクレー大管長は南アフリカ共和国ヨハネスバーグに到着した。同日午後、大管長はヨハネスバーグ神殿を訪れて、神殿職員と言葉を交わした後、南アフリカ共和国最大の新聞社とのインタビューに応じた。ヨハネスバーグ国立レクリエーション博覧会センターにおいて夕方から開かれた集会では約5,500人の会員たちを前にして説教を行った。

「兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは今、教会の歴史上有数の栄えある時を迎えています」とピンクレー大管長は語った。「教会が今日ほどの力を持ったことはかつてありませんでした。教会の声が今日ほど世界各地に伝えられたことはありませんでした。今日ほど多くの建物を建築した時代は過去にありませんでした。わたしたちは教会歴史上最も偉大な時期を迎えています。」

2月20日金曜日、大管長はダーバンの会議センターに集まった1,800人の教会員に語りかけ、その日の午後遅くにはケープタウンに飛行機で移動して、大学のスポーツスタジアムに集まった約1,500人の教会員に対して教を説いている。

「多くの方々には、この国の動向に関心をもっておられると思います」と大管長はダーバンの会員たちに語りかけ



(左から)カーボベルデにおける記者会見に臨んだジェフリー・R・ホランド長老、ホセ・A・テイシェイラ・ダ・シルバ長老、ヒンクレイ大管長、カーボベルデ国務長官アナ・ポーラ・アルメイダ氏、ディーター・F・ウークトドルフ長老。

た。「どこへ移民すべきか、そしてどの地域へ行くべきかで悩んでいる人もいることでしょう。……教会はここ南アフリカ共和国にとどまることを断言します。

わたしたちがこの地に来てから長い年月が経っています。教会はこれからも長年にわたってこの地にとどまります。ヨハネスバーグには美しい神殿があります。この国の至る所に集会所があります。わたしたちは今後も集会所を建築していくつもりです。教会員はその数を増すことでしょう。現在ヨハネスバーグには5つのステークがあります。時がくれば、ここ〔ダーバン〕にも同じ数のステークが組織されることでしょう。」

ヒンクレイ大管長はケープタウンの大会会場に入ろうとしたときに、ステークの若人が作った寄せ書きを贈られている。「大管長は疲れた様子でしたかって？おそらく疲れておられたでしょうが、大管長は集まった人々のだれにもそのことを気づかせませんでした」とロンダボシュのクライブ・ニコルスは述べている。主の油注がれた者が励ましを与え、いましめ、霊的な成長を促すための勧告を与えたとき、会衆にちょっとした異変が起きた。涙を流す聖徒がいると思えば、一方ではほほえみを見せる聖徒がいた。これらは一見矛盾しているようだが、聖徒たちと預言者の間に確かな愛の交流があったことのアかしである。

翌朝、ホテルを出た大管長を待っていたのは初等教会の子供たちだった。子供たちは「感謝を神に捧げん」（賛美歌11番）を歌って大管長の出発を見送った。子供たちの髪をくしゃくしゃになでたり、握手をしたりしながら車まで歩いて行くと、教会の指導者はこう言った。「お別れを言いに来てくれてありがとう。感謝しています。」

カーボベルデ

ヒンクレイ大管長は2月21日土曜日

にアフリカ大陸を離れて、同日の午後、カーボベルデ諸島の首都プライアに到着した。大管長はカーボベルデの国務長官と会見した後、ラジオ局、テレビ局の代表者による記者会見に臨んだ。翌2月22日日曜日、大管長は今回の旅行の最後となる説教を行った。この集会には周辺の島々から約800人の教会員が集まった。

大管長は今回の訪問を通じて再び、信じられないほどの活力を示し、常に聖徒たちの間に立つとする不屈の意志を貫いた。この旅行に同伴したホランド長老はきらりと目を輝かせながら、「これが行動するということです」と語った。

エルモシーヨおよびシューダードオブレゴン、メキシコ



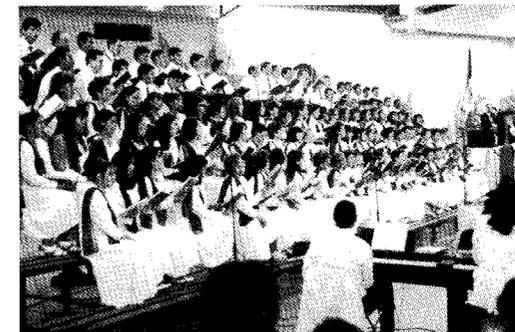
メキシコ、エルモシーヨの又エーボ・ジムナシオ・オブ・ソノラ大学に周辺の10地域から集まった約3,100人の末日聖徒を歓迎するヒンクレイ大管長。

エルモシーヨを最初の訪問地として3月9日から15日までメキシコ北部の各地を歴訪したヒンクレイ大管長は合計5万3,000人の教会員に向かって語りかけた。大管長は数ヶ月前に、メキシコ南部とベリーズを訪問している。

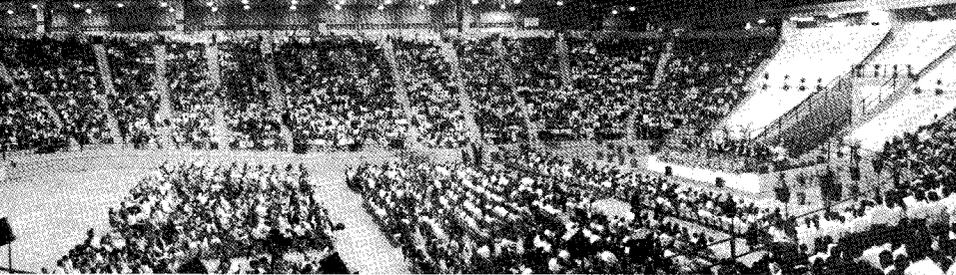
エルモシーヨにおいて開かれた集会で大管長は次のように述べた。「この

会場にいるすべての成人会員が神殿の推薦状を受けるにふさわしくなっていたきたいと思います。たとえ神殿に参入することはできなくとも、監督とステーク会長から推薦状を受けてください。そしていつも推薦状を持ち歩いてください。そうすることによって、あなたは主と交わした大いなる神聖な聖約を思い起こすことができます。皆さんは清く純粋な生活を送ること、お互いに愛と思いやりを示すこと、隣人が教会員でなくとも彼らに愛の手を差し伸べて、彼らに助けと祝福をもたらすことを主と聖約しました。」

3月9日月曜日の夕方からシューダードオブレゴンにおいて開かれた集会で、大管長は出席した3,300人の会員たちを前に説教を行った。「皆さんは何とすばらしい人々でしょう。福音に従って生活している皆さんは世界で最も善良な民です。わたしはそれを信じています。わたしたちは皆さんのために祈っています。皆さんもわたしたちのために祈ってください。皆さんの祈りに感謝しています。皆さんが義にかなう道を歩んでいるならば、天が開かれることをわたしたちは今晚、祝福として残していきます。……ヒンクレイ兄弟が今晚、神が生きておられることを、イエスがキリストであること、また輝ける示現においてお二方が永遠の真理の神権時代を開かれたことを知っていること、また皆さんがそれをしっかりと耳にしたことを忘れないでください。」



メキシコのシューダードオブレゴンを訪れたヒンクレイ大管長を歓迎するために100人の聖歌隊が白の衣装に身を包んで演奏を行った。写真/グラド・リーベイラ



メキシコ、グアダハラでは主の預言者の声を聴くために数千人の人々が集まった。写真/マヌエル・ガルシア

クーリヤカンおよびグアダハラ、メキシコ

ヒンクレー大管長は3月10日火曜日の午前中に、クーリヤカンに集まった約4,100人の教会員に、夕方にはグアダハラで約6,000人の教会員に対して説教を行った。

「皆さんは今や、力強さにおいて世界のどの地域の教会員にも劣ることはありません」とヒンクレー大管長はクーリヤカンの教会員に語った。「皆さんは証を持っています。皆さんは神の偉大な幸福の計画を知っています。王国と人々を築き、そして強めるために最善を尽くしてください。皆さんが真実であり、徳高い生活を送ることを願っています。……皆さんは美しい民です。わたしはあなたがたを愛しています。」

グアダハラにおいて、大管長は新たに改宗した人々を定着させることに関する緊急のメッセージをここでも繰り返して述べている。「今晚出席している皆さん一人一人にお願いしたいことがあります。教会に改宗した人々を見つけて、彼らの肩に腕を回し、彼らと友達になってください。監督、支部長の皆さんは彼らに働く機会を与えてください。教会で何か行うことを与えてください。働くことによって彼らは信仰を強めるのです。信仰は腕の筋肉のようなものです。筋肉を使い、栄養を与えるならば、それは強くなります。三角巾で吊ってそのままにしておけば、弱くなります。兄弟姉妹の皆さん、どうか、どうか、教会のすべての改宗者に手を差し伸べ、信仰を確立できるように助けてください。」

トレオン、レオン、シューダードビクトリアおよびモンテレイ、メキシコ

一日に二つの都市を訪問するペースを維持するヒンクレー大管長は3月11日

水曜日の午前中にトレオンで約5,300人の教会員に会い、夕方にはレオンで数千人の教会員を前にして説教を行った。

「神の預言者が明確に語る言葉を聴くだけでなく、個人としてまた家族として預言者から祝福を受けるといふ素晴らしい経験をしました」とトレオンの会員、ビクトル・リオス・アフエンダーニョは語った。「聖歌隊の一員として歌うことができたのも特別な祝福です」とアフエンダーニョ兄弟の妻ノーマ・オラリアは語る。「説教壇の近くに座っていましたので、この20年間で初めて生ける預言者を間近に見ることができました。夫と子供たちとともに預言者にお会いすることができました。」



メキシコ、レオンでは会場となったドモ・デ・ラ・フェリアに入るため会員たちが何時間もの間、行列を作って待ち続けた。写真/ビクトル・ラミレイス・アナヤ

3月12日木曜日、大管長は午前中にシューダードビクトリアで話した後、夕方にはモンテレイで約1万2,000名の人々に向かって話している。

サンニコラス・ステーキのアベラルド・モラレス・メンデス会長は「ここでヒンクレー大管長のメッセージを聴くことができるのは、わたしたちにとって非常に特別な祝福です」と語っている。「わたしたちは大管長をととも愛しています。大管長がおっしゃったように、これからも引き続き祝福を受けることができるように願っています。会員たちは皆、同じ愛を大管長に対し

て抱いているに違いありません。わたしは今喜びに満たされ、新たな力を受けたことを感じています。」

ロマ・ステーキの聖歌隊隊長であるモルモン・トレビーニョはモンテレイ地方が例年になく気温が低かったことに触れて、「中央幹部の兄弟たちは寒さと雨で大変だったでしょうが、穏やかな表情をして席に着かれておられたので安心しました。わたしは預言者のメッセージに感動しました」と述べた。

チワワおよびシューダードファレス、メキシコ

「この国には素晴らしい未来が待っていることを感じます。」3月13日金曜日の夕方からチワワに集まった4,000人近くの聴衆に向かって、ヒンクレー大管長は語った。「メキシコは自らの足でしっかりと立っており、前進を遂げています。教会はこの国において成熟しています。……わたしは皆さんが力強い信仰をもっていること、皆さんの間で指導者が続々と育っていること、若い世代の人々が福音の知識を持ち、神の御業と信仰に愛を抱いていることに感動を覚えています。」



メキシコ、チワワでは会場を後にするヒンクレー大管長を見送るために会衆が立ち上がって賛美歌を歌った。写真/レオネル・シルバおよびフィデル・マーケイス・フロアの好意により提供

3月14日土曜日の午後、ヒンクレー大管長はシューダードファレスにおいて神権指導者会を開き、翌3月15日の日曜日には大勢の人々がつめかけた大会において説教を行った。「世界中で最も大いなる祝福は、神がわたしたちの御父であること、人類の救い主が生きておられ、実在する御方であることを知る知識です」と大管長は語った。

「神は実在する御方です。神は骨肉の体を持つ一人の御方です。イエスは復活した骨肉の体を持っておられます。聖霊は霊の御方ですが、個人として存在しておられます。彼らは三位一体で

はなく、目的において一つとなっておられる別個の三人の御方です。わたしたちがこのことを知っているのは福音が回復されたからです。」

シューダードフアレスは、先頃、小

規模神殿の^{くわ}鍍入れ式が行われたコロニアフアレスから車で約3時間の地域にある。□

ヒンクレー姉妹、 慈善奉仕活動で表彰される

「モルモン・カウンセラーおよび心理療法士協会」(AMCAP)が贈る最高の賞である「慈善奉仕活動功労賞」が4月2日、マージョリー・P・ヒンクレー姉妹に贈られた。

AMCAPのシャーマン会長は次のように述べた。「ヒンクレー姉妹は着実に、確固として、継続的に、世界中どの地域に住んでいようと、どのような身分であっても、兄弟姉妹すべてに対して配慮、関心、支持を示してきました。」シャーマン会長からヒンクレー姉妹への賞の贈呈は、ソルトレーク・シティのジョセフ・スミス記念館で開かれた協会の春の年次集会の席で行われた。〔ヒンクレー姉妹は〕洗濯室で働く人や、デパートの店員に対し、格式ある晩餐会で〔政府の高官に〕示すと同様の思いやりを示せる人である。

女性の役割がより不透明さを増す時代にあって、ヒンクレー姉妹の模範は、女性が強さと気品を持ち、責任を立派に果たし、多大な影響をもたらす小さな手段で人々を感化する方法を示している。またヒンクレー姉妹は、多くを要求される社会生活での責任と、妻、そして母親としての召しとの両立を学んできた。

受賞の際、ゴードン・B・ヒンクレー大管長夫人であるヒンクレー姉妹は次のように述べた。「わたしは多くを達成できる人と結婚しましたので、夫に与えられる榮譽に拍手を贈るのはいやなく、心地よいものですが、自分が頂く褒美は、どのようなものでもあ

まり落ち着きません。」

またヒンクレー姉妹はこのようにも述べた。「わたしたちは皆最善を尽くしています。自分の最善はほかの

人の最善に及ばないかもしれませんが、自分の最善であることには変わりありません。実際、最善を尽くしているか否かは自分で分かるものです。もし最善を尽くしていなければ、痛烈な飢えの苦しみとairaだちが募るだけです。しかしできる限りのことをしていれば、平安を感じられるでしょう。」

ヒンクレー姉妹は、教会の組織内で個人がほかの人の必要に気づき、親切な行いをする機会があることを説明した。「必要に気づいたとき、親切を示すことはいともたやすいことです。イエスは多くの機会を通してその模範を示してくださいました。聖文に記されている模範で最も好きな箇所は、主が盲人を村の外に連れ出された話です(マルコ8:22, 26参照)。ほんの小さな親切ですが、力強い模範です。神は、わたしたちが親切を示す機会に気づくように助けてくださいます。」

ヒンクレー姉妹の話の後、ヒンクレー大管長が話をした。ヒンクレー大管長はAMCAPの会員に対し、次のように伝えた。「このような協会が存在するのは素晴らしいことです。常に攻撃を受けるこの世界に生きるうえで、



モルモン・カウンセラーおよび心理療法士協会会長ジャネット・シャーマンより「慈善活動功労賞」を授与されるマージョリー・P・ヒンクレー姉妹
写真/ゲラリー・マッケラー 写真提供/「チャーチニュース」

教会内のこのような専門的な立場から、ともに立ち上がり、協力し合い、互いに強さと支援と励ましを与え合うことは、注目すべきことであり、すばらしいことです。主がこの偉大な組織で働く皆さんを祝福されますように。」

そしてヒンクレー大管長は会員たちに、続けて良い業を行うように励ました。「困っている人々や助けの必要な人々に手を差し伸べてください。そのような人は非常に多くいます。わたしは数年前、カリフォルニアのロサンゼルスで広告掲示板を見ました。そこには、入院する患者は肉体的な問題よりも、精神的問題に起因する人の方が多い、と書かれていました。これに関し、ほんとうか否かはわたしには分かりませんが、皆さんはそのような人々に何をすべきか御存じのことと思います。彼らに励ましと希望を与え、関心を示してください。皆さんが専門的な奉仕を行うときに、いつも祝福がありますように。ともにあって、協力し合い、互いに愛と敬意と感謝を示し合うことができるよう、皆さん一人一人のために祈っています。」

「モルモン・カウンセラーおよび心

「心理療法士協会」は、教会の原則や標準を忠実に支持するという共通の理念を持つカウンセラー、心理療法士および関連する専門家たちの国際的な組織である。しかし独立専門機関であり、教

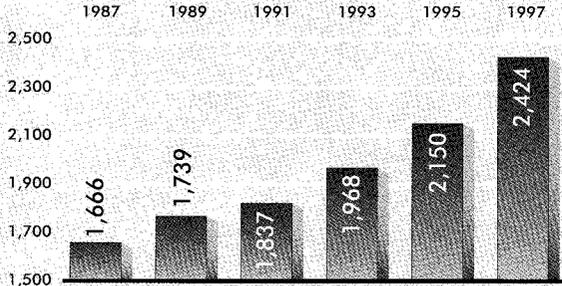
会には後援していない。会員は教会または教会の指導者を代表する声明を行わない。この組織は1975年に設立され、ソルトレーク・シティーで年に2回会議を主催し、訓練、調査研究発表、革

新的治療開発、多くの専門分野にわたる授与式を行っている。□
 『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年4月18日付けの記事より掲載。

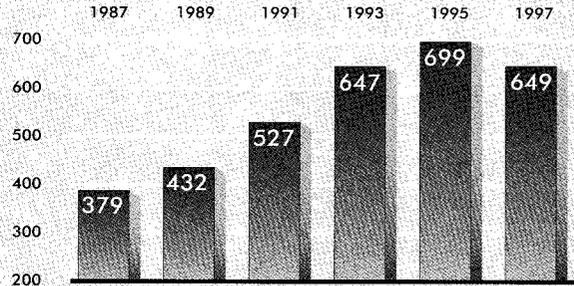
1997 年間統計報告

1998年4月の総大会で発表された、1997年12月31日現在の教会の現状に関する統計報告

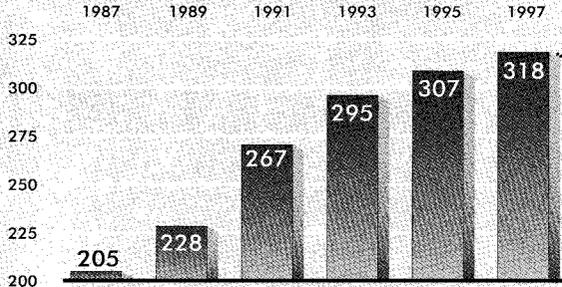
ステーク



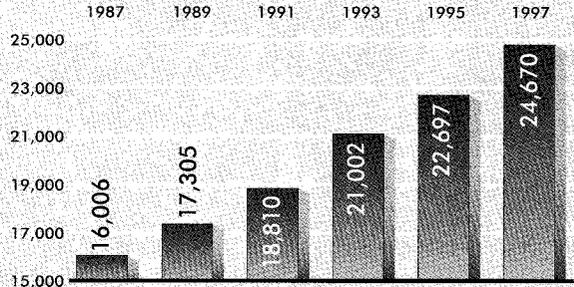
地方部



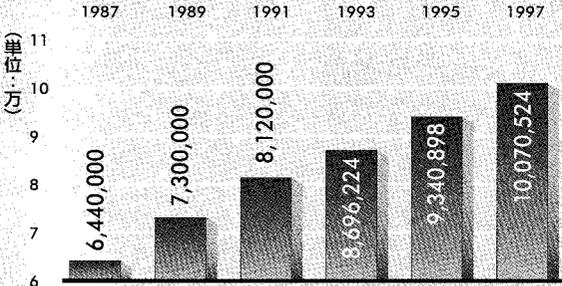
伝道部



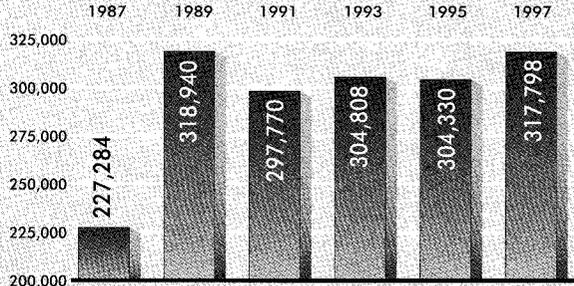
ワードおよび支部



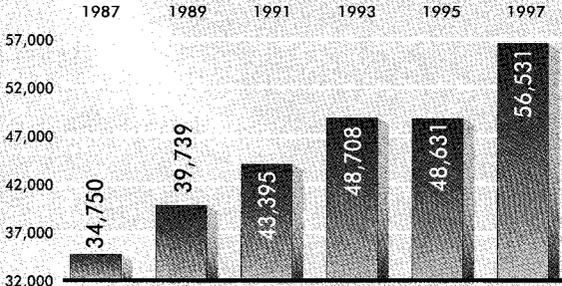
教会員総数



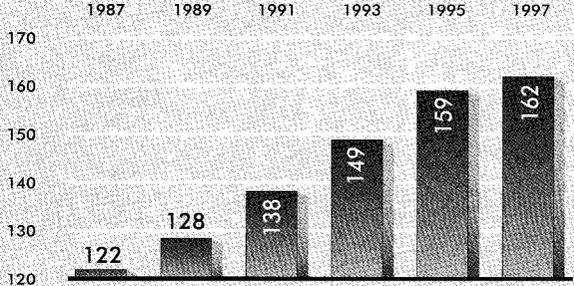
改宗者総数



宣教師総数



ワード・支部が設立されている国および属領地の数



表/ヘザー・L・タトル。『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年4月18日付けの記事より掲載。

神権者の心得 / アロン神権の奉仕

管理監督会，中央若い男性会長会

ウイルフォード・ウッドラフ第4代大管長は、アロン神権の重要性について次のように証している。「自らの召しを尊んで大いなるものとするなら、祭司も使徒も同等の存在である。祭司は天使の導きの鍵を有している。わたしは生涯で主の守りを最も多く受けたのは、使徒や七十人、長老の職にあったときではなく、祭司の職のときであった。主は示現、啓示、そして聖なる御霊によってわたしに備えられた多くの事柄を明らかにしてくださった。」(The Discourses of Wilford Woodruff『ウィルフォード・ウッドラフ説教集』G・ホーマー・ダラム選、300)

監督の指示の下、アロン神権者は物

心両面にかかわる責任を果たし、主の代理人となる。

執事の責任——聖餐のパスを行う。断食献金を集める。助けを必要とする会員に奉仕する。聖餐会その他で、監督のメッセンジャーとして働く。集会所の美化に努める。地域によっては、若い男性が週日のスカウト活動を通じて地元の地域社会に奉仕する。

教師の責任——執事のすべての職務を保持する。加えて聖餐を準備し、パンと水が十分に用意されていることを確認する。また経験豊かな同僚とともに、ホームティーチャーとして奉仕する。教師はこの責任を通じ、活発な協力者として以下の奉仕を行う。担当家族を見守る。彼らに心を配る。約束を作る。

福音のメッセージを分かち合う。祈りをささげる。奉仕の手を差し伸べる。

祭司の責任——執事と教師のすべての職務を保持する。加えて聖餐を祝福し、バプテスマを施す。また監督の要請があれば、ほかの祭司、教師、執事を聖任する場合もある。

監督／支部長の責任——ワード／支部のアロン神権の長として働く。アロン神権者に対し、定員会のレッスンや活動、スカウト活動（可能な地域）、奉仕の機会への参加を促すことにより、彼らが家庭、家族、神権定員会の大切さを学べるように助ける。副監督および定員会アドバイザー、他の若い男性指導者は、監督がこれらの責任を果たせるよう助ける。□

神権者の心得 / ホームティーチングを必要とする理由

大管長会，十二使徒定員会

かつてアルマはモルモン^{モルモン}の泉で次のように宣言した。教会内でバプテスマを受けようとする者たちは、「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、……いつでも、どのようなことについても、どのような所においても神の証人になることを望んでいる。」(モーサヤ18：8-9)

教会の歴史の中で、今日ほど、このような関心をもって見守る姿勢が求められている時はない。ホームティーチングは主から靈感されたプログラムであり、このプログラムを通して神権者は以上のような奉仕を行う。ホームティーチングの基盤を成す聖句は、「常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強めること」という、神権者に与えられた主の戒めである(教義と聖約20：53)。

ホームティーチングを通して、神権

者はすべての末日聖徒、とりわけ伴侶^{はんりよ}に先立たれた女性、新しい改宗者、あまり活発でない会員のいる家族など、特別な助けを必要とする人々を見守り、強める。

ホームティーチャーは会員を助けるうえで教会の最初のよりどころとなる。彼らは教会員が失業、病気、転居、そのほか緊急の必要が生じる際、助けを行う。また会員が霊的、感情的、そして肉体的な試しに遭うときも手を差し伸べる。そして親が「その子供たちに……主の前をまっすぐに歩むこと〔を〕教え」るように助ける(教義と聖約68：28)。また「彼らは警告し、説き明かし、勧め、教え、またキリストのもとに来るようにすべての人を招〔く〕。」(教義と聖約20：59) 毎月の訪問の際、ホームティーチャーは『聖徒の道』に掲載される大管長会メッセージを伝えなければならない。先輩同僚の指導の下、アロン神権者がメッセー

ジを伝えるよう勧めてもよい。訪問する度に祈る。

アロン神権を有している若い男性は、先輩同僚の全面的な協力者として、約束を作り、福音のメッセージを分かち合い、祈りをささげ、奉仕を行う。

神権指導者は以下の事柄を行い、ワード／支部のホームティーチングを強めることができる。(1) 第1日曜日での話し合いに、ホームティーチングについて盛り込む(2) その月にだれに教え、また教えなかったか、といった特定の割り当てに毎月注意を払う(3) ワード／支部の神権役員会でホームティーチングの割り当てに関し定期的に話し合う(4) ホームティーチングに関する面接を定期的に行う。わたしたちが皆思慮深く、勤勉に、関心をもってホームティーチングを行うことに焦点を当てると、それぞれの神権の召しを尊んで大いなるものとし、バプテスマの聖約を尊ぶようになる。□

家計管理がもたらす祝福

ジャニス・ストリンガム・レフィーバー

わたしたち夫婦が家計管理をするようになってから、数々の祝福にあずかることができました。その幾つかを紹介します。

- 家計管理によって、什分の一やその他の献金を確実に払うことができるようになります。数年前、息子とわたしは交通事故に遭い、車はひどく壊れてしまいました。幸いなことに、わたしたちはシートベルトを締めていたので、けがをすることはありませんでした。その夜、守られたことに対して家族で天父に感謝の祈りをささげましたが、そのときわたしたちが守られたのは、什分の一を忠実に納めていたからである、という強い印象を受けました。
- 家計管理により、金銭にかかわる心理的負担の多くから開放され、心に平安がもたらされます。予期せぬ出費や生活上の小さな緊急事態に備えるために最善の備えをしていると分かれば、心を平静に保つことができます。
- 問題が生じたとき、財政上の責任を果たすために最善の策を講じたこと分かっているため、信仰をもって助けを祈り求められます。家計管理の勧告に忠実に従っていれば、家計が困難なとき

に、天の力に頼る自信が得られるのです（教義と聖約82：10参照）。わたしたち夫婦は、計画を立てるときや財政上の困難を切り抜けようとするときに、聖霊の導きを感じるようになります。息子の最近のがん治療中、支払い義務と収入の間には大きな差がありました。多くの場合は惜しみなく与えてくれる人々を通して、主は天の窓を開き、その差を埋めることができるように祝福してくださいました。

●家計管理をしているので、わたしは専業主婦でいることができました。最初の子の出産直前に、わたしは仕事を辞めました。その当時の家計に感謝しています。その当時の家計が指針となり、支出を抑えながら、家にいて子供を育てる道が開けたからです。

●家計予算の計画に添って生活することで、より高い生活水準を持てるようになりました。家計管理によって無駄遣いに気づき、ほんとうに欲しいものに出費できるようになりました。

●家計管理をしていくうえで、わたしたち夫婦はお互いについてより深く知ることができるようになり、コミュニケーションの技術を向上させることが

できました。財政は生活のほとんどの要素と結びついています。財政上の目標や計画について話し合うとき、多岐にわたる話題に発展していくことがよくあります。例として互いの関係や親戚関係、幼少時代の経験や思い出、退職後の計画、家の改装、休みの計画、神殿参入、主人の仕事にまつわる試練や目標などについて話しますが、ほかにも多くの話題へと発展します。

わたしたち家族は家計管理をすることで得られた多くの祝福に感謝しています。『教義と聖約』には「わたしにとってはすべてが霊にかかわるものであり、わたしはいまだかつて、現世の律法をあなたがたに与えたことがない。……わたしの戒めは霊にかかわるものだからである」と書かれています（教義と聖約29：34、35）。十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老はこのように述べています。「わたしの判断では、家計がしっかりと管理されていないかぎり、生活に調和はあり得ません。」（“Keeping Life's Demands in Balance” *Ensign* 「生活の要求の調和を保つ」『エンサイン』1987年5月号、15）

財政に関する現世の律法を守ること、まことに霊的な祝福がもたらされ、生活に調和をもたらず助けとなっています。□

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1998年8月

以下は、初等協会の指導者が『聖徒の道』1998年8月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる、「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は、「こどものページ」の4ページ「しゅのいましめをまもる」を参照する。

1. 子供たちにモーサヤ18：10を暗記させるため、この聖句を紙に書いて、次に示すように5つに切り分け、封筒に入れたものを5チーム分用意する。各チームに聖句を組み立ててもらおう。同様に、以下のように5つに分けた大きなカードを用意する。〔あなたがた

は〕主からますます豊かに／御霊を注いでいただけるように、／主に仕えて／主の戒めを守る／という聖約を主と交わした。各チームが聖句を正しく並べ終えたら、それぞれのチームに聖句を5つに区切ったカードのうち1枚を渡して暗記させる。すべてのチームが覚えたら、チームごとに順に立って、覚えた聖句を暗唱してもらおう。

2. アンモンの民の物語を話す（アルマ23：24；26：23-33；27参照）。利用できれば、教会付属図書館または『福音の視覚資料セット』の中から、この物語を題材にした絵を掲示する。一人の大人を招いて、王の役を演じて

もらおう。子供たちには、王が経験したことについて、作り物のマイクを使って王の役の人に質問させる。アンモンの民がどれほど真剣に聖約を受け入れたかを子供たちに理解させる。民の中には、得た救しを失うよりはと命を捨てた者たちもいたことを説明する。彼らは戦闘心が起きないよう、どのようにして武器を埋めてしまったか話す。子供たちに剣を描いた絵を配る。子供たちはそれに色を塗って切り抜き、状況が許せば、家に持ち帰って埋める。

3. 年長の子供たちに、モーサヤ18：8-11（アルマのモルモンの泉での物語）を黙読させる。次の語句を書

いたカードを配る。互いに重荷を負い合う；悲しむ者とともに悲しむ；慰めの要る者を慰める；いつでも神の証人になる。これらの言葉から具体的に何をすればよいのか、子供たちに話してもらう。あるいは、子供たちがあこがれている人の事例を話してもらう。神は約束を守られるので、わたしたちも約束を守らなければならないというあなたの証を述べて締めくくる。

4. 監督または支部長の許可を得て、若い男性または帰還して間もない宣教師4人に、2,000人の若い兵士の物語（アルマ53：10-23；56-58参照）を研究するように依頼する。各人に、次

の4つのパートについて初等協会で話すよう割り当てる。(1) アンモンの民はどのような理由から、どのような方法で聖約を交わしたか（アルマ53：10-15参照）；(2) なぜ若い兵士たちは自由のために武器を取ろうとしたのか、彼らはどのような若者たちだったか、青年たちはどのようにしてヒラマンが自分たちの指導者になることを願ったのか（アルマ53：16-23参照）；(3) 若い兵士たちはレーマン人の軍隊を町からおびき出してから、アンテプスの軍隊を助けるために引き返した（アルマ56：30-54参照）；(4) なぜこの息子たちは母親の約束か

ら大きな勇気を得ていたか（アルマ56：47-48参照）、また彼らは主を信じていたので、主によってどのように守られたか（アルマ56：55-57；57：25-27参照）。さらに、一人またはそれ以上の若い男性に、主を信じてその戒めを守ることの大切さを学んだ経験を話してもらう。

5. このほかに約束や聖約に関する資料については、「バプテスマ——はじめてのせいやく」『聖徒の道』1997年5月号、4-5を参照する。子供たちの注目を集めやすい戒めや聖約は、「福音の標準」『聖徒の道』1997年2月号、14-15に掲載されている。□

新伝道部長紹介



日本神戸伝道部

デビッド・フランクリン・ロバートソン（57歳）、日本神戸伝道部の新部長。ニューヨーク州ヨ

ークタウンステーク、スタンフォード第1ワード出身。現在ステーク会長会副会長。これまで地区報道部員、ステーク会長会副会長、高等評議員、監督、副監督、大祭司グループリーダーを歴任。北部極東伝道部で専任宣教師として働いた。IBM社のブランド・マネージャー。ユタ州立大学で電子工学の学士号を取得、南カリフォルニア大学にも在籍した。ユタ州ローガンで、ボン・ホイト・ロバートソンおよびクラリス・ビルダ・アンダーソン・ロバートソン夫妻のもとに生まれる。メアリー・マクドナルド姉妹と結婚。7人の子供に恵まれている。メアリー姉妹は現在扶助協会慈善奉仕指導者および託児指導者。地区報道部員、ステーク若い女性会長会副会長、扶助協会会長、若い女性会長、セミナー教師、初等協会教師、ボーイスカウト委員長を歴任。レッドランズ大学で学士号を取得し、話法、英語、教育および音楽を学んだ。ユタ州立大学にも在籍した。ソ

ルトレーク・シティーで、バーデル・ジョン・マクドナルド、メアリー・エリザベス・デイビス・マクドナルド夫妻のもとに生まれた。□



韓国大田伝道部

デビッド・リン・ウォーデル（58歳）。韓国大田伝道部の新部長。アリゾナ州メサ

南ステーク、メサ第9ワード出身。これまで、高等評議員、ステーク若い男性副会長、ワード若い男性会長および副会長、エクスプローラー・アドバイザー、バースィティー・コーチ、スカウト隊長、地方部長、副伝道部長、北部極東伝道部専任宣教師などの召しを歴任している。実業家。アイダホ州ドリッグズで、デビッド・キース・ウォーデル、ラリーナ・クリステンセン・ウォーデル夫妻の間に生まれた。ジャネット・ステイブンス姉妹と結婚し、6人の子供に恵まれている。ジャネット姉妹は召されたとき、ステーク若い女性副会長の任にあった。これまで、ステーク初等協会副会長、ステークガールズキャンプディレクター、ワード若い女性会長および副会長、扶助協会会長、扶助協

会管理会員、聖歌隊ディレクター、若い女性アドバイザーなどの召しを歴任している。プリガム・ヤング大学とユタ州立大学で学んだ。ソルトレーク・シティーで、フランク・チェスター・ステイブンス、ナンシー・ホイッテカー・テラー・ステイブンス夫妻のもとに生まれた。□



韓国ソウル西伝道部

ミンハイキエ 閔 惠基（48歳）、韓国ソウル西伝道部の新部長。韓国釜山ステーク、釜山第3ワ

ード出身。現在伝道部長会副部長の任にある。これまで地区代表、ステーク会長、地方部長会副部長、監督を歴任。現インスティテュートディレクター。東亜大学にて建築学士号および教育修士号を取得。韓国慶南にて、閔丙杓および孫仁奎夫妻のもとに生まれる。金星淑姉妹と結婚し、一人の子供に恵まれている。金星淑姉妹は現在ワード扶助協会会長を務めている。ステーク音楽委員長、ステーク扶助協会会長会副会長、日曜学校教師を歴任。韓国釜山にて、金亨経、朴福熙夫妻のもとに生まれた。□

広島光ビル新築工事^{くわい}鍬入れ式

広島市の光町に、地下1階地上6階建ての複合教会施設ビル建築が計画されています。その新築工事鍬入れ式が、去る2月21日、和やかに執り行われました。アジア北地域会長会会長のレックス・D・ピネガー長老管理の下、岡山伝道部のノーマン・D・シヤムウェイ部長ご夫妻、教会教育部広島地区の指導主事を務める林 徹兄弟、また地元である広島光ワードの兄弟姉妹および工事関係者を含む50人を超える出席がありました。

式は上野敏幸前広島ステーキ会長の司会で始まり、北村正隆地域監督が、土地取得のときからこの地の主の業の発展とともに推移した^{こんにち}今日までの経緯を、思い出を交えて話しました。またピネガー長老が、工事関係者とこの建物にかかわるすべての人々に向けて、愛と霊性に満ちたメッセージを伝えられました。その後、参加者全員が鍬入れの儀に加わり、これから行われる工事の無事とすばらしい建物の完成を祈りました。



この建物は法律で許される最大規模の面積(全7階層、延べ床面積1,550平方メートル〔470坪〕)で計画され、広島光ワードと広島ステーキ、そして教会教育部広島地区のために、さらに将来を見越して2階層分はその他の目的に供されます。JR広島駅新幹線口より歩いて3分の見通しの良い通りに面しており、この上ない好条件の立地とい

えます。完成予定は1998年10月末、周囲の景観に溶け込んだ近代的な外観のビルとなる予定です。

現在建設工事は予定どおり順調に進められており、鉄骨の骨組みが姿を現し、会員たちや道行く人々に見守られながら完成を待っています。(レポーター：吉村信之、管理本部総合施設部教会設計士)

教会堂建築用地が寄贈される

去る2月20日、山口地方部山口支部に集う^{おきむらかずお}沖村一夫兄弟が、山口市の市街地に位置する898平方メートル(約271坪)の土地を「教会堂建築用地に役立ててほしい」として教会に寄贈された。沖村兄弟は、温泉^{のボーリング}のボーリングなどを専門とする会社「明星エンジニアリング(株)」を経営されており、この土地はそれまで会社の資材置場として使われていた。将来、山口支部の教会堂の建築が予定されている。

沖村兄弟は1922年生まれ、1958年に改宗された初期からの会員。1990年に改宗された奥様の周子^{ちかこ}姉妹とともに、東京神殿で神殿宣教師としても奉仕された。現在、山口支部の長老定員会会長に召されている。



土地登記書類をアジア北地域会長会会長のレックス・D・ピネガー長老に手渡す沖村ご夫妻(写真中央)。左は北村正隆地域監督と管理本部法務部代表のケント・ギルバート兄弟。

沖村ご夫妻は「毎朝6時に起きて、自宅から現地まで散歩し、早く教会堂

が建つようにとお祈りをしています」と語った。□

岡山伝道部の宣教師が 火事の現場で救援活動

『読売新聞』山口県版 1998年1月26日付

今年一月中旬、隣家から
出火した火災で、山口市門
前町の自宅を全焼した無職
白井 純さん(65)が二十五
日、火事の時に助けてくれ
た入の米国人宣教師と対



がっちり握手する白井さん(左)
とライトさん(中)、ヘッカーさん

米人宣教師2人に感謝

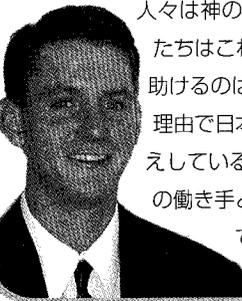
火事の際 勇敢な救援活動

山口の被災者

井が燃えていた。もう少し
遅かったらどうなっていた
か。火事を見物する人は多
くも手伝う人は少ないた
けでもうれしかった。と
勇敢な行いをたたえ、

ん(19)。布敷活動で歩いて
いた際に火事に気付く。逃
げ遅れた人がいないか建物
を巡回。壁に残っていた白
井さんに知らせ、衣類や家
財道具を運び出すを手伝
った。翌日も白井さんを訪
ね、出来ることはないか申
し出た。
同市駅通りの米国宣教師イ
エス・キリスト教会で対面
した白井さんは「二人の勇
気で火事に気付いたときは天

火事について思い返してみると、わたしたちは驚くべきことや英雄的なことは何もしていないように思います。わたしたちはただイエス・キリストの模範に従おうとただけでした。新聞のインタビューの中で白井さんはこう繰り返しおっしゃいました。多くの人が火事を見物している中、実際に助けようとした人がいかに少なかったかということに驚いたと。そして彼は、何がわたしたちを奮い立たせ、自分を助けさせたのか、とわたしたちに尋ねました。わたしたちは彼に、すべての人々は神の子であり、兄弟姉妹であること、またわたしたちはこれが真実であると知っているの、ほかの人を助けるのは簡単であったことを伝えました。そしてその理由で日本にやって来て、すばらしいメッセージをお伝えしているということを伝える機会にもなりました。神の働き手として、神の息子の一人の必要を助けることができ、ほんとうにうれしく思います。(元岡山伝道部専任宣教師 クリスチャン・ライト長老)



元岡山伝道部専任宣教師 クリスチャン・ライト長老

ロシアの孤児院にキルトが届いた!

東京東ステーキ扶助協会の姉妹たちが学んだ奉仕の喜び

東京東ステーキ扶助協会第一副会長
河南富智子

「どうして今ごろこんなことをしなければならぬのだろう。みんな忙しいし、ホームメイキングでいろいろなことを習ってもどれも中途半端で押入れの隅に押し込まれているの。ましてやこんな細々したキルトを作るなんて到底無理。地元で助けなければならない人がいるというのに何でよその国の人を助ける余裕があるの……。」ステーキホームメイキング担当副会長のわたしがいちばん最初に心に思ったことと、各ワードの会長がその発表を聞いて出てきた言葉はほとんど同じでした。

ステーキ扶助協会会長の井上禮子姉妹は、このステーキに必要なことは何だろうと常々考えていました。あるとき1996年3月号の『聖徒の道』を読んでいると、「姉妹たちへの愛」というテーマの記事とともに、みんなが力を合わ

せて1枚のキルトに取り組んでいる写真が載っていました。それを見た瞬間、井上姉妹は「これだ。これこそわたしたちの扶助協会に必要なことなんだ」と心の中で叫んだのでした。

今までのホームメイキングでは、自分たちのために学び、作るということは多くても、姉妹たちが一致して、ほかの人のために何かをするという活動はあまりありませんでした。

ステーキ扶助協会会長会でよく検討した後、一昨年夏の訓練集会で井上会長は「来年のステーキ扶助協会大会に向けてできれば各ワード10枚くらいのキルトを作りましょう、そしてできあがったキルトを恵まれない国に送りましょう」と提案しました。そのときの反応が冒頭のようなものだったのです。

しかしわたしたちは「従うことは犠牲にまさる(サムエル上15:22)」という聖句を思い起こし、会長が受けた啓示に耳を傾け、結果はよく分からなくても

従おうという気持ちになってきました。

その後、アジア北地域会長会会長夫人のピネガー姉妹から「東ロシアのウラジオストックの孤児院に援助をしては……」という提案がありました。ウラジオストックは、東京に管理本部を置くアジア北地域に含まれる都市で、東京から日本の北の端や南の端に行くのと変わらないくらいの距離であることも分かりました。わたしたちは4歳から7歳の孤児60人全員が同じベージュ色のベッドに眠っていることを思い浮かべ、そんな彼らが色とりどりのかわいいベッドカバーにくるまれて休む姿を想像すると「やりましょう!」という気持ちになったのです。

またさらにわたしたちは「愛のプロジェクト運動」にも取り組みました。まず32cm×22cmのひも付きの布の袋を作り、そこへ初等協会の子供たちが自分の大切にしていた小さいおもちゃ、文具、小物などを詰めました。約250個

のポシェットが用意されました。その中のいくつかは教会指導者の手によってフィリピンの施設に運ばれ、小さな子供たちに大変喜ばれました。

1997年5月10日、ステーキ扶助協会大会には何と約90枚のキルトが展示されました。一枚一枚のキルトに込められた数多くの姉妹たちの愛と一致の精神に、主はあふれるばかりの豊かな愛を注がれました。キルトに囲まれて座った姉妹たちの心は熱い御霊の力に満たされたようでした。



や連絡に当たってくださいました。またこのことを通して、多くの政府や教育関係者の方々が末日聖徒の活動について理解

ちに受け継がれています。一針一針に愛と信仰を込めてこの先も受け継がれていくことでしょう。

このポシェットとキルトのプロジェクトを通して、自分自身が扶助協会の会員であることを心から誇りに思い、慈善の必要な人々を探し求め愛を分かち合うことのできる自分自身に対しても良い気持ちを感じることができました。また、指導者に従うことも学びました。自分の意志と異なることを指導者から提案されたときは、どうすればいいのか自分自身でよく考え、そのうえで御霊の導きを受けることができます。もし、御霊から受けた答えが自分の意志と違っていても何も心配することはありません。その理由は分からなくても必ず神様が助けてくださいます。扶助協会とは何とすばらしい集まりなのでしょう。わたしたちが必要とするすべてのことを学ぶことができるのですから。(かわみなみ・ふじこ)

その後、これらのキルトやポシェットがウラジオストックの孤児院に届くまでには、予想をはるかに超える国際間の数々の制約のため、1年近くの時間がかかりました。その間には、「もしかしたら孤児院には届かないかもしれない、ロシアのどこかでキルトを必要としている人たちがこれを使ってくれるならそれでもいいかもしれない」と正直なところあきらめかけたこともありましたが、ウラジオストックで奉仕して下さっているブラッドフィールド長老ご夫妻や、日本の奉仕宣教師で福祉を担当している平野長老ご夫妻は「決してあきらめないように」とわたしたちを励まし、この半年以上の間ロシアと日本の関係諸機関との交渉

して下さる良い機会となりました。1998年5月9日、わたしたちは再び新たな目的で扶助協会大会を催しました。このとき、4月に孤児院に届いたばかりのキルトをうれしそうに両手で持っている子供たちや、ベッドに広げて幸せそうな顔をしている子供たちの写真を見る機会がありました。つくづく送ってよかったと思いました。

扶助協会の目的は、貧しい人の必要に心を向けること、すなわち慈善の必要な人々を探し求めその必要を満たすこと、そして人々の霊を救うことにあります。1842年、ノーブー神殿で働く人々のためにシャツを作ったという扶助協会の原点にあった精神は、150年以上たっても、国が違って、わたした

善意の作品をお届けするまでのこと アジア北地域福祉主事 平野勝也

近年は日本も厳しい経済状況の中にあるとはいえ、視野を広げて世界を見ると、衣・食・住が満たされて生活している人々は世界人口のわずか3割にも達していないと言われています。

教会福祉の大切な教えである「まず自立して、貧しい人や助けの必要な人に手を差し伸べる」という原則を、教会員であるわたしたちは常に心がけて実践する必要があります。

この度、東京東ステーキの扶助協会の

姉妹たちが東ロシアのウラジオストックにある孤児院などに贈ったキルトやポシェットは、日常的な考えを超えた奉仕であり、そのことによって大きな一致と喜びを得られたことがよく分かります。しかし一方では、今回の援助活動を通してわたしたちが学んだことも多くあります。それは国際間の話になると、何とも複雑な規制や法律が多くあって、その壁を越えることがほんとうに困難であったということです。扶助協会の姉妹たちがお作りにな

った作品が孤児院に届くまで何と1年近くもかかってしまったのです。多くの人々の協力があったにもかかわらず、国によっては人の善意が政治体制や法律の壁に阻まれて思いどおりにはいかないというのが現実でした。

近い将来に、日本の聖徒が近隣の国の人々に対して助けの手を自由に伸べられる日の来ることを願って、今、国内でできる多くのことをもって実践したいという思いを強くしました。(ひらの・かつや)

ごす時間を多く持ちたいと考えていたからです。

ところがそんな店にも最初の転機が訪れました。商品の増加や駐車場問題のため、ウェスタストア部分を移転することになったのです。これまでのウェスタン衣料と表札・印鑑が混在していた裏通りの小さな店から、阿蘇観光ルート沿いの大きなウェスタン衣料専門店に生まれ変わったのです。お得意様からの要望もあって、今までのように日曜、祝日を休むわけにはいなくなり、第1・第3木曜日を定休日としてスタートしました。

もちろんそのとき、主に祈り求めましたが、今思えば、最初から自分に都合の良い答えを期待した祈りはほんとうの祈りではなかったようです。移転後、売り上げも順調に伸び、表面上は成功したかに思えました。しかし時がたつにつれ、子供たちとのすれ違いが起こり始め、家庭の夕べを開かなくなり、家族の祈りもうわべだけの形式的なものとなり、やがては聖典も開かなくなってしまうました。訪ねてくださるホームティーチャーや訪問教師の存在さえ、うっとうしく感じ、本格的なお休み会員への道を歩み始めました。考え方や行動も常に批判的になり、トラブルが絶えなくなりました。そんな中で唯一の救いは、家族全員が知恵の言葉をきちんと守れたことと、形式的とはいえ祈りの習慣を保つことができたということです。

そして次の転機がわたしたち家族を訪れました。次女が8歳の誕生日を迎える時が来たのです。教会を完全に離れていたわたしたち夫婦は、気が重いながらも彼女にバプテスマを受けたいかを尋ねました。すると次女は、わたしたちの意に反して受けたいと言いました。

さあ大変です。彼女の希望に添うには、それまで長い間お休み会員としてためてきたあかを急いで落とさなければなりません。当時の地方部の伝道部長さんに相談して、まず家族全員で小さい集会から参加を始め、少しずつ教会に慣れていくことにしました。そして無事にバプテスマも終え、姉妹と子

供たちだけが教会へ集う日々が始まりました。1か月、2か月とたつうちに、姉妹は少しずつ変化を始め、3、4か月たったころには毎週のように、その日に日曜学校で学んだことや聖餐会で聞いた証^{あかし}の話をしながら「家族そろって教会に行ければいいね」と言うようになりました。しかしその都度わたしは、日曜日が売上げのかなりの比重を占めている店の現状を説明しては反論していました。

そんなある日、今度は最も大きな転機が訪れました。いつも日曜日には教会に行けるはずがないと思い込んでいたわたしの気持ちの中に少し、店の営業の時間を調整すれば何とかかなのでは、という思いが起きました。それをサタンが察知したのでしょうか、そうはさせじと最大の妨害が始まりました。普段、とても素直な良い子である子供たちが、二人それぞれに学校で、いつもだったら考えられないような問題を起こしてできたのです。あまりの事態にわたしたち親の側もうろたえて怒りをあらわにしてしまい、大げさに言えば家族崩壊の一步手前というところまで陥ってしまいました。

そのときです。わたしたち夫婦は「明日から家族そろって教会へ行こう!」との強い思いを、確かに心に感じる事ができたのです。まるでジョセフ・スミスが最初に森に入って祈ったとき、大きな暗黒の力に押しつぶされそうになった後、天から真っ白な光に包まれて二人の御方が降りて来られたようでした。そして夫婦で心から感謝の祈りをささげたとき、今までわたしたち家族が教会へ帰ることができるよう熱心に祈ってくださった方々の顔が次々に浮かんできて、感謝の気持ちでいっぱいになり、涙があふれてきました。

早速、店の表に定休日変更のはり紙をし、翌日、すがすがしい気持ちで家族そろって日曜日の教会に出席しました。まるで新会員に戻ったような照れくさい気持ちでしたが、周囲の方々は自然に温かく迎えてくださいました。不思議と店のことがまったく気になり



ませんでした。その理由は週を重ねるごとに少しずつ分かってきました。

お客様の中で日曜日にしか来るのでできない方の苦情が想像よりもずっと少なく、また、定休日変更の理由を説明するときも、正直に教会へ戻ったためだと告げると、好意的な見方さえしていただきます。そして何より、これまで日曜日中心だった店の売上げの数字が、平日のみで以前より上回るようになり始めたのです。何とすばらしい祝福でしょう。わたしたちが100パーセント主に頼ることにより、これほどの大きな変化がもたらされ、また一つ強い証を持つことができたのです。

そして今回が、わたしたち家族にとって真の改宗であったように思います。仕事や家庭での場面一つ一つにおいて主に頼り、心から祈ることができるようになりました。まだまだすべてではありませんが、多くの答えを頂けるようになりました。形式的な祈りをしていたころとは大違いです。このように心の変化を経験できたことをほんとうに感謝しています。この教会が真実の教会であり、御父と御子が確かに生きてわたしたち一人一人を導いてくださっていることを心から証いたします。(いのうえ・けんじ ワード伝道主任)

専任宣教師

1998年6月(225期生) 14人, 海外1人 ●上から氏名, 任地(伝道地), 出身ユニット



あまの しのぶ
天野 慎人
福岡伝道部
東京西ステーキ
国立ワード



いのうえしやういちろう
井上 正一郎
東京北伝道部
岡山ステーキ
松江ワード



かき きまこと
柿木 真人
福岡伝道部
東京ステーキ
所沢ワード



さいとう かつゆき
斉藤 和幸
神戸伝道部
東京東ステーキ
長生ワード



しんの たけ
新野 武
名古屋伝道部
東京東ステーキ
長生ワード



たかいし かよこ
高石 佳代子
東京南伝道部
福岡ステーキ
北九州ワード



たかはし あや
高橋 紇
札幌伝道部
京都ステーキ
下鴨ワード



たぐちもと こ
田口 素子
仙台伝道部
横浜ステーキ
鶴見ワード



ながおか みのる
長岡 実
岡山伝道部
町田ステーキ
町田第1ワード



ほり いけんいちろう
堀井 健一郎
岡山伝道部
新潟地方部
新潟支部



まつざわ つとむ
松澤 努
岡山伝道部
名古屋ステーキ
豊橋ワード



みずた だいち
水田 大地
仙台伝道部
名古屋西ステーキ
御所所ワード



よしもら みほ
吉村 美保
名古屋伝道部
福岡ステーキ
北九州ワード



ナターリア・P・ロハス
福岡伝道部
チリ, チュンステーキ
キジョン支部



おやまつけい こ
新谷 松恵子
カリフォルニア州
アナハイム伝道部
東京南ステーキ
渋谷ワード

役員の変動

1998年6月4日から7月3日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 鹿兒島地方部都城支部
支部長: 中條 淳
- 東京南ステーキ渋谷ワード
監督: Folsom, Lee Richard
- 日本熊本ステーキ
第二副会長: 七條 典明
- 静岡ステーキ富士ワード
監督: 松本 哲典
- 長野地方部長野支部
支部長: 丹治 雅彦
- 長野地方部諏訪支部
支部長: 浅間 玄也
- 広島ステーキ岩国支部
支部長: 大畑 浩一

皆さんの原稿を募集しています

◎「チャーチ・ニュース」では, 現在以下のテーマについての記事を募集しています。

●祈りについての証

1998年9月16日必着で下記までお寄せください。できれば写真を同封してください。

◎その他, 一般のご投稿も歓迎いたします。

◎ご投稿の際には連絡先(住所, 電話番号), 教会での責任(役職名), 所属ユニット名を記入し, 写真を同封のうえお送りください。採用された原稿は編集の際, 要約や手直しをさせていただきます。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。伝道の召しを受け取られ次第, 編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕, 伝道部名, MTC入所予定月を明記)

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

ブックセンターだより

●新刊の紹介

『人生の目的』 カタログ番号32680 300

A5変形 オールカラー16ページ

定価30円



「いつまでも変わらないほんとうの平安と幸せを見つけること……それが人生の目的ではないでしょうか。でも, そのような平安と幸せはどこにあるのでしょうか。」……

このパンフレットは, 人がこの世で追求する様々な目的について採り上げている。美しい写真と一般の方にも分かりやすいテーマで福音の本質を紹介する。新会員や伝道に好適。